表7 掲載遺物観察表 (6)

掲載番号	種別	器種	出土層・遺構	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土・混和材	法量 口径(長軸)	法量 底径(短軸)	法量 器高(厚さ)	法量 重量	備考
131	縄文土器	浅鉢	XⅢ層	横ナデ 横方向の指ナデ	横ナデ ケズリのちナデ	灰黄褐色	褐灰色	2㎜以下の鉱物・砂粒					ススの付着
132	縄文土器	浅鉢	XⅡ層	横方向のミガキ	横方向のミガキ	灰褐色	にぶい黄橙色	3㎜以下の鉱物・砂粒					ススの付着
133	縄文土器	浅鉢	XⅢ層	横方向のミガキ 横方向のナデ	横方向のミガキ	にぶい褐色	にぶい赤褐色	4㎜以下の鉱物・砂粒					ススの付着
134	縄文土器	浅鉢	XⅢ層	横斜方向のナデ	横ナデ後ミガキ	―	褐色	1㎜以下の鉱物・砂粒					ススの付着
135	縄文土器	浅鉢	XⅢ層	横方向のナデ 組織痕	横方向のケズリのちナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	7㎜以下の鉱物・砂粒					編布圧痕
136	縄文土器	浅鉢	XⅠ層	組織痕	ナデ	灰白色	にぶい黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					編布圧痕
137	縄文土器	浅鉢	Ⅸ層	組織痕	ミガキ	黒褐色	黒褐色	ごく微小の鉱物・砂粒					編布圧痕
138	縄文土器	浅鉢	XⅠ層	組織痕	ミガキ	にぶい橙色	灰褐色	3㎜以下の鉱物・砂粒					編布圧痕
139	縄文土器	浅鉢	XⅡ層	組織痕	ミガキ	にぶい橙色	褐灰色	ごく微小の鉱物・砂粒					編布圧痕 炭化物付着
140	縄文土器	浅鉢	XⅠ層	組織痕	ミガキ	浅黄橙色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒					編布圧痕
141	縄文土器	浅鉢	XⅡ層	組織痕	ミガキ	浅黄橙色	黒褐色	3㎜以下の鉱物・砂粒					編布圧痕
142	土師器	坏	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	橙色	1㎜以下の鉱物・砂粒	13.6cm	6.5cm	5.0cm		(反転復元) 底部ヘラ切り
143	土師器	坏	X層	回転ナデ	丁寧なナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	13.2cm	7.0cm	4.4cm		(反転復元)
144	土師器	坏	XⅡ層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	12.5cm	4.3cm	5.2cm		(一部反転) 底部ヘラ切り
145	土師器	坏	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	12.5cm	4.6cm	5.0cm		(一部反転) 底部ヘラ切り
146	土師器	坏	XⅡ層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	12.6cm	5.7cm	6.6cm		(一部反転)
147	土師器	坏	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	12.3cm	5.3cm	4.9cm		
148	土師器	坏	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	12.4cm	5.0cm	4.8cm		(反転復元) 底部ヘラ切り
149	土師器	坏	XⅢ層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	11.9cm	5.0cm	5.0cm		(一部反転) 底部ヘラ切り
150	土師器	坏	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	灰白色	2㎜以下の鉱物・砂粒	12.0cm	4.2cm	4.9cm		底部ヘラ切り
151	土師器	坏	X層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	11.8cm	4.5cm	4.9cm		(反転復元) 底部ヘラ切り
152	土師器	坏	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒	11.9cm	4.5cm	4.6cm		(反転復元) 底部ヘラ切り
153	土師器	坏	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	にぶい黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	11.8cm	4.6cm	4.8cm		底部ヘラ切り スス付着
154	土師器	坏	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	12.0cm	5.0cm	4.6cm		底部ヘラ切り 指頭痕あり
155	土師器	坏	XⅢ層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	11.9cm	5.0cm	4.1cm		(一部反転) 底部ヘラ切り
156	土師器	坏	X層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒	11.6cm	4.8cm	5.8cm		底部ヘラ切り

表8 掲載遺物観察表 (7)

掲載番号	種別	器種	出土層・遺構	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土・混和材	法量 口径(長軸)	法量 底径(短軸)	法量 器高(厚さ)	法量 重量	備考
157	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	灰黄色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	11.4cm	4.9cm	5.1cm		(一部反転) 底部ヘラ切り
158	土師器	坏	X層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	11.4cm	5.0cm	5.3cm		(反転復元) 底部ヘラ切り
159	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	11.3cm	4.5cm	4.3cm		底部ヘラ切り
160	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	11.3cm	4.8cm	4.8cm		底部ヘラ切り
161	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	3mm以下の鉱物・砂粒	11.3cm	5.5cm	4.9cm		底部ヘラ切り
162	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	11.4cm	5.0cm	5.2cm		(一部反転) 底部ヘラ切り
163	土師器	坏	X層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	11.3cm	5.8cm	4.0cm		(反転復元)
164	土師器	坏	XIII層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒	10.3cm	5.1cm	4.2cm		底部ヘラ切り
165	土師器	坏	XIII層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	3mm以下の鉱物・砂粒	10.0cm	5.4cm	3.5cm		(一部反転) 底部ヘラ切り
166	土師器	坏	X層	回転ナデ	回転ナデ	橙色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒	9.2cm	5.5cm	2.9cm		(一部反転) 底部ヘラ切り
167	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒		5.4cm			底部ヘラ切り
168	土師器	坏	XII層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒		5.5cm			底部ヘラ切り
169	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					底部ヘラ切り スス付着
170	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒		5.0cm			(一部反転) 底部ヘラ切り
171	土師器	坏	VII層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒		5.0cm			底部ヘラ切り
172	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒		5.3cm			底部ヘラ切り
173	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	赤灰色	淡赤橙色	ごく微小の鉱物・砂粒		5.5cm			底部ヘラ切り
174	土師器	坏	X層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰色	ごく微小の鉱物・砂粒		5.2cm			底部ヘラ切り
175	土師器	坏	VII層	回転ナデ	回転ナデ	橙色	橙色	ごく微小の鉱物・砂粒		4.9cm			底部ヘラ切り
176	土師器	坏	X層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒		5.0cm			(一部反転) 底部ヘラ切り
177	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	1mm以下の鉱物・砂粒		4.9cm			底部ヘラ切り
178	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	1mm以下の鉱物・砂粒		4.7cm			(一部反転) 底部ヘラ切り
179	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	明褐灰色	にぶい橙色	1mm以下の鉱物・砂粒		4.5cm			底部ヘラ切り
180	土師器	坏	X層	回転ナデ	回転ナデ	橙色	橙色	ごく微小の鉱物・砂粒		5.4cm			底部ヘラ切り
181	土師器	坏	VII層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒		5.1cm			底部ヘラ切り
182	土師器	坏	XIII層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒		4.3cm			底部ヘラ切り

表9　掲載遺物観察表（8）

掲載番号	種別	器種	出土層・遺構	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土・混和材	法量 口径（長軸）	法量 底径（短軸）	法量 器高（厚さ）	法量 重量	備考
183	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒		4.3cm			底部ヘラ切り
184	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒		4.5cm			（一部反転）底部ヘラ切り
185	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	橙色	橙色	2mm以下の鉱物・砂粒		4.5cm			（一部反転）底部ヘラ切り
186	土師器	坏	VIII層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒		4.5cm			底部ヘラ切り
187	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	橙色	にぶい橙色	1mm以下の鉱物・砂粒		4.4cm			底部ヘラ切り
188	土師器	坏	XII層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい褐色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	13.9cm	6.2cm	6.3cm		（一部反転）底部ヘラ切り
189	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	13.7cm	6.8cm	6.5cm		底部ヘラ切り
190	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	13.8cm	6.3cm	6.2cm		（反転復元）底部ヘラ切り
191	土師器	坏	IX層	回転ナデ	回転ナデ	橙色	橙色	1mm以下の鉱物・砂粒	13.3cm	6.0cm	6.4cm		（一部反転）底部ヘラ切り
192	土師器	坏	VII層	回転ナデ	回転ナデ	橙色	橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	13.2cm	6.2cm	6.1cm		（反転復元）
193	土師器	坏	XII層	回転ナデ	回転ナデ	橙色	橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	12.3cm	5.1cm	5.1cm		（一部反転）底部ヘラ切り
194	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	13.5cm	6.1cm	6.2cm		底部ヘラ切り
195	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	13.5cm	5.9cm	5.5cm		（一部反転）底部ヘラ切り
196	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	浅黄橙色	2mm以下の鉱物・砂粒		7.0cm			底部ヘラ切り
197	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒		6.6cm			底部ヘラ切り ススの付着
198	土師器	坏	XIII層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒		6.8cm			底部ヘラ切り
199	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	灰褐色	明褐灰色	ごく微小の鉱物・砂粒		6.6cm			ススの付着
200	土師器	坏	XII層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒		6.6cm			（一部反転）底部ヘラ切り
201	土師器	坏	IX層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒		6.2cm			底部ヘラ切り
202	土師器	坏	IX層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	3mm以下の鉱物・砂粒		6.3cm			底部ヘラ切り
203	土師器	坏	VIII層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒		6.2cm			底部ヘラ切り
204	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒		6.0cm			（一部反転）底部ヘラ切り
205	土師器	坏	VII層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒		6.2cm			底部ヘラ切り
206	土師器	坏	X層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	橙色	ごく微小の鉱物・砂粒		6.0cm			（一部反転）底部ヘラ切り
207	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒		5.9cm			（一部反転）底部ヘラ切り
208	土師器	坏	XI層	回転ナデ	ミガキ？	にぶい橙色	灰白色	2mm以下の鉱物・砂粒		5.8cm			

表10 掲載遺物観察表 (9)

掲載番号	種別	器種	出土層・遺構	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土・混和材	法量 口径(長軸)	法量 底径(短軸)	法量 器高(厚さ)	法量 重量	備考
209	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	明褐灰色	明褐灰色	2㎜以下の鉱物・砂粒		5.6cm			底部ヘラ切り
210	土師器	坏	IX層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	浅黄橙色	3㎜以下の鉱物・砂粒		5.1cm			底部ヘラ切り
211	土師器	坏	X層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒		5.2cm			(一部反転) 底部ヘラ切り
212	土師器	坏	XI層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	灰白色	2㎜以下の鉱物・砂粒		6.4cm			(一部反転) 底部ヘラ切り
213	土師器	坏	XIII層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	ごく微小の鉱物・砂粒		5.5cm			スス付着
214	土師器	坏	X層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒		5.7cm			(一部反転) 底部ヘラ切り
215	土師器	坏	IX層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	5㎜以下の鉱物・砂粒		8.2cm			指頭痕あり
216	土師器	坏か椀	VII層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	—	4㎜以下の鉱物・砂粒	17.0cm				(一部反転)
217	土師器	坏か椀	XIII層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	17.0cm				(反転復元) スス・炭化物
218	土師器	椀?	X層	回転ナデのち ミガキ	回転ナデのち ミガキ	灰黄色	灰黄色	ごく微小の鉱物・砂粒	16.6cm				(反転復元)
219	土師器	坏か椀	XI層	回転ナデ	回転ナデ	橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	16.2cm				
220	土師器	坏か椀	XI層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	15.2cm				(反転復元) スス付着
221	土師器	坏か椀	XI層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	14.3cm				(一部反転)
222	土師器	坏か椀	XIII層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒	13.7cm				(一部反転)
223	土師器	坏か椀	XI層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	13.8cm				(一部反転)
224	土師器	坏か椀	XII層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	13.4cm				(反転復元)
225	土師器	坏か椀	XI層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	12.6cm				(反転復元)
226	土師器	坏か椀	X層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	12.8cm				(反転復元)
227	土師器	坏か椀	XI層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	6.6cm				(一部反転)
228	土師器	坏か椀	XI層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	11.6cm				(反転復元) スス・炭化物
229	土師器	坏か椀	X層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒	11.0cm				(一部反転)
230	土師器	高台付椀	XI層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	15.0cm	9.0cm	8.3cm		(一部反転) 底部ヘラ切り
231	土師器	高台付椀	XI層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	2㎜以下の鉱物・砂粒	15.5cm	8.3cm	6.8cm		
232	土師器	高台付椀	XI層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	15.3cm	8.6cm	8.6cm		底部ヘラ切り
233	土師器	高台付椀	XI層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	5㎜以下の鉱物・砂粒	13.2cm	6.4cm	6.2cm		(一部反転) 底部ヘラ切り
234	土師器	高台付椀	IX・X・XI層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	16.2cm	6.4cm	5.5cm		(一部反転) 底部ヘラ切り

表11 掲載遺物観察表 (10)

掲載番号	種別	器種	出土層・遺構	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土・混和材	法量 口径(長軸)	法量 底径(短軸)	法量 器高(厚さ)	法量 重量	備考
235	土師器	高台付椀	XⅢ層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	15.0cm	7.6cm	6.9cm		(一部反転) 底部ヘラ切り
236	土師器	高台付椀	Ⅸ・XⅠ層	回転ナデのち ミガキ	回転ナデのち ミガキ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒	16.4cm	6.1cm	6.3cm		(一部反転) 底部ヘラ切り
237	土師器	高台付椀	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	15.6cm				底部ヘラ切り
238	土師器	高台付椀	Ⅸ・X・XⅠ層	回転ナデのち ミガキ	回転ナデのち ミガキ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒	14.8cm	6.0cm	5.4cm		(反転復元)
239	土師器	高台付椀	XⅢ層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒	15.8cm				(反転復元)
240	土師器	高台付椀	X層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒		8.2cm			(一部反転) スス付着
241	土師器	高台付椀	X層	回転ナデ	回転ナデ	橙色	橙色	2mm以下の鉱物・砂粒	15.6cm				底部ヘラ切り
242	土師器	高台付椀	XⅡ層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					底部ヘラ切り
243	土師器	高台付椀	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	橙色	橙色	ごく微小の鉱物・砂粒		8.3cm			(一部反転) 底部ヘラ切り
244	土師器	高台付椀	XⅡ層	回転ナデ	回転ナデ	橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒		8.3cm			底部外面に螺旋状の調整痕
245	土師器	高台付椀	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	7mm以下の鉱物・砂粒		7.6cm			
246	土師器	高台付椀	XⅢ層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	灰白色	4mm以下の鉱物・砂粒		7.0cm			(一部反転)
247	土師器	Ⅲ	XⅡ層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒	12.2cm	6.4cm	1.9cm		(反転復元) 底部ヘラ切り
248	土師器	Ⅲ	XⅡ層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	11.4cm	5.7cm	2.1cm		底部ヘラ切り
249	土師器	Ⅲ	XⅡ層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	9.1cm	6.8cm	1.4cm		底部ヘラ切り
250	土師器	Ⅲ	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒	9.2cm	4.6cm	2.0cm		(反転復元) 底部ヘラ切り
251	土師器	Ⅲ	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	9.6cm	6.0cm	1.9cm		底部ヘラ切り
252	土師器	高台付Ⅲ	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	3mm以下の鉱物・砂粒	12.5cm	7.5cm	3.2cm		底部ヘラ切り
253	土師器	Ⅲ	X層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	12.4cm	8.0cm	2.0cm		(反転復元) 底部ヘラ切り
254	土師器	甕	XⅠ・XⅡ層	横方向の指ナデ 不定方向指ナデ	横ナデ ヘラ削り	黒褐色	黒褐色	2mm以下の鉱物・砂粒	31.0cm				(反転復元)
255	土師器	甕	X層	横ナデ 縦方向のナデ	横ナデ ヘラ削り	にぶい橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					
256	土師器	甕	XⅡ層	横ナデ ヘラナデ	横ナデ ヘラ削り	黒褐色	黒褐色	3mm以下の鉱物・砂粒					
257	土師器	甕	X層	横ナデ 横方向のケズリ	横ナデ 下方向のケズリ	明褐灰色	にぶい黄橙色	3mm以下の鉱物・砂粒					スス付着
258	土師器	甕	XⅠ層	横ナデ 縦方向のハケメ	横ナデ 斜方向のケズリ	橙色	橙色	2mm以下の鉱物・砂粒					
259	土師器	甕	X層	横ナデ	横ナデ ヘラ削り	橙色	橙色	4mm以下の鉱物・砂粒					
260	土師器	甕	X層	横ナデ	横ナデ ヘラ削り	黒褐色	にぶい褐色	3mm以下の鉱物・砂粒	28.4cm				(反転復元) スス付着

表12 掲載遺物観察表 (11)

掲載番号	種別	器種	出土層・遺構	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土・混和材	法量 口径(長軸)	法量 底径(短軸)	法量 器高(厚さ)	法量 重量	備考
261	土師器	甕	XⅠ層	横ナデ	横ナデ ヘラ削り	灰白色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					
262	土師器	甕	XⅡ層	横ナデ	横ナデ ヘラ削り	にぶい橙色	にぶい橙色	3㎜以下の鉱物・砂粒					スス付着
263	土師器	甕	XⅠ層	横ナデ 丁寧なナデ	横ナデ ヘラ削り	にぶい橙色	にぶい褐色	5㎜以下の鉱物・砂粒	27.2cm				(反転復元) スス付着
264	土師器	甕	XⅠ層	横ナデ	横ナデ ヘラ削り	灰黄褐色	褐灰色	ごく微小の鉱物・砂粒					スス付着
265	土師器	甕	XⅠ層	横ナデ	横ナデ ヘラ削り	褐灰色	灰褐色	ごく微小の鉱物・砂粒					
266	土師器	甕	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	5㎜以下の鉱物・砂粒	27.0cm				(一部反転)
267	土師器	甕	XⅢ層	横ナデ	横ナデ ヘラ削り	にぶい橙色	にぶい黄橙色	4㎜以下の鉱物・砂粒					スス付着
268	土師器	甕	XⅠ層	横ナデ	横ナデ ヘラ削り	橙色	にぶい黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					
269	土師器	甕	XⅠ層	横ナデ 下方向の指ナデ	横ナデ ヘラ削り	―	灰黄褐色	3㎜以下の鉱物・砂粒	26.0cm				スス付着
270	土師器	甕	XⅠ層	横ナデ	横ナデ ヘラ削り	褐灰色	褐灰色	4㎜以下の鉱物・砂粒					
271	土師器	甕	XⅠ層	横ナデ	横ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	4㎜以下の鉱物・砂粒					スス付着
272	土師器	甕	XⅠ層	横ナデ 不定方向のナデ	横ナデ ヘラ削り	にぶい橙色	にぶい褐色	3㎜以下の鉱物・砂粒					
273	土師器	甕	X層	横ナデ	横ナデ ヘラ削り	にぶい橙色	にぶい橙色	3㎜以下の鉱物・砂粒					
274	土師器	甕	Ⅷ層	横ナデ	横ナデ	浅黄橙色	にぶい橙色	3㎜以下の鉱物・砂粒					
275	土師器	甕	Ⅸ層	横ナデ	横ナデ ヘラ削り	淡橙色	にぶい橙色	5㎜以下の鉱物・砂粒					
276	土師器	甕	X層	横ナデ ヘラ削り	ナデ ヘラ削り	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	3㎜以下の鉱物・砂粒					
277	土師器	甕	Ⅶ層	横ナデ ハケメ	横ナデ	にぶい橙色	にぶい褐色	2㎜以下の鉱物・砂粒					
278	土師器	甕	Ⅸ層	横ナデ	横ナデ ヘラ削り	橙色	橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					スス付着
279	土師器	甕	X層	ナデ	ナデ ヘラ削り	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					
280	土師器	甕	XⅢ層	横ナデ	横ナデ 斜方向のケズリ	にぶい褐色	灰褐色	5㎜以下の鉱物・砂粒					
281	土師器	甕	XⅢ層	横ナデ 指ナデ	横ナデ ヘラ削り	にぶい橙色	にぶい橙色	2㎜以下の鉱物・砂粒					
282	土師器	甕	XⅠ層	横ナデ	横ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	3㎜以下の鉱物・砂粒					
283	土師器	甕	XⅠ層	横ナデ	横ナデ	浅黄橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					スス付着
284	土師器	甕	XⅡ層	横ナデ ハケメ	横ナデ 縦方向のケズリ	にぶい褐色	灰褐色	5㎜以下の鉱物・砂粒					
285	土師器	甕	Ⅶ層	横ナデ	横ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	3㎜以下の鉱物・砂粒					
286	土師器	甕	XⅠ層	横ナデ	横ナデ・ナデ ヘラ削り	にぶい橙色	灰黄褐色	4㎜以下の鉱物・砂粒					

表13 掲載遺物観察表 (12)

掲載番号	種別	器種	出土層・遺構	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土・混和材	法量 口径(長軸)	法量 底径(短軸)	法量 器高(厚さ)	法量 重量	備考
287	土師器	甕	X層	横ナデ	横ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					
288	土師器	甕	XI層	横ナデ	横ナデ ヘラ削り	—	にぶい褐色	4㎜以下の鉱物・砂粒					スス付着
289	土師器	甕	X層	不定方向のナデ	横ナデ ヘラ削り	にぶい黄褐色	暗灰黄色	3㎜以下の鉱物・砂粒					スス付着
290	土師器	甕	XIII層	横ナデ 不定方向のナデ	横ナデ ヘラ削り	にぶい橙色	にぶい橙色	5㎜以下の鉱物・砂粒					
291	土師器	甕	XI層	横ナデ	横ナデ ヘラ削り	—	にぶい褐色	2㎜以下の鉱物・砂粒					スス付着
292	土師器	甕	XI層	指ナデ 回転ナデ	指ナデ ヘラ削り	にぶい橙色	にぶい褐色	5㎜以下の鉱物・砂粒	16.8cm				(一部反転)
293	土師器	甕	XI層	横ナデ ナデ	横ナデ ヘラ削り	にぶい褐色	灰褐色	2㎜以下の鉱物・砂粒	21.4cm				(反転復元)
294	土師器	甕	XI・XII層	横ナデ 回転ナデ	横ナデ ナデのちケズリ	にぶい黄橙色	灰黄褐色	3㎜以下の鉱物・砂粒					
295	土師器	甕	XI層	横ナデ	横ナデ 下方向のケズリ	橙色	にぶい橙色	4㎜以下の鉱物・砂粒					
296	土師器	甕	IX層	横ナデ 縦方向ヘラ削り	横方向 ヘラ削り	褐灰色	灰褐色	3㎜以下の鉱物・砂粒					
297	土師器	甕	XI層	横ナデ 指ナデ	縦方向 ヘラ削り	にぶい褐色	にぶい褐色	ごく微小の鉱物・砂粒					指頭痕あり
298	土師器	甕	XI層	横ナデ	横ナデ 縦方向のケズリ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒					
299	土師器	甕	X層	横ナデ	横ナデヘラ削り	褐灰色	褐灰色	3㎜以下の鉱物・砂粒					
300	土師器	甕	XII層	横ナデ	横ナデ 縦方向のケズリ	灰赤色	橙色	4㎜以下の鉱物・砂粒					
301	土師器	甕	XI層	横ナデ	横ナデ ヘラ削り	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					スス付着
302	土師器	甕	XI・XII層	横ナデ ケズリ後ミガキ	横ナデ	橙色	にぶい橙色	5㎜以下の鉱物・砂粒					
303	土師器	甕	X・XI層	指ナデ	摩耗の為不明	橙色	橙色	4㎜以下の鉱物・砂粒					(反転復元)
304	土師質	鍋	XII層	ナデ	ミガキ 指ナデ	褐灰色	褐灰色	1㎜以下の鉱物・砂粒					
305	土師質	壺?	XI層	—	指ナデ	灰黄色	灰黄色	ごく微小の鉱物・砂粒		17.0cm			スス付着 二次転用?
306	黒色土器	高台付椀	XI・XII層	回転ナデ	ミガキ	灰黄色	黒色	ごく微小の鉱物・砂粒	14.7cm	7.4cm	6.7cm		(一部反転) 内黒
307	黒色土器	高台付椀	XI・XII層	回転ナデ	ミガキ	にぶい橙色	黒色	3㎜以下の鉱物・砂粒	15.0cm	8.4cm	7.1cm		(反転復元) 内黒
308	黒色土器	高台付椀?	XI層	回転ナデのちミガキ	ミガキ	にぶい黄橙色	黒色	ごく微小の鉱物・砂粒		8.0cm			(一部反転) 内黒
309	黒色土器	高台付椀	XI層	回転ナデ	ミガキ	浅黄橙色	黒色	ごく微小の鉱物・砂粒					(一部反転) 内黒
310	黒色土器	坏	XI層	回転ナデのちミガキ	ミガキ	にぶい黄橙色	黒色	ごく微小の鉱物・砂粒		5.8cm			(一部反転) 内黒
311	黒色土器	高台付椀	X・XI層	ナデのちミガキ ヘラ削り	ミガキ	灰白色	黒色	ごく微小の鉱物・砂粒		5.9cm			(一部反転) 内黒
312	黒色土器	高台付椀	XI層	回転ナデ	ミガキ	灰黄色	黒色	ごく微小の鉱物・砂粒		7.4cm			内黒

表14 掲載遺物観察表 (13)

掲載番号	種別	器種	出土層・遺構	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土・混和材	法量 口径(長軸)	法量 底径(短軸)	法量 器高(厚さ)	法量 重量	備考
313	黒色土器	高台付椀	X層	回転ナデ	ミガキ	浅黄橙色	黒色	2㎜以下の鉱物・砂粒		7.4cm			底部ヘラ切り 内黒
314	黒色土器	高台付椀	XI・XII層	回転ナデ ヘラ削り	ミガキ	灰黄色	黒色	ごく微小の鉱物・砂粒		7.6cm			底部ヘラ切り 内黒
315	黒色土器	高台付椀	VII・X層	回転ナデのちミガキ	ミガキ	にぶい橙色	黒色	ごく微小の鉱物・砂粒		8.6cm			底部ヘラ切り 内黒
316	黒色土器	高台付椀	XI層	回転ナデ	ミガキ	にぶい黄橙色	黒色	ごく微小の鉱物・砂粒		8.4cm			底部ヘラ切り 内黒
317	黒色土器	高台付椀	X層	回転ナデのちミガキ	ミガキ	灰黄色	黒色	ごく微小の鉱物・砂粒		6.9cm			底部ヘラ切り 内黒
318	黒色土器	高台付椀	IX・X層	回転ナデのちミガキ	回転ナデのちミガキ	黒色灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒	15.8cm	7.0cm	6.3cm		底部ヘラ切り 両黒
319	黒色土器	高台付椀	IX・X・XI層	回転ナデのちミガキ	ミガキ	黒色灰黄色	黒色	ごく微小の鉱物・砂粒	16.1cm	7.4cm	5.9cm		底部ヘラ切り 両黒
320	黒色土器	高台付椀	VIII・IX・X・XI層	ミガキ	ミガキ	黒色	黒色	ごく微小の鉱物・砂粒	14.6cm				(反転復元) 両黒
321	黒色土器	高台付椀	VII・IX層	回転ナデのちミガキ	ミガキ	灰黄色黒色	黒色	ごく微小の鉱物・砂粒	15.5cm				(反転復元) 両黒
322	黒色土器	高台付椀	XI層	回転ナデのちミガキ	ミガキ	褐灰～黒色	黒色	ごく微小の鉱物・砂粒		6.4cm			底部ヘラ切り 両黒
323	黒色土器	高台付椀	X層	ミガキ ヘラ削り	ミガキ	黒色黄灰色	黒色	ごく微小の鉱物・砂粒		7.3cm			底部ヘラ切り 両黒
324	土師器	坏	XIII層	回転ナデ	ヘラ削り	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	11.6cm	5.6cm	4.0cm		底部ヘラ切り 墨書あり
325	土師器	坏か椀	XI層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	15.6cm				「十」の墨書 線刻あり
326	土師器	高台付椀	XI層	回転ナデ	ミガキ	にぶい黄橙色	黒色	ごく微小の鉱物・砂粒	11.2cm	5.9cm	4.5cm		内黒 墨書あり
327	土師器	坏か椀	XI層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	1㎜以下の鉱物・砂粒					ススの付着 墨書あり
328	土師器	坏か椀	VII層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	1㎜以下の鉱物・砂粒					墨書あり
329	土師器	坏か椀	XII層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	1㎜以下の鉱物・砂粒					墨書あり
330	土師器	坏か椀	XII層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒					墨書あり
331	土師器	坏か椀	XIII層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					墨書あり
332	土師器	坏か椀	XI層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					墨書あり
333	土師器	坏か椀	XIII層	回転ナデ 一部ミガキ	ミガキ	灰黄色	黒色	ごく微小の鉱物・砂粒					墨書あり
334	土師器	坏か椀	XI層	回転ナデ	回転ナデ	橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					墨書あり
335	土師器	坏か椀	XI層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					墨書あり
336	土師器	坏か椀	XI層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					墨書あり
337	土師器	坏か椀	XI層	回転ナデ	ミガキ	にぶい黄橙色	黒色	ごく微小の鉱物・砂粒					内黒 墨書あり
338	土師器	坏?	XII層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒		5.1cm			底部ヘラ切り 墨書あり

表15 掲載遺物観察表 (14)

掲載番号	種別	器種	出土層・遺構	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土・混和材	法量 口径(長軸)	法量 底径(短軸)	法量 器高(厚さ)	法量 重量	備考
339	土師器	坏?	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	灰黄色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒					墨書あり
340	土師器	坏	XⅢ層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	4㎜以下の鉱物・砂粒		5.4cm			底部ヘラ切り 墨書あり
341	土師器	坏か椀	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	15.3cm				(一部反転) 線刻あり
342	土師器	高台付椀	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒	14.2cm				(反転復元) 線刻あり
343	土師器	坏か椀	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					線刻あり
344	土師器	坏か椀	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					線刻あり
345	土師器	坏か椀	X層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					線刻あり
346	土師器	坏か椀	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	明褐灰色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					線刻あり
347	土師器	坏か皿	Ⅷ層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒					線刻あり
348	土師器	高台付椀?	Ⅶ層	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	にぶい黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					「十」のヘラ書きあり
349	土師器	紡錘車	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒					底部ヘラ切り 二次転用
350	土師器	紡錘車	Ⅸ層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					炭化物付着 二次転用
351	土師器	紡錘車	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰黄色	ごく微小の鉱物・砂粒					二次転用
352	土師器	紡錘車	XⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	4㎜以下の鉱物・砂粒					二次転用
353	土師器	紡錘車	Ⅸ層	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒					二次転用
354	土師器	紡錘車	XⅡ層	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					二次転用
355	土師器	焼塩壺	Ⅶ層	ナデ	布目圧痕	にぶい橙色	橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					
356	土師器	焼塩壺	Ⅶ層	ナデ	布目圧痕	にぶい橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					
357	土師器	焼塩壺	Ⅶ層	ナデ	布目圧痕	橙色	橙色	3㎜以下の鉱物・砂粒					
358	土師器	焼塩壺	X層	ナデ	布目圧痕	橙色	にぶい橙色	4㎜以下の鉱物・砂粒					
359	土師器	焼塩壺	XⅢ層	ナデ	布目圧痕	浅黄橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					
360	土師器	焼塩壺	XⅡ層	ナデ	布目圧痕	浅黄橙色	にぶい橙色	7㎜以下の鉱物・砂粒					
361	土師器	焼塩壺	XⅡ層	ナデ	布目圧痕	にぶい橙色	橙色	4㎜以下の鉱物・砂粒					
362	土師器	焼塩壺	Ⅶ層	ナデ	布目圧痕	にぶい橙色	橙色	6㎜以下の鉱物・砂粒					
363	土師器	焼塩壺	XⅠ層	ナデ	布目圧痕	橙色	橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					
364	土師器	焼塩壺	XⅡ層	ナデ	布目圧痕	にぶい橙色	橙色	2㎜以下の鉱物・砂粒					

表16 掲載遺物観察表 (15)

掲載番号	種別	器種	出土層・遺構	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土・混和材	法量 口径(長軸)	法量 底径(短軸)	法量 器高(厚さ)	法量 重量	備考
365	土師器	焼塩壺	XⅢ層	ナデ	布目圧痕	にぶい橙色	橙色	1㎜以下の鉱物・砂粒					
366	土師器	焼塩壺	X層	ナデ	布目圧痕	橙色	橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					
367	土師器	焼塩壺	Ⅶ層	ナデ	布目圧痕	橙色	橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					
368	土師器	焼塩壺	Ⅷ層	ナデ	布目圧痕	橙色	橙色	4㎜以下の鉱物・砂粒					
369	土師器	焼塩壺	X層	ナデ	布目圧痕	にぶい橙色	にぶい褐色	ごく微小の鉱物・砂粒					
370	土師器	焼塩壺	XⅠ層	ナデ	布目圧痕	にぶい橙色	にぶい橙色	4㎜以下の鉱物・砂粒					
371	土師器	焼塩壺	XⅠ層	ナデ	布目圧痕	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	3㎜以下の鉱物・砂粒					
372	土師器	焼塩壺	XⅠ層	ナデ	布目圧痕	にぶい橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					
373	土師器	焼塩壺	XⅠ層	ナデ	布目圧痕	赤灰色	橙色	4㎜以下の鉱物・砂粒					
374	土師器	焼塩壺	Ⅶ層	ナデ	布目圧痕	灰黄褐色	灰白色	3㎜以下の鉱物・砂粒					
375	土師器	焼塩壺	Ⅶ層	ナデ	布目圧痕	橙色	にぶい橙色	5㎜以下の鉱物・砂粒					
376	土師器	焼塩壺	XⅠ層	ナデ	布目圧痕	橙色	にぶい橙色	4㎜以下の鉱物・砂粒					
377	土師器	焼塩壺	XⅡ層	ナデ	布目圧痕	にぶい赤褐色	明赤褐色	5㎜以下の鉱物・砂粒					
378	土師器	焼塩壺	XⅢ層	ナデ	布目圧痕	橙色	橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					
379	土師器	焼塩壺	X層	ナデ	布目圧痕	にぶい黄橙色	にぶい橙色	8㎜以下の鉱物・砂粒					
380	土師器	焼塩壺	XⅠ層	ナデ	布目圧痕	にぶい橙色	にぶい黄橙色	4㎜以下の鉱物・砂粒					
381	土師器	焼塩壺	XⅡ層	ナデ	布目圧痕	にぶい赤褐色	橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					
382	土師器	焼塩壺	Ⅶ層	ナデ	布目圧痕	にぶい橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					
383	土師器	焼塩壺	XⅡ層	ナデ	布目圧痕	にぶい褐色	橙色	4㎜以下の鉱物・砂粒					
384	土師器	焼塩壺	XⅠ層	ナデ	布目圧痕	橙色	明赤褐色	2㎜以下の鉱物・砂粒					
385	土師器	焼塩壺	XⅠ層	ナデ	布目圧痕	にぶい橙色	にぶい橙色	5㎜以下の鉱物・砂粒					
386	土師器	焼塩壺	Ⅶ層	ナデ	布目圧痕	にぶい橙色	橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					
387	土師器	焼塩壺	Ⅶ層	ナデ	布目圧痕	橙色	橙色	8㎜以下の鉱物・砂粒					
388	土師器	焼塩壺	XⅢ層	ナデ	布目圧痕	にぶい黄橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					
389	土師器	焼塩壺	X層	ナデ	布目圧痕	橙色	橙色	4㎜以下の鉱物・砂粒					
390	土師器	焼塩壺	X層	ナデ	布目圧痕	明赤褐色	橙色	3㎜以下の鉱物・砂粒					

表17 掲載遺物観察表 (16)

掲載番号	種別	器種	出土層・遺構	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土・混和材	法量 口径(長軸)	法量 底径(短軸)	法量 器高(厚さ)	法量 重量	備考
391	土師器	焼塩壺	Ⅶ層	ナデ	布目圧痕	橙色	橙色	4㎜以下の鉱物・砂粒					
392	須恵器	坏	Ⅶ・Ⅸ層	回転ナデ	回転ナデ	灰色	灰色	ごく微小の鉱物・砂粒	11.2cm	7.6cm	2.3cm		線刻あり 7C初頃？
393	須恵器	坏	Ⅹ・ⅩⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	灰色	灰色	ごく微小の鉱物・砂粒	10.2cm	6.0cm	2.3cm		(反転復元) 7C前半？
394	須恵器	壺	ⅩⅡ層	ナデ 格子目タタキ	ナデ 同心円当て具痕	灰色	灰色	ごく微小の鉱物・砂粒	12.9cm				(反転復元)
395	須恵器	瓶	Ⅸ・Ⅹ層	回転ナデ	回転ナデ	灰色	灰白色	ごく微小の鉱物・砂粒	13.8cm				(反転復元)
396	須恵器	瓶	Ⅶ・ⅩⅠ層	回転ナデ	回転ナデ	灰色	灰色	ごく微小の鉱物・砂粒		7.8cm			(反転復元) 底部ヘラ切り
397	須恵器	瓶	ⅩⅠ層	回転ナデ 一部ヘラ削り	回転ナデ	暗灰色	暗灰色	ごく微小の鉱物・砂粒		7.8cm			(反転復元)
398	須恵器	甕	Ⅶ・ⅩⅠ・ⅩⅢ層	ナデ 格子目タタキ	ナデ 同心円当て具痕	灰色	灰色	4㎜以下の鉱物・砂粒	24.8cm				(反転復元)
399	須恵器	鉢(平底)	ⅩⅠ・ⅩⅡ層	平行タタキ	横ナデ	にぶい褐色	黄灰色	4㎜以下の鉱物・砂粒		12.8cm			(反転復元)
400	須恵器	甕	Ⅶ・Ⅸ・ⅩⅠ層	横ナデ 格子目タタキ	ナデ 同心円当て具痕	黄灰色	黄灰色	ごく微小の鉱物・砂粒					(反転復元)
401	東播系須恵器	鉢	Ⅶ層	横ナデ 回転ナデ	ナデ	灰色	灰色	ごく微小の鉱物・砂粒					神出・魚住窯 13C初頃？
402	東播系須恵器	鉢	ⅩⅠ層	横ナデ 回転ナデ	ナデ	灰白色	灰色	ごく微小の鉱物・砂粒	26.2cm				神出・魚住窯 13C前半？
403	東播系須恵器	鉢	Ⅶ層	横ナデ 回転ナデ	ナデ	灰色	灰色	ごく微小の鉱物・砂粒					神出・魚住窯 13C？
404	東播系須恵器	鉢	Ⅹ層	横ナデ 回転ナデ	ナデ	灰色	灰色	3㎜以下の鉱物・砂粒					神出・魚住窯 13C？
405	越州青磁	椀	ⅩⅠ層	施釉	施釉	灰オリーブ色	オリーブ黄色	灰黄褐色(粗)					Ⅱ類
406	越州青磁	椀	Ⅹ層	施釉	施釉	オリーブ黄色	オリーブ黄色	灰黄褐色(粗)					Ⅱ－2b類
407	越州青磁	椀？	ⅩⅠ層	施釉	施釉	オリーブ黄色	オリーブ黄色	灰黄褐色(粗)					Ⅱ類
408	越州青磁	椀	Ⅶ層	施釉	施釉	灰白色	灰白色	黄灰色(やや粗)					Ⅱ－2類
409	越州青磁	椀	Ⅶ層	施釉	施釉	灰白色	灰白色	黄灰色(やや粗)					Ⅱ－2類
410	越州青磁	椀	ⅩⅠ層	施釉	施釉	灰白色	灰白色	灰黄褐色(粗)					Ⅱ－2b類
411	越州青磁	椀	ⅩⅠ層	施釉	施釉	黄灰色	黄灰色	褐灰色(やや粗)					Ⅰ－5類？
412	越州青磁	椀	Ⅶ層	施釉	施釉	灰オリーブ色	灰オリーブ色	黄灰色(良)					Ⅰ－2b類？
413	越州青磁	椀	Ⅹ層	施釉	施釉	灰オリーブ色	灰オリーブ色	灰白色(精良)					Ⅰ－2類？
414	越州青磁	坏？	ⅩⅡ層	施釉	施釉	灰オリーブ色	灰オリーブ色	灰白色(精良)					Ⅰ類？
415	越州青磁	椀	ⅩⅠ層	ヘラ削り	施釉	黄灰色	灰白色	灰白色(やや粗)					Ⅰ－5類？
416	越州青磁	椀	ⅩⅢ層	施釉	施釉	黄褐色	黄褐色	褐灰色(良)		8.6cm			Ⅰ－2a類

表18 掲載遺物観察表 (17)

掲載番号	種別	器種	出土層・遺構	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土・混和材	法量 口径(長軸)	法量 底径(短軸)	法量 器高(厚さ)	法量 重量	備考
417	越州青磁	大椀？	XⅠ層	施釉	施釉	灰オリーブ色	灰オリーブ色	灰白色(精良)		9.6cm			(反転復元) Ⅰ－2ａウ類？
418	越州青磁	椀	Ⅶ層	施釉	施釉	灰オリーブ色	灰オリーブ色	灰白色(良)					Ⅰ－2ａ類
419	越州青磁	椀	XⅠ・XⅡ層	施釉 回転ナデ	施釉	灰白色	灰白色	灰黄褐色(粗)		8.2cm			(反転復元) Ⅱ－2ｂ類
420	緑釉陶器	Ⅲ	XⅠ層	施釉	施釉	オリーブ灰色	オリーブ灰色	褐灰色					京都or東海産
421	緑釉陶器	不明	XⅠ層	施釉	施釉	オリーブ灰色	オリーブ灰色	褐灰色					京都産洛西型
422	緑釉陶器	Ⅲ	Ⅹ層	施釉	施釉	オリーブ灰色	オリーブ灰色	灰黄褐色					京都産
423	白磁	椀	Ⅶ・Ⅷ層	施釉	施釉	灰白色	灰白色	灰白色(良)					XⅠ－5類
424	白磁	小Ⅲ	Ⅶ層	施釉	施釉	灰白色	灰白色	灰白色(精良)		4.6cm			(反転復元) 中世？
425	青白磁	合子	Ⅶ層	施釉	施釉	明緑灰色	明緑灰色	灰白色(良)		6.6cm			(反転復元) 12C？
426	鍛冶関連	フイゴの羽口	XⅢ層	ナデ	－	－	－	4mm以下の鉱物・砂粒	10.2cm	7.6cm	2.9cm	440g	
427	鍛冶関連	フイゴの羽口	Ⅹ層	ナデ	－	－	－	ごく微小の鉱物・砂粒					
428	鍛冶関連	フイゴの羽口	Ⅶ層	ナデ	－	－	－	ごく微小の鉱物・砂粒					
429	鍛冶関連	フイゴの羽口	Ⅶ層	ナデ	－	－	－	ごく微小の鉱物・砂粒					
430	鍛冶関連	フイゴの羽口	Ⅶ層	ナデ	－	－	－	ごく微小の鉱物・砂粒					
431	鍛冶関連	フイゴの羽口	XⅠ層	ナデ	－	－	－	ごく微小の鉱物・砂粒					
432	鍛冶関連	フイゴの羽口	XⅠ層	ナデ	－	－	－	ごく微小の鉱物・砂粒					
433	鍛冶関連	椀形鍛冶滓	XⅡ層	－	－	黒褐色	－	－	6.3cm	4.7cm	2.7cm	30.0g	
434	鍛冶関連	椀形鍛冶滓	XⅡ層	－	－	黒褐色	－	－	5.9cm	5.8cm	2.3cm	40.0g	
435	鍛冶関連	椀形鍛冶滓	XⅠ層	－	－	黒褐色	－	－	7.0cm	5.3cm	2.8cm	80.0g	
436	鍛冶関連	椀形鍛冶滓	XⅢ層	－	－	黒褐色	－	－	7.3cm	6.0cm	2.6cm	105g	
437	木製品	曲物	XⅢ層	－	－	―	－	－	14.5cm	2.7cm	0.4cm		
438	木製品	曲物	XⅠ層	－	－	―	－	－	14.0cm	4.1cm	0.4cm		
439	木製品	曲物	XⅡ層	－	－	―	－	－	17.9cm	2.5cm	0.3cm		
440	木製品	曲物	XⅢ層	－	－	―	－	－	4.9cm	2.5cm	0.4cm		
441	木製品	曲物	XⅠ層	－	－	―	－	－	6.1cm	1.8cm	0.4cm		
442	木製品	曲物	Ⅹ層	－	－	―	－	－	10.8cm	3.0cm	0.4cm		

表19 掲載遺物観察表 (18)

掲載番号	種別	器種	出土層・遺構	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土・混和材	法量 口径(長軸)	法量 底径(短軸)	法量 器高(厚さ)	法量 重量	備考
443	木製品	曲物	XⅡ層	−	−	−	−	−	19.7cm	3.3cm	0.9cm		一部炭化
444	木製品	曲物	XⅠ層	−	−	−	−	−	15.9cm	7.2cm	0.5cm		「大」の線刻
445	木製品	曲物	XⅠ層	−	−	−	−	−	58.0cm	2.9cm	0.4cm		
446	木製品	椀か皿	Ⅸ層	−	−	−	−	−		7.2cm			一部炭化 線刻あり
447	木製品	皿？	XⅠ層	−	−	−	−	−	13.6cm	11.2cm	1.5cm		
448	木製品	刀子形	XⅢ層	−	−	−	−	−	11.5cm	2.3cm	0.7cm		
449	木製品	取手？	XⅠ層	−	−	−	−	−					
450	木製品	蓋板	XⅢ層	−	−	−	−	−	11.5cm	5.4cm	0.9cm		
451	木製品	用途不明	XⅠ層	−	−	−	−	−	10.5cm	7.0cm			
452	木製品	刳物？	XⅠ層	−	−	−	−	−	15.6cm	12.3cm	4.3cm		
453	木製品	部材	XⅠ層	−	−	−	−	−	13.6cm	1.9cm	0.9cm		
454	木製品	部材	Ⅸ層	−	−	−	−	−	11.5cm	4.8cm	0.7cm		
455	木製品	部材	XⅠ層	−	−	−	−	−	9.0cm	3.0cm	0.7cm		
456	木製品	部材	XⅠ層	−	−	−	−	−	15.8cm	2.3cm	0.6cm		
457	木製品	樹皮	XⅠ層	−	−	−	−	−					
458	木製品	樹皮	XⅠ層	−	−	−	−	−					
459	木製品	樹皮	XⅠ層	−	−	−	−	−					
460	木製品	樹皮	Ⅸ層	−	−	−	−	−					
461	木製品	板材	XⅡ層	−	−	−	−	−	49.5cm	15.0cm	1.0cm		
462	滑石製品	鍋	XⅠ層	−	−	−	−	−					Ⅱ−a−2類 11C？
463	滑石製品	鍋	XⅠ層	−	−	−	−	−					Ⅱ類 11〜12C？
464	滑石製品	鍋	Ⅸ層	−	−	−	−	−					
465	滑石製品	鍋	Ⅹ層	−	−	−	−	−					
466	滑石製品	鍋	Ⅸ層	−	−	−	−	−					Ⅲ−a−2類 12〜13C？
467	滑石製品	鍋	Ⅷ・Ⅹ層	−	−	−	−	−					
468	滑石製品	鍋	XⅠ層	−	−	−	−	−					

表20 掲載遺物観察表 (19)

掲載番号	種別	器種	出土層・遺構	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土・混和材	法量 口径(長軸)	法量 底径(短軸)	法量 器高(厚さ)	法量 重量	備考
469	滑石製品	鍋	XⅡ層	—	—	—	—	—					
470	滑石製品	鍋	Ⅶ・Ⅸ層	—	—	—	—	—					
471	滑石製品	鍋	Ⅸ層	—	—	—	—	—					
472	滑石製品	鍋	Ⅷ層	—	—	—	—	—					
473	滑石製品	鍋	Ⅶ層	—	—	—	—	—					
474	石製品	砥石	X層	—	—	—	—	—	7.7cm	4.9cm	2.0cm		砂岩
475	石製品	砥石	X層	—	—	—	—	—	8.6cm	3.4cm	1.2cm		砂岩
476	石製品	砥石	XⅠ層	—	—	—	—	—	3.2cm	3.0cm	1.4cm		砂岩
477	土製品	錘	XⅠ層	—	—	—	—	—	2.9cm	1.7cm			
478	土製品	錘	Ⅸ層	—	—	—	—	—	2.9cm	1.5cm			
479	軽石製品	加工品	Ⅶ層	—	—	—	—	—	9.9cm	4.1cm	2.1cm		
480	軽石製品	加工品	XⅡ層	—	—	—	—	—	5.6cm	4.7cm	2.8cm		
481	軽石製品	加工品	Ⅶ層	—	—	—	—	—	25.3cm	11.2cm			
482	石器	剥片	XⅠ層	—	—	—	—	—	1.6cm	1.3cm	0.4cm	1.0g	チャート
483	石器	剥片	XⅡ層	—	—	—	—	—	1.8cm	1.6cm	0.5cm	2.0g	黒曜石
484	石器	剥片	XⅠ層	—	—	—	—	—	2.3cm	1.4cm	0.5cm	1.0g	チャート
485	石器	剥片	XⅠ層	—	—	—	—	—	3.4cm	1.9cm	0.6cm	4.0g	黒曜石
486	石器	剥片	XⅠ層	—	—	—	—	—	3.5cm	3.0cm	1.3cm	13.0g	チャート
487	石器	石包丁？	XⅡ層	—	—	—	—	—	4.9cm	3.8cm	0.4cm	9.0g	頁岩
488	石器	石核	XⅠ層	—	—	—	—	—	2.0cm	1.3cm	1.2cm	4.0g	チャート
489	石器	剥片石器	Ⅶ層	—	—	—	—	—	7.6cm	5.7cm	1.0cm	48.0g	頁岩源ホルンフェルス
490	石器	打製石斧	XⅠ層	—	—	—	—	—	4.3cm	3.5cm	1.6cm	32.0g	頁岩
491	石器	扁平打製石斧	Ⅷ層	—	—	—	—	—	5.1cm	4.6cm	1.3cm	43.0g	頁岩源ホルンフェルス
492	石器	扁平打製石斧	Ⅶ層	—	—	—	—	—	7.2cm	4.5cm	1.0cm	45.0g	頁岩源ホルンフェルス
493	石器	扁平打製石斧	Ⅶ層	—	—	—	—	—	12.4cm	6.6cm	1.9cm	144g	凝灰岩
494	石器	敲石	XⅠ層	—	—	—	—	—	8.8cm	4.8cm	2.8cm	170g	砂岩

表21 掲載遺物観察表 (20)

掲載番号	種別	器種	出土層・遺構	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土・混和材	法量 口径(長軸)	法量 底径(短軸)	法量 器高(厚さ)	法量 重量	備考
495	石器	敲石	XⅢ層	−	−	−	−	−	15.1cm	5.5cm	4.7cm	510 g	砂岩
496	石器	磨石	X層	−	−	−	−	−	12.1cm	9.3cm	5.1cm	699 g	凝灰岩
497	石器	敲石	Ⅶ層	−	−	−	−	−	9.1cm	8.1cm	6.9cm	710 g	凝灰岩
498	石器	凹石	XⅠ層	−	−	−	−	−	9.1cm	8.6cm	5.2cm	550 g	凝灰岩
499	石器	敲石？	XⅠ層	−	−	−	−	−	6.6cm	4.9cm	3.5cm	122 g	砂岩
500	石器	敲石？	XⅠ層	−	−	−	−	−	9.7cm	8.1cm	6.0cm	665 g	砂岩
501	石器	(剥離痕)	XⅠ層	−	−	−	−	−	12.5cm	3.1cm	2.9cm	172 g	砂岩
502	石器	(剥離痕)	XⅠ層	−	−	−	−	−	8.3cm	3.8cm	2.6cm	137 g	砂岩
503	石器	−	XⅠ層	−	−	−	−	−	9.4cm	7.6cm	9.0cm	815 g	砂岩
504	石器	−	XⅠ層	−	−	−	−	−	9.6cm	5.3cm	4.6cm	275 g	砂岩
505	石器	−	XⅠ層	−	−	−	−	−	6.5cm	4.2cm	3.2cm	90.0 g	砂岩
506	石器	台石	X層	−	−	−	−	−	21.4cm	18.2cm	7.3cm		両輝石安山岩
507	縄文土器	深鉢	Ⅰ～Ⅴ層	横方向貝殻条痕 横ナデ	横方向のハケメ	にぶい橙色	にぶい橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					市来式
508	縄文土器	深鉢	Ⅰ～Ⅴ層	貝殻条痕文 貝殻刺突文	横方向の貝殻条痕のちナデ	橙色	橙色	4 mm以下の鉱物・砂粒					市来式
509	縄文土器	深鉢	Ⅰ～Ⅴ層	横方向貝殻条痕 貝殻刺突文	横方向の貝殻条痕文	にぶい橙色	橙色	ごく微小の鉱物・砂粒					市来式
510	越州青磁	椀	Ⅰ～Ⅴ層	施釉	施釉	暗灰黄色	暗灰黄色	黄灰色(やや粗)					Ⅰ－5類
511	緑釉陶器	皿	Ⅰ～Ⅴ層	施釉	施釉	オリーブ黄色	オリーブ黄色	にぶい黄橙色(粗)	15.4cm	7.0cm	2.7cm		(反転復元) 洛北or洛西型
512	土師器	焼塩壺	Ⅰ～Ⅴ層	ナデ	布目圧痕	にぶい橙色	にぶい橙色	6 mm以下の鉱物・砂粒					
513	滑石製品	鍋	Ⅰ～Ⅴ層	−	−	−	−	−					Ⅱ－a類 11C頃？
514	滑石製品	鍋	Ⅰ～Ⅴ層	−	−	−	−	−					
515	鍛冶関連	椀形鍛冶滓	Ⅰ～Ⅴ層	−	−	黒褐色	−	−	15.0cm	10.1cm	3.9cm	730 g	フイゴの羽口 先端部融着

第Ⅳ章　自然科学分析調査報告

都城市、江内谷遺跡発掘調査に係る自然科学分析

株式会社 古環境研究所

Ⅰ．江内谷遺跡の土層とテフラ

1．はじめに

宮崎県中南部の後期更新世以降に形成された堆積物の中には、姶良、鬼界、霧島、桜島などのカルデラ火山や成層火山から噴出したテフラが認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡において求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。そこで、年代の不明な土層が認められた江内谷遺跡においても、地質調査を行って土層の記載を行うとともに、テフラ検出分析を行って示標テフラの層位を求め、土層の年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、E-3区東壁および調査区外排水溝東壁の２地点である。

2．土層の層序

(1) Ｅ－３区東壁

Ｅ－３区東壁では、下位より灰色砂質土(層厚６㎝，ＸⅡ層)、砂混じり黒灰色土(層厚７㎝，ＸⅠ層)、黄色軽石混じり黒灰色土(層厚14㎝，軽石の最大径21㎜，Ｘ層)、黄色軽石混じり暗灰色土(層厚18㎝，軽石の最大径４㎜，Ⅸ層)、黄色軽石混じり暗灰色土(層厚14㎝，軽石の最大径４㎜，Ⅷ層)、黄色軽石混じり灰色土(層厚11㎝，軽石の最大径４㎜，Ⅶ層)、灰白色軽石層(層厚６㎝，軽石の最大径６㎜，Ⅵ層)、灰白色軽石(最大径７㎜）および黄色軽石(最大径６㎜）混じり灰色土(層厚14㎝，Ｖ層)、黄色軽石を多く含む砂混じり灰色土(層厚14㎝，軽石の最大径６㎜，Ⅳ層)が認められる(図１)。

(2) 調査区外排水溝東壁

調査区外排水溝東壁では、下位より黄色軽石混じり灰色土(層厚17㎝，Ⅶ層)、灰白色軽石層(層厚５㎝，軽石の最大径７㎜，Ⅵ層)、灰白色軽石(最大径６㎜)および黄色軽石(最大径４㎜)混じり灰色土(層厚５㎝以上，Ｖ層)が認められる(図２)。

3．テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

Ｅ－３区東壁において、基本的に厚さ５㎝ごとに採取された試料のうちの12点、および調査区外排水溝東壁において認められたテフラ層から採取された試料１点の合計13点を対象に、テフラ検出分析を行って示標テフラの降灰層準を求たり、テフラ粒子の特徴を把握した。テフラ検出分析の手順は、次の通りである。

1) 試料10gを秤量。
2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
3) 80°Cで恒温乾燥。
4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。E－3区東壁では、試料7、試料6'、試料5をのぞくいずれの試料からも、細かく発泡した黄白色軽石(最大径8.2mm)が検出された。この軽石は、その特徴から約4,200年前*1に霧島火山御池火口から噴出した霧島御池軽石(Kr－M，町田・新井，1992，早田，1997)に由来すると考えられる。

試料7より上位、とくに試料6'には、灰白色軽石(最大径5.3mm)がとくに多く含まれている。また調査区外排水溝東壁試料の試料1にも、同じ特徴をもつ灰白色軽石(最大径6.8mm)がとくに多く含まれている。いずれの軽石も、班晶に斜方輝石や単斜輝石が認められる。これらの軽石は、その岩相から1471(文明3)年に桜島火山から噴出した桜島3テフラ(Sz－3，小林，1986，町田・新井，1992)に由来すると考えられる。したがって、E－3区東壁の試料6'および調査区外排水溝東壁試料の試料1のテフラ層(Ⅵ層)は、Sz－3に同定される。前者については、より下位の試料7からも同じ軽石が比較的多く検出された。これは耕作による攪乱を受けているためと推定される。

なお、E－3区東壁の試料15、試料7、試料6'には、繊維束状に発泡した白色軽石(最大径6.2mm)が少量ずつ認められる。これらの軽石は、その特徴からKr－Mより下位にある大規模火砕流堆積物に由来すると考えられる。

E－3区東壁の試料19には暗褐色スコリア(最大径0.9mm)が、また試料17、試料13～7、試料5には黒灰色スコリア(最大径0.7mm)が少量含まれている。量が少なく、また顕著な濃集層準が認められないために、その降灰層準を把握することは難しいが、このスコリアについては10～13世紀に霧島火山から噴出した霧島高原スコリア(Kr－ThS，井ノ上，1988，早田，1997)に由来する可能性が考えられる。

4．まとめ

江内谷遺跡において、地質調査とテフラ検出分析を行った。その結果、下位より霧島御池テフラ(Kr－M，約4,200年前*1)に由来する軽石、霧島高原スコリア(Kr－ThS，10～13世紀)に由来する可能性があるスコリア、桜島3テフラ(Sz-3，1471年)などを検出することができた。

*1 放射性炭素(^{14}C)年代.

【文献】

新井　房夫(1972)　斜方輝石・角閃石によるテフラの同定－テフロクロノロジーの基礎的研究. 第四紀研究，11，p.254-269.

新井　房夫(1993)　温度一定型屈折率測定法. 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法2－研究対象別分析法」，p.138-149.

井ノ上幸造(1988)　霧島火山群高千穂複合火山の噴火活動史. 岩鉱，83，p.26-41.

小林　哲夫(1986)　桜島火山の形成史と火砕流. 文部省科研費自然災害特別研究「火山噴火に伴う乾燥粉体流（火砕流等）の特質と災害」(研究代表者　荒牧重雄)，p.137-163.

町田　洋・新井房夫(1992)　火山灰アトラス. 東京大学出版会，276p.

早田　　勉(1997)　火山灰と土壌の形成. 宮崎県史通史編1，p.33-77.

表1　テフラ検出分析結果

地　　点	試料	軽　　石			スコリア		
		量	色　調	最大径	量	色　調	最大径
E－3区東壁	1	＋＋	灰白＞黄白	4.0,2.7	－	－	－
	3	＋＋	灰白＞黄白	4.8,3.8	－	－	－
	5	＋＋	灰白	4.8	＋	黒灰	0.5
	6'	＋＋＋	灰白＞白	5.3,6.1	－	－	－
	7	＋＋	灰白＞白	4.9,6.2	＋	黒灰	0.6
	9	＋＋	黄白	4.2	＋	黒灰	0.7
	11	＋＋	黄白	5.1	＋	黒灰	0.5
	13	＋＋	黄白＞白	4.1,2.1	＋	黒灰	0.6
	15	＋＋	黄白	4.8	－	－	－
	17	＋＋	黄白	7.7	＋	黒灰	1.0
	19	＋＋	黄白	8.2	＋	暗褐	0.9
	20	＋	黄白	5.1,2.7	－	－	－
調査区外排水溝東壁	1	＋＋＋＋	灰白	6.8	－	－	－

＋＋＋＋：とくに多い，＋＋＋：多い，＋＋：中程度，＋：少ない，－：認められない．

最大径の単位は，mm.

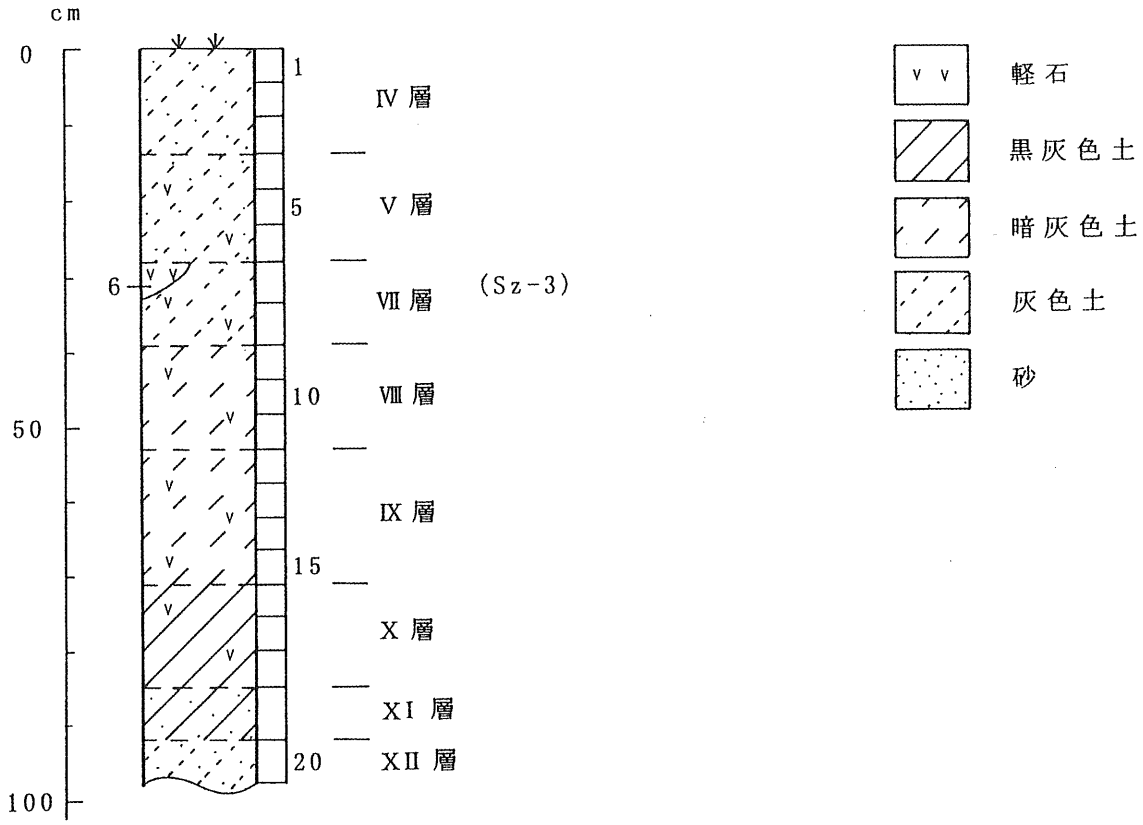


図１　Ｅ－３区東壁の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

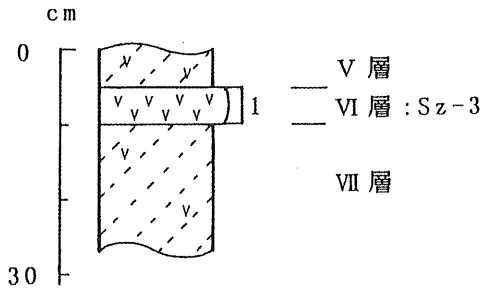


図２　調査区外排水溝東壁の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

Ⅱ．江内谷遺跡におけるプラント・オパール分析

1．はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸(SiO_2)が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石(プラント・オパール)となって土壌中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である(杉山，2000)。

2．試料

試料は、E－3区東壁および調査区外排水溝東壁の2地点から採取された計9点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3．分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法(藤原，1976)をもとに、次の手順で行った。

1) 試料を105℃で24時間乾燥(絶乾)
2) 試料約1gに対し直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
3) 電気炉灰化法(550℃・6時間)による脱有機物処理
4) 超音波水中照射(300W・42KHz・10分間)による分散
5) 沈底法による20μm以下の微粒子除去
6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成
7) 検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールをおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位：10^{-5}g)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ(赤米)の換算係数は2.94(種実重は1.03)、ヨシ属(ヨシ)は6.31、ススキ属(ススキ)は1.24、タケ亜科(ネザサ節)は0.48である。

4．分析結果

水田跡(稲作跡)の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な5分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

5．考察

(1) 水田跡の検討

水田跡(稲作跡)の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している(杉山，2000)。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

1) E－3区東壁

Ⅳ層(試料1)からⅩⅡ層(試料8)までの層準について分析を行った。その結果、Ⅳ層(試料1)からⅩⅠ層(試料7)までの各層からイネが検出された。このうち、Ⅷ層(試料4)～ⅩⅠ層(試料7)の各層では密度が13,400～24,100個/gとかなり高い値であり、Ⅳ層(試料1)～Ⅶ層(試料3、Sz-3直下)の各層でも6,000～7,500個/gと高い値である。したがって、これらの各層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

2) 調査区外排水溝東壁

Sz－3直下のⅦ層(試料1)について分析を行った。その結果、イネが9,700個/gと高い密度で検出された。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

(2) 堆積環境の推定

ヨシ属は湿地的なところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境(乾燥・湿潤)を推定することができる。おもな分類群の推定生産量によると、イネ以外の分類群では、ⅩⅠ層からⅧ層にかけてはヨシ属が優勢であり、Ⅶ層より上位ではタケ亜科(おもにネザサ節)が優勢となっていることが分かる。

以上のことから、調査区の周辺は、ⅩⅠ層からⅧ層にかけてはヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、Sz-3直下のⅦ層より上位ではネザサ節などのタケ亜科が生育するような比較的乾燥した環境であったと推定される。

6．まとめ

プラント・オパール分析の結果、Ⅳ層～ⅩⅠ層の各層からはイネが多量に検出され、それぞれ稲作が行われていた可能性が高いと判断された。調査区の周辺は、ⅩⅠ層からⅧ層にかけてはヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、桜島文明軽石(Sz-3，1471年)直下のⅦ層より上位ではネザサ節などのタケ亜科が生育するような比較的乾燥した環境であったと推定される。

【文献】

杉山　真二(2000)　植物珪酸体(プラント・オパール)．考古学と植物学．同成社，p.189-213.

藤原　宏志(1976)　プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，p.15-29.

藤原宏志・杉山真二(1984)　プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)－プラント・オパール分析による水田址の探査－．考古学と自然科学，17，p.73-85.

表１　都城市、江内谷遺跡におけるプラント・オパール分析結果

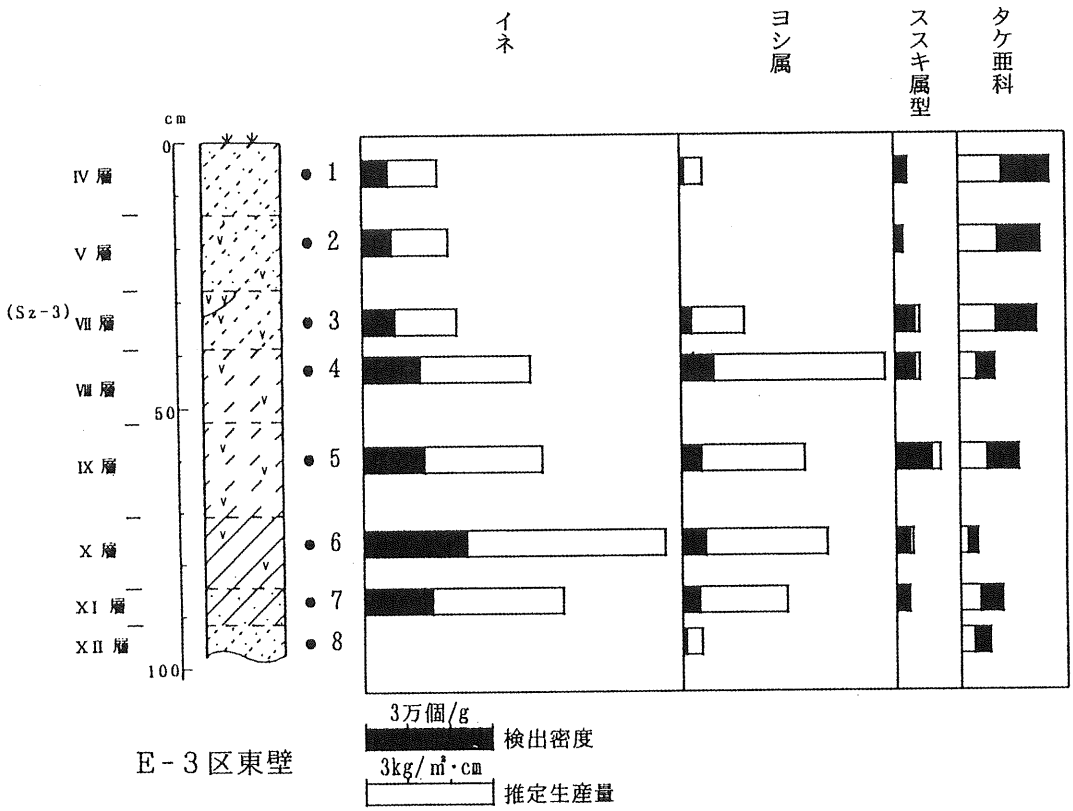
検出密度（単位：×100個/g）

分類群	学名	地点・試料	E-３区東壁								排水溝
			1	2	3	4	5	6	7	8	1
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)		60	68	75	134	143	241	159		97
ヨシ属	*Phragmites* (reed)		8		23	75	45	53	38	7	
ススキ属型	*Miscanthus* type		23	15	45	45	83	30	23		7
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)		212	189	180	82	135	38	98	67	180

推定生産量（単位：kg/㎡·㎝）

イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)		1.78	2.00	2.21	3.95	4.20	7.07	4.67		2.86
ヨシ属	*Phragmites* (reed)		0.48		1.42	4.71	2.85	3.32	2.39	0.47	
ススキ属型	*Miscanthus* type		0.28	0.19	0.56	0.56	1.03	0.37	0.28		0.09
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)		1.02	0.91	0.86	0.39	0.65	0.18	0.47	0.32	0.86

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。



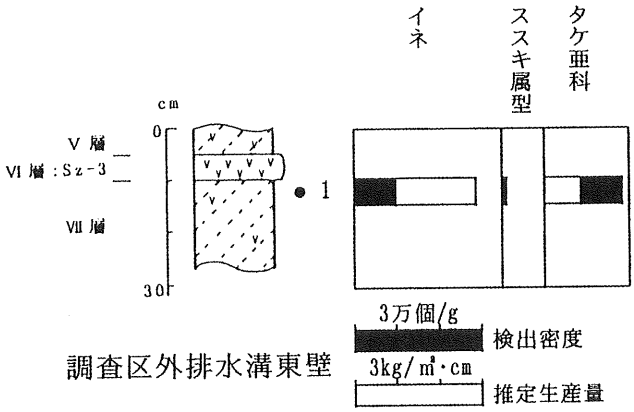


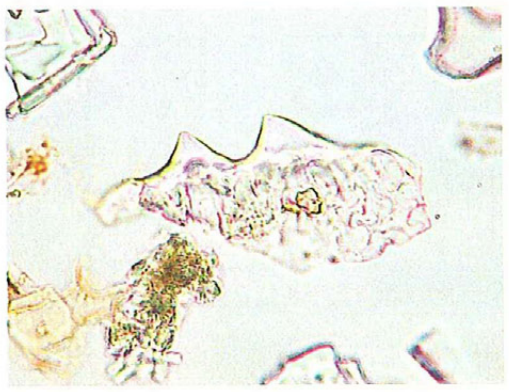
図１　都城市、江内谷遺跡におけるプラント・オパール分析結果

イネ
E－3区東壁　7

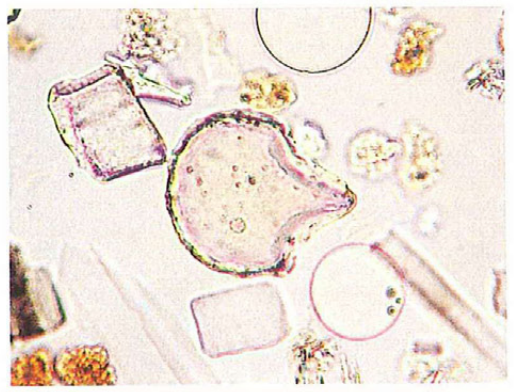
イネ
E－3区東壁　1

イネ
E－3区東壁　6

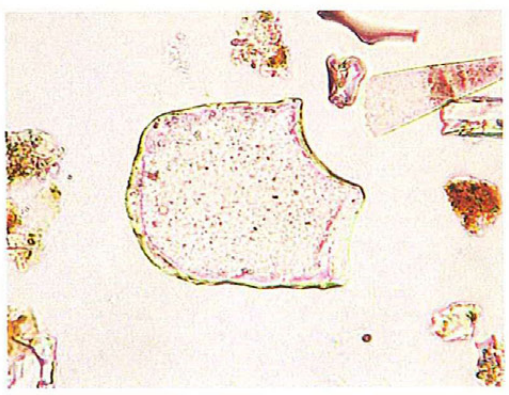
イネ(側面)
E－3区東壁　7



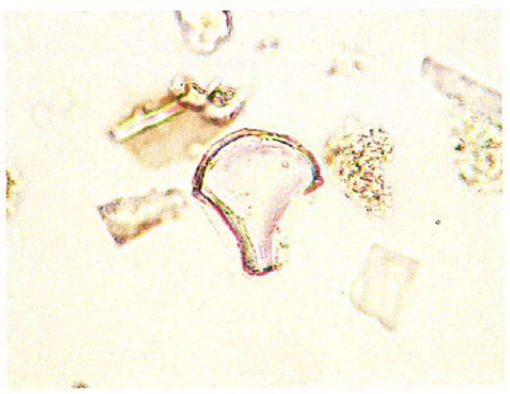
イネの籾殻(穎の表皮細胞)
E－3区東壁　7



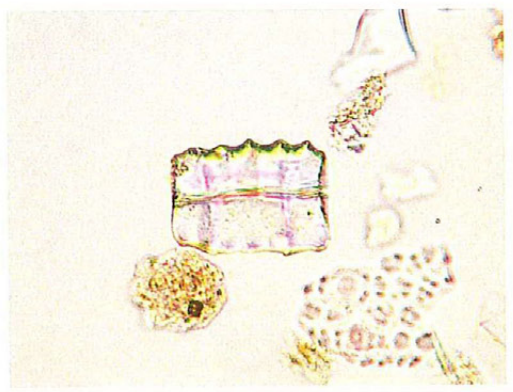
ヨシ属
E－3区東壁　7



ヨシ属
E－3区東壁　4



メダケ節型
E－3区東壁　7



ネザサ節型
E－3区東壁　7

植物珪酸体の顕微鏡写真　————50μm

Ⅲ．放射性炭素年代測定

1．試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No. 1	江内谷遺跡，SD01（5805）	炭化物	酸-ｱﾙｶﾘ-酸洗浄，石墨調整	ＡＭＳ法
No. 2	江内谷遺跡，SD02（6332）	炭化物	酸-ｱﾙｶﾘ-酸洗浄，石墨調整	ＡＭＳ法

※ＡＭＳ法：加速器質量分析法

2．測定結果

試料名	^{14}C年代（年BP）	δ^{13}C（‰）	補正^{14}C年代（年BP）	暦年代（西暦）	測定No.（Beta-）
No. 1	1240±40	-27.4	1200±40	交点：cal AD 810，840，860 1σ：cal AD 780～890 2σ：cal AD 710～910，920～960	166711
No. 2	1260±40	-27.9	1210±40	交点：cal AD 790 1σ：cal AD 770～880 2σ：cal AD 700～900	166712

1) ^{14}C年代測定値

試料の^{14}C/^{12}C比から、単純に現在(1950年AD)から何年前かを計算した値。^{14}Cの半減期は、国際的慣例によりLibbyの5,568年を用いた。

2) δ^{13}C測定値

試料の測定^{14}C/^{12}C比を補正するための炭素安定同位体比(^{13}C/^{12}C)。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。

3) 補正^{14}C年代値

δ^{13}C測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、^{14}C/^{12}Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中^{14}C濃度の変動を較正することにより算出した年代(西暦)。較正には、年代既知の樹木年輪の^{14}Cの詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と^{14}C年代の比較により作成された較正曲線を使用した。最新のデータベースでは、約19,000年BPまでの換算が可能となっている。ただし、10,000年BP以前のデータはまだ不完全であり、今後も改善される可能性がある。

暦年代の交点とは、補正^{14}C年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1σ(68%確率)と2σ(95%確率)は、補正^{14}C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の1σ・2σ値が表記される場合もある。

【文献】

Stuiver, M., et. al.,(1998), INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.
中村　俊夫(1999)　放射性炭素法. 考古学のための年代測定学入門. 古今書院, p.1-36.

Ⅳ. 種 実 同 定

1．はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物や遺構内に残存している場合がある。堆積物などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や栽培植物を明らかにすることができる。

2．試料

試料は、江内谷遺跡E3区の第ＸＩ層と第ＸⅡ層から洗別・採取された２試料である。

3．方法

肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

4．結果

(1) 分類群

結果を表１に示し、各分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

〔樹木〕

イチイガシ　Quercus　gilva　Blume　堅果・幼果　ブナ科

炭化していて黒色で、楕円形を呈する。表面はなめらかで、縦方向に一条の凹線が入る。

黒褐色で楕円形を呈し、先端に明瞭な花柱を持つ。花柱の先端は直上かやや内側に向き、殻斗壁が厚い。

殻斗は輪状紋をもち基部から先端に向かって直線的な椀状を呈する。

エゴノキ　Styrax japonica Sieb. et Zucc.　核　エゴノキ科

黒褐色で楕円形を呈し、下端にへそがある。表面に３本の溝が走る。

ハクウンボク　Styrax obassia Sieb. et Zucc.　核　エゴノキ科

黒褐色で楕円形を呈し、下端にへそがある。表面に３本の浅い溝と、低い稜がある。

(2) 種実群集の特徴

1) 第ＸＩ層

イチイガシが多く認められ、エゴノキが伴われる。

2) 第ＸⅡ層

イチイガシとハクウンボクが認められた。

5．種実同定から推定される植生

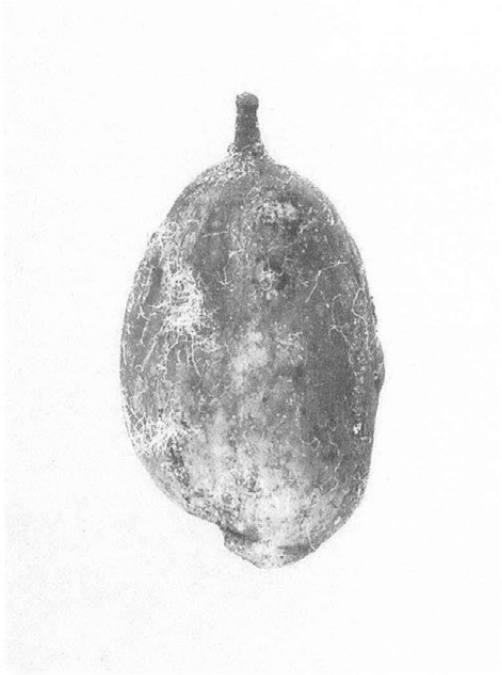
分析の結果、江内谷遺跡E3区の第ＸＩ層ではイチイガシとエゴノキ、第ＸⅡ層ではイチイガシとハ

クウンボクが認められた。イチイガシは照葉樹林の主要構成要素であり、周囲に自然度の高い照葉樹林が分布していたことを示唆している。また、エゴノキやハクウンボクは、谷沿いの適潤地などに生育する樹種である。

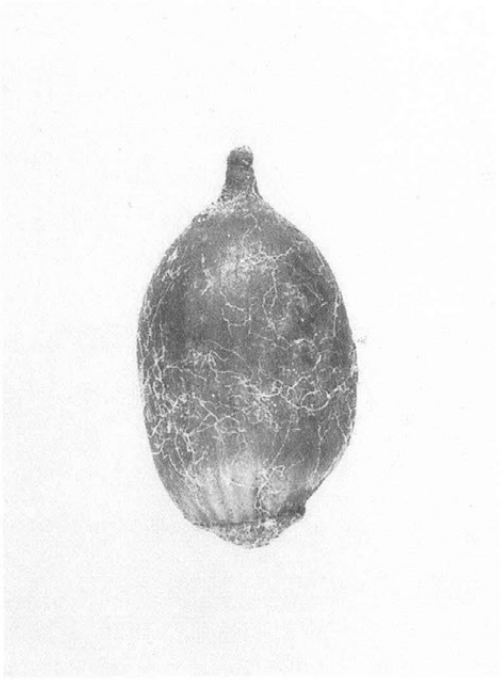
【文献】

南木睦彦(1992)　低湿地遺跡の種実．月刊考古学ジャーナルNo.355，ニューサイエンス社，p.18-22.
南木睦彦(1993)　葉・果実・種子．日本第四紀学会編，第四紀試料分析法，東京大学出版会，p.276-283.
渡辺　誠(1975)　縄文時代の植物食．雄山閣，187p.

江内谷遺跡の種実



1　イチイガシ堅果
5.0mm

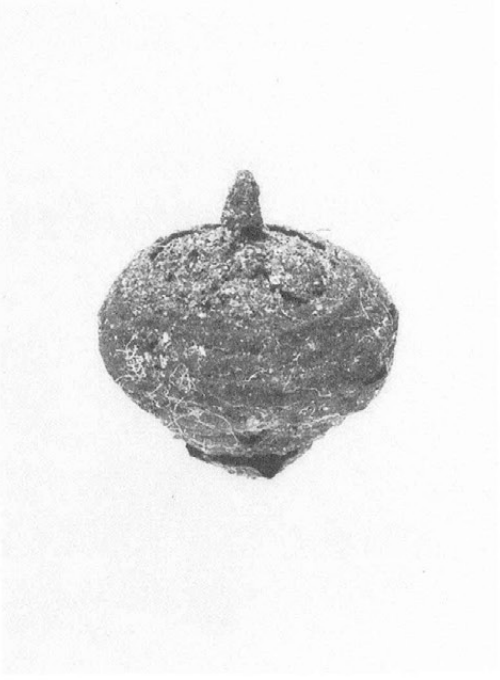


2　イチイガシ堅果
5.0mm

3　イチイガシ堅果
5.0mm

4　イチイガシ幼果
5.0mm

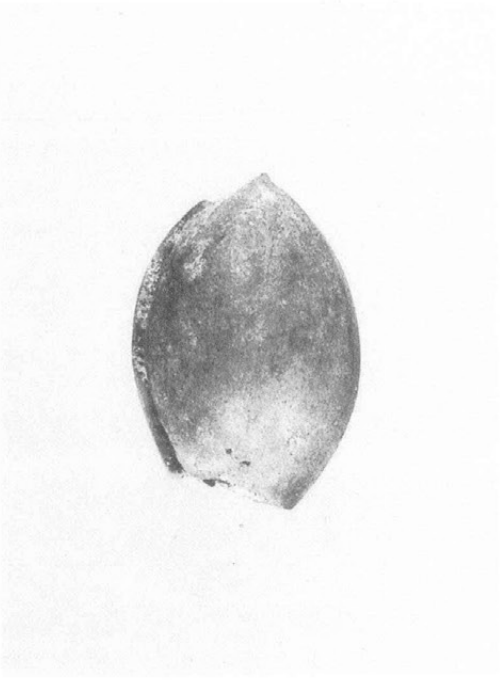
5　イチイガシ幼果
5.0mm



6　イチイガシ幼果
5.0mm

7　エゴノキ核
5.0mm

8　ハクウンボク核
5.0mm



9　同左

都城市江内谷遺跡出土木製品の樹種調査結果

㈱吉田生物研究所　汐　見　　真
京都造形芸術大学　岡　田　文　男

1．試料

試料は都城市江内谷遺跡から出土した容器４点、用途不明品１点の合計５点である。

2．観察方法

剃刀で木口(横断面)、柾目(放射断面)、板目(接線断面)の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3．結果

樹種同定結果(針葉樹２種、広葉樹１種)表を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1)　イチイ科カヤ属カヤ(*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.)

(遺物№.２－１)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。晩材部は狭く年輪界は比較的不明瞭である。軸方向柔細胞を欠く。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で１分野に１～４個ある。仮道管の壁には対になった螺旋肥厚が存在する。板目では放射組織はすべて単列であった。カヤは本州(中・南部)、四国、九州に分布する。

2)　マツ科モミ属(*Abies* sp.)

(遺物№.１，２－２，２－３)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は比較的ゆるやかで晩材部の幅は狭い。柾目では放射組織の上下縁辺部に不規則な形状の放射柔細胞がみられる。放射柔細胞の壁は厚く、数珠状末端壁になっている。放射組織の分野壁孔はスギ型で１分野に１～４個ある。板目では放射組織は単列であった。モミ属はトドマツ、モミ、シラベがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

3)　クスノキ科クスノキ属クスノキ(*Cinnamomum camphora* Presl)

(遺物No.3)

散孔材である。木口では中庸の道管(～200μm)が単独または2ないし数個が放射方向あるいは斜方向に連続して年輪内に平等に分布する。軸方向柔細胞は道管の周囲を厚く鞘状に取り囲んでおり、その中に一見小さな道管と見間違えるほどの油細胞(樟脳油貯蔵細胞)がある。柾目では道管は単穿孔と側壁に交互壁孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔はレンズ状の大型壁孔が階段状に並んでいる。板目では放射組織は１～３細胞列、高さ～800μmからなる。放射組織の直立細胞や軸方向柔細胞が油細胞に変化したものが多く見られる。クスノキは本州(関東以西)、四国、九州に分布する。

* 参考文献◆

島地 謙・伊東隆夫 「日本の遺跡出土木製品総覧」 雄山閣出版(1988)

島地 謙・伊東隆夫 「図説木材組織」 地球社(1982)

伊東隆夫 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」 京都大学木質科学研究所(1999)

北村四郎・村田 源 「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」 保育社(1979)

深澤和三 「樹体の解剖」 海青社 (1997)

* 使用顕微鏡◆

Nikon

MICROFLEX UFX-DX Type 115

都城市江内谷遺跡出土木製品樹種同定表

No.	掲 載 No.	品 名	樹 種
1	461	板 材	マツ科モミ属
2－1	444	曲 物	イチイ科カヤ属カヤ
2－2	438	曲 物	マツ科モミ属
2－3	439	曲 物	マツ科モミ属
3	447	Ⅲ ?	クスノキ科クスノキ属クスノキ

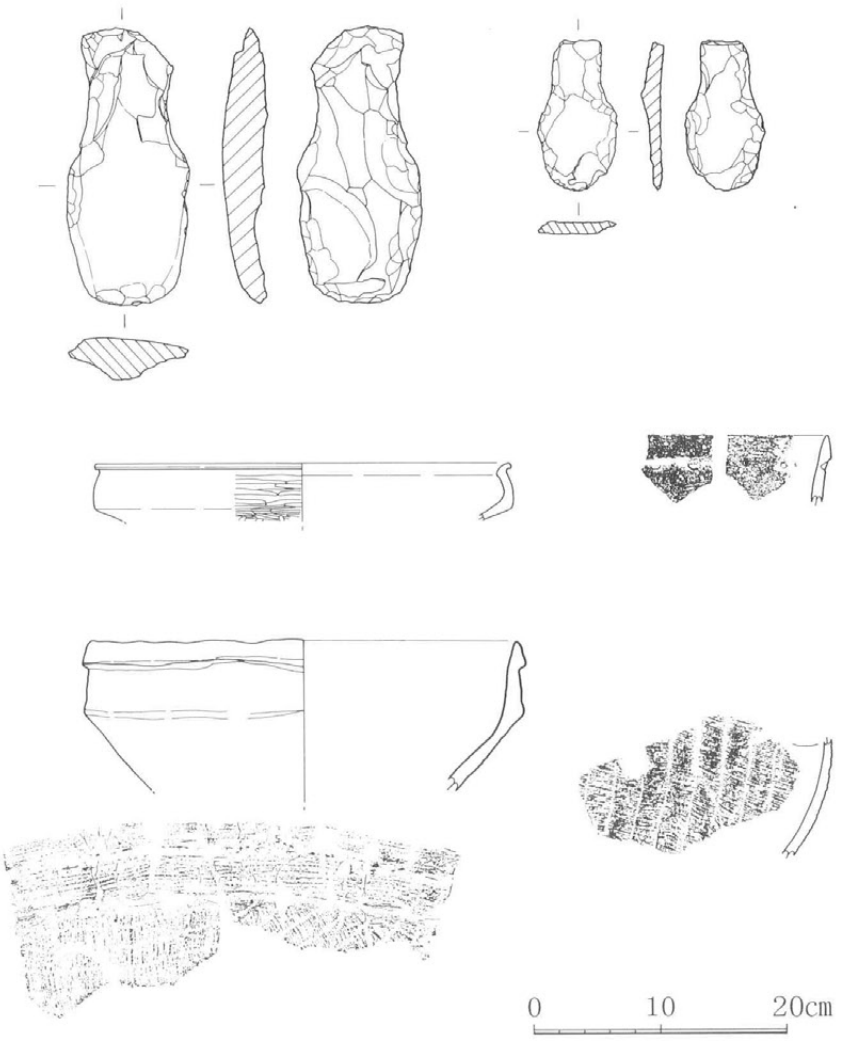
第V章　小　　結

1．遺物の考察

今回の調査では、縄文時代早期・後期～晩期、平安時代中期～鎌倉時代の遺物および極少量の弥生時代、古墳時代終末期の遺物が出土した。出土点数としては、古代から中世にかけての遺物が大多数を占めた。

縄文時代の遺物としては、早期の平栫式をはじめ、後期の市来式、晩期では口唇部にヒレ状突起をもつ黒川式や底部外面に組織痕（編布圧痕）をのこした浅鉢などがあげられ、また打製石斧・扁平打製石斧(土掘り具)・敲石・磨石・剥片石器などの石器類も出土した。石器の中で、487と489については、顕微鏡観察による使用痕分析をおこなった。487頁岩片は一部に、微弱であるがコーングロス(Bタイプ)が認められた事から、イネ科植物の刈り取りに使用された石包丁の破片と思われる。489剥片石器は、刃部に切断・加工に使用されたことを示す線状痕が認められたが、対象物は不明であった。以上の遺物については、江内谷遺跡に由来するものではなく、本遺跡の西側に隣接する舌状台地上に立地する中尾山・馬渡遺跡からの流れ込みによる二次的移動および後世に行われた新田開発や耕地整理による削平・造成段階で混入したものと考える。その理由として、 1.相当する時代の遺構が、本遺跡には存在しない事。 2.中尾山・馬渡遺跡で、縄文時代後期～晩期の江内谷遺跡出土と同様の遺物が出土し、遺構も晩期の土坑が検出されており、早期の遺物についても未調査であるが、台地縁の露頭部にて確認されている。 3.土器の表面が著しく摩滅している。の3点が挙げられる。尚、縄文土器および石器類の出土量は遺跡全体の遺物出土量の約10%程であった。

全出土遺物量の約90%を占めている、平安時代(9世紀後半)から鎌倉時代(13世紀)にかけての遺物は、土師器・黒色土器・刻書土器・須恵器・越州窯青磁・緑釉陶器・木製品・鍛冶関連遺物・滑石製石鍋・ 東播系須恵器・砥石など多種多様な物が出土した。殊に、土師器が出土遺物の大多数であり、その中でも坏および高台付椀の出土量が最も多く、次いで甕となり、少量ではあるが皿も出土している。坏・高台付椀・皿については、すべて底部切り離し技法がヘラ切りであり、坏には底部外面下位部をヘラケズリによって仕上げられた痕跡を明瞭にのこしたものが多く、緑釉陶器・越州窯青磁や黒色土器A・B類などと共に出土しており、9～11世紀のものと思われる。尚、遺物の殆どが包含層内出土であり、本遺跡が谷地形に立地している関係上、層自体が洪水による水成堆積層であり、また堆積過程途中においても水流によって撹乱をうけており、共伴関係に疑問が持たれ、明確な裏付けも無く、詳細な時期および年代については言及



中尾山・馬渡遺跡出土遺物（矢部喜多夫氏提供）

できなかった。また他の出土遺物についても、上記の理由により、個別の年代研究がされているもの以外については、平安時代(9世紀後半)から鎌倉時代(13世紀)にかけてのものとしか言明できない。102は須恵器の長頸瓶の底部片と思われ、器の内外面の片側だけに、黒漆が付着しており、貯蔵容器から漆を汲み出す際に使用した物と考え、他に木器の未製品および木取り段階の木片が多量に出土している事を合わせると、木器のみならず漆器製作も行われていた可能性を示す物証の1つとして挙げられる。また、自然科学分析により出土した炭化種実の種実同定および、木製品の樹種同定を行ったが、両者の樹種は合致しなかった。サンプル数が少量の為、なんとも言えないが、原材料は他所より持ち込まれたのかもしれない。墨書土器も17点出土しており、327・328の2点の口縁部片には、「財」の一部と思われる墨書が施されており、同様に「財」の墨書が施された平安時代の土師器が、前出の中尾山・馬渡遺跡をはさんで、江内谷遺跡より約500m西側に位置する馬渡遺跡からも出土している。326は墨書が倒位した状態で施されており、祭祀・儀式等との関与が考えられる。また鍛冶関連遺物として、フイゴの羽口・鍛冶滓が出土した。フイゴの羽口については、先端部の溶解部が垂直に近く、先端部以外に火熱を受けた痕跡がないことから、地床炉に水平に埋め込まれた状態で使用されていたものと推測される。鍛冶滓は、軽量で不純物を多く含むと思われる滓と、重量があり含鉄量が多く不純物が少ないと思われる滓の2種類が出土している。このことから、精錬鍛冶および鍛錬鍛冶の両方が行なわれていたことが窺える。

今回の調査で出土した遺物の特色として小面積の調査であったにも関わらず、多量の土師器が出土した事、生産に関連した遺物が多数出土した事、越州窯青磁や緑釉陶器といった、当時において一般には流通していなかったとされる遺物が、少量であるが出土している事である。

古代の土師器については、県内においてまだ研究段階であり、今後より多くのデータの収集・蓄積・分析を行い、地域における編年を確立することが課題である。

2．遺構の考察

今回出土した遺構として、掘立柱建物1棟(ＳＢ01)、溝状遺構5条(ＳＤ01・02・03・04・05)、土坑3基(ＳＣ01・02・03)、井戸1基(ＳＥ01)、道路状遺構1本(ＳＦ01)、杭列1(ＳＬ01・02)を検出し、水田跡(古代・中世・近世)が土層断面にて、確認された。

時期および年代については、ＳＢ01は柱穴からの出土遺物が無く、年代不詳であるが、軸の向きおよび埋土の状況などから、ＳＤ01とほぼ同時期に並存していたのではないかと思われる。

ＳＤ01は、遺構内より、土師器、須恵器、製塩土器、鍛冶関連遺物などが出土しており、出土遺物、埋土状況、遺構の切り合い関係より、平安時代(9世紀後半～11世紀)の所産と推定される。また同遺構内より出土した炭化物の自然科学分析を行い、放射性炭素年代測定の結果、^{14}C年代ではBP1240±40年、補正^{14}C年代ではBP1200±40年という値がでている。(いずれもAD1950年基準)

ＳＤ02は、遺構内より、土師器、須恵器、黒色土器Ａ類、墨書土器、製塩土器、鍛冶関連遺物、越州窯青磁(第Ⅱ類)、緑釉陶器(洛西型9世紀第3四半期)など出土しており、出土遺物、埋土状況、遺構の切り合い関係より、ＳＤ01と同様に、平安時代(9世紀後半～11世紀)の所産と推定されるが、出土遺物の状況などより、ＳＤ01より若干、時期が古くなると思われる。また同遺構内より出土した炭化物の自然科学分析を行い、放射性炭素年代測定の結果、^{14}C年代ではBP1260±40年、補正^{14}C年代ではBP1210±40年という値がでている。(いずれもAD1950年基準)

ＳＤ03は、遺構の切り合い関係および埋土状況(近世の水田耕作土である第Ⅳ層に酷似している)より、近世の所産であり、近世の水田に伴うものと推定される。

ＳＤ04からは、主に須恵器が出土している。出土遺物、埋土状況、走行状況より、ＳＤ02と同時期に併走していたと推定される。

ＳＤ05は、埋土が近世の水田耕作土である第Ｖ層であることから、近世の所産であり、ＳＤ03より古い段階の水田に伴うものと推定される。

ＳＣ01・02は、埋土状況から、近世の所産であり、ほぼ同時期と推測されるが、両方とも出土遺物は無く、年代および用途は詳細不明である。

ＳＣ03は、切り合い関係から、ＳＤ01より古い時期の土坑であるが、ＳＣ01・02と同様に出土遺物は無く、年代および用途は詳細不明である。

ＳＥ01からは、面取り加工された軽石以外には特に出土遺物は無く、埋土状況から中世の所産と推測され、用途については、日常使う生活用水を得る為の一般的な井戸としての用途および、中世の水田跡が隣接していることから、溜井(水田への灌漑用水の確保と取水を目的として掘られた井戸)としての用途の２通りが考えられるが、断定できる痕跡が残存していなかった。

ＳＦ01は、埋土状況および調査区北壁の土層断面観察より、近世の所産と推定される。

ＳＬ01・02は、前にも述べているが、同一の杭列であり、交互に打ち込まれている状況から、横板をはめこみ、土留めとして機能していたものと推測される。尚、打ち込み面が不明の為、時期および年代は不明である。

ＳＷ01は、中世(第Ⅶ層期)の水田跡である。また、プラント・オパール(植物珪酸体)分析の結果、イネが9700個/ｇと高い密度で検出された。(一般に、イネのプラント・オパールが試料１ｇあたり3000～5000個以上検出された場合に、稲作が行われていた可能性が高いと判断されている)

ＳＷ02は、古代(第Ｘ層期)の水田跡である。また、プラント・オパール(植物珪酸体)分析の結果、イネが24100個/ｇと非常に高い密度で検出された。

近世の水田跡については、後世の削平・造成などにより、消失している部分が多く、当時代の水田耕作土と思われる第Ⅲ・Ⅳ・Ｖ層の残存部から、範囲を想定するに留まった。また、プラント・オパール(植物珪酸体)分析の結果、第Ⅳ層からイネが6000個/ｇ、第Ｖ層からイネが6800個/ｇと高い密度で検出された。他の第Ⅷ・Ⅸ・ＸＩ層からも、プラント・オパール(植物珪酸体)分析の結果、13400個/ｇ、14300個/ｇ、15900個/ｇと高い密度で検出され、この地において古代から近世、そして現在に至るまで、恒久的に稲作が行われていた事がうかがえる。

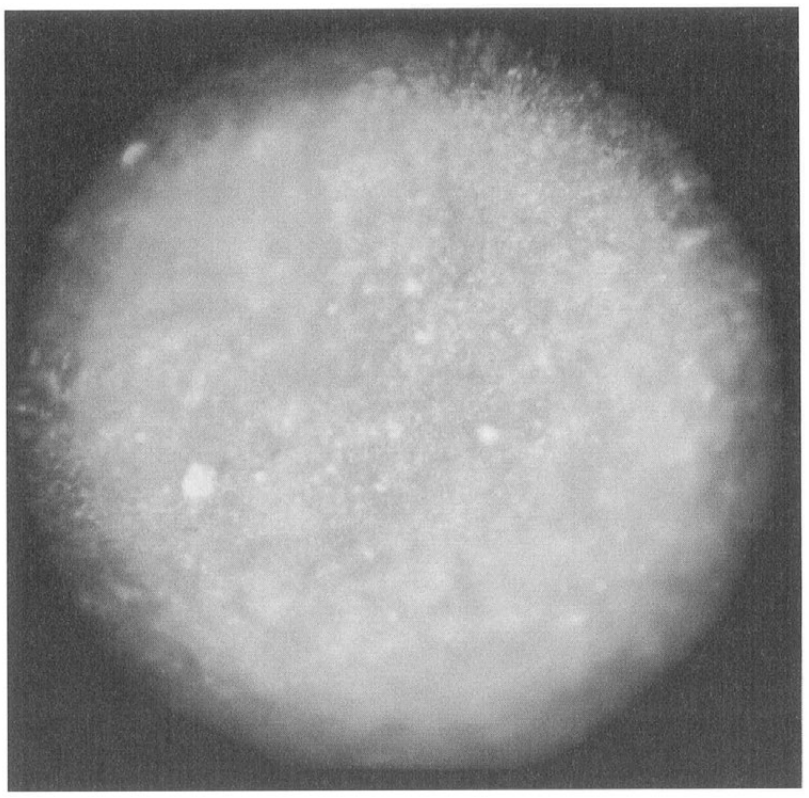
３．まとめ

江内谷遺跡は、成層シラス台地の開析谷からの流水によって形成された扇状地の扇頂部に立地した遺跡であり、調査区の東側部分では、旧谷地形が埋没して平坦化した後、古代から近世にかけて、稲作が行われていたようである。古代から中世にかけては、幾度となく洪水災害に見舞われていたと思われ、その痕跡が各層にみられる河成堆積物および河床堆積物(土石流堆積物)であり、大量の遺物が水田耕作土中から出土している事からも、その様子を窺い知ることができる。近世になると、大規模な水田開発が行われたようで、調査区内においてもかなりの部分が開発による削平を受けていた。近世の水田開発のことは、文献・資料にものこっているようであり、『都城と島津氏－都城の歴史と都城島津家のあゆみ－』の中で、「島津久理(1669年・都城領主就任)は、田畑の生産力向上のために関之尾に灌漑用水路を開削し、次の久龍は、財部の田平開田井手溝の捨水を取り入れることによって横市村加治屋久味木下の新田開発を行った」と述べられている。尚、江内谷遺跡周辺には現在でも、「加治屋」「久味木」とい

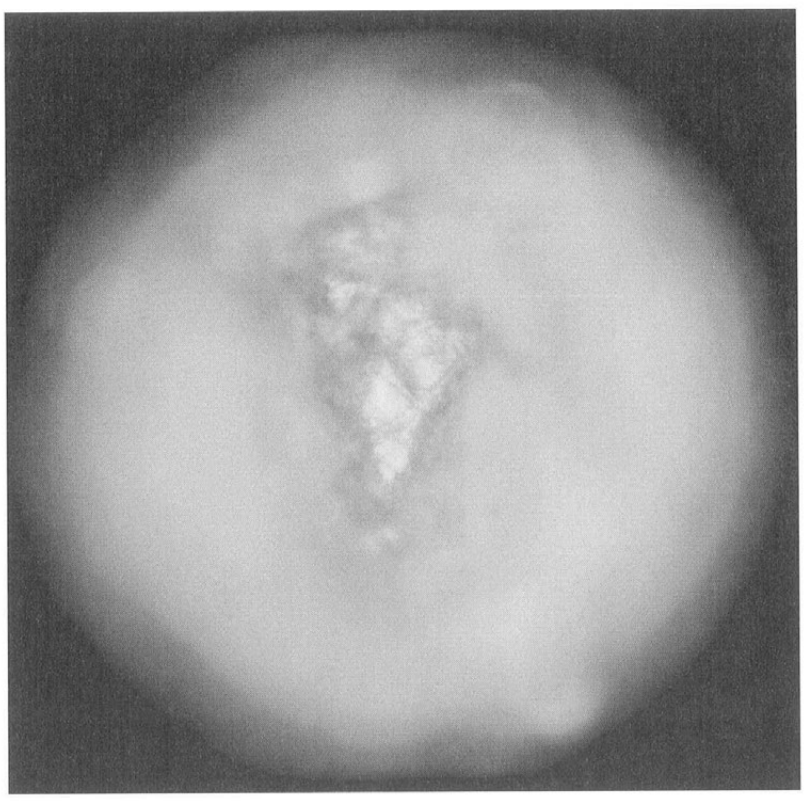
う地名が存在している。

また、平安時代の土師器を中心として、平安時代(9世紀後半)から鎌倉時代(13世紀)にかけての遺物が、大量に出土しており、特に多くの木製品・未製品、鍛冶関連遺物が出土したことは、工房が存在していた事を示唆していると思われるのだが、前にも述べているように、後世の水田開発や耕地整理によって撹乱をうけており、調査区内では直接それに結びつくような遺構は確認されなかった。しかし遺物の出土状況からみても、小鍛冶および木器製作が遺跡内または遺跡周辺で行なわれていた事は確かであり、漆の汲み出しに使用されたと思われる遺物(102)が出土していることなどから、漆器製作もおこなわれていた可能性が高いとおもわれる。また、プラント・オパール(植物珪酸体)分析の結果から、調査区周辺は当時、湿地的な環境であったと推定されており、塗布した漆を乾燥硬化させるのに適した環境ではあったようである。いずれにせよ、土師器の坏、椀といった食膳具を主体として多くの遺物が出土していることから、平安時代(9世紀後半)から鎌倉時代(13世紀)にかけて、江内谷遺跡および周辺には集落が存在し、近隣では前記の稲作を中心とした水田耕作が営まれ、集落には職・工人集団がいたものと思われる。

江内谷遺跡が立地している横市川流域には、古代から中世にかけての遺跡が数多くあり、過去に調査したもの、現在調査中の遺跡も含め、今後調査が進むにつれて、この流域の古代から中世にかけての様相が少しずつ明らかになっていくことであろう。



コーングロスBタイプ　487 石包丁
(×200　撮影：山村信榮氏)



線　状　痕　489 剥片石器
(×200　撮影：山村信榮氏)

4．あとがき

発掘調査・遺物整理・報告書作成において、次の方々の御協力・御教示を頂いた。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

山本信夫(山本考古研究所所長)　宍戸　章(宍戸地質研究所所長)　上田　耕(鹿児島県知覧町教育委員会)　南正覚雅士・松本　茂・堀田孝博(宮崎県埋蔵文化財センター)　松下述之・矢部喜多夫・桒畑光博・横山哲英・大盛祐子・原田亜紀子(都城市文化課)（尊称略）

5．参考文献

山本信夫　1998「太宰府における古代末から中世の土器・陶磁器」『中近世土器の基礎研究』
日本中世土器研究会

山本信夫・山村信榮　1997「中世食器の地域性〈九州・南西諸島〉」『中世食文化の基礎的研究』
国立歴史民俗博物館

小田和利　1996「製塩土器からみた律令期集落の様相」『九州歴史資料館研究論集21』
九州歴史資料館

大川　清・鈴木公雄・工楽善通　1996「日本土器事典」　雄山閣

山本信夫　2000「太宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－」『太宰府市の文化財第49集』
太宰府市教育委員会

中世土器研究会　1995「概説　中世の土器・陶磁器」　真陽社

小田原市千代南原遺跡第Ⅶ地点発掘調査団　2000「神奈川県小田原市千代南原遺跡第Ⅶ地点」
神奈川県小田原市

鹿児島県知覧町教育委員会　2000「厚地松山製鉄遺跡」
『鹿児島県知覧町埋蔵文化財発掘調査報告書第９集』

齊藤孝正　2000「越州窯青磁と緑釉・灰釉陶器」『日本の美術６』　至文堂

大阪府教育委員会　1976～1978「陶邑Ⅰ～Ⅲ」『大阪府文化財調査報告第28～30集』

橋本久和　1992「中世土器研究序論」　真陽社

「日本古代」『世界陶磁全集２』　小学館

鹿児島県立埋蔵文化財センター　2001「上野原遺跡」
『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(28)』

都城市教育委員会　2002「横市地区遺跡群」『都城市文化財報告書第58集』

宮崎県　1998「古代２」『宮崎県史　通史編』

山本信夫　1999「太宰府出土施釉陶器の編年について」　国立歴史民俗博物館

工楽善通　1991「水田の考古学」　東京大学出版会

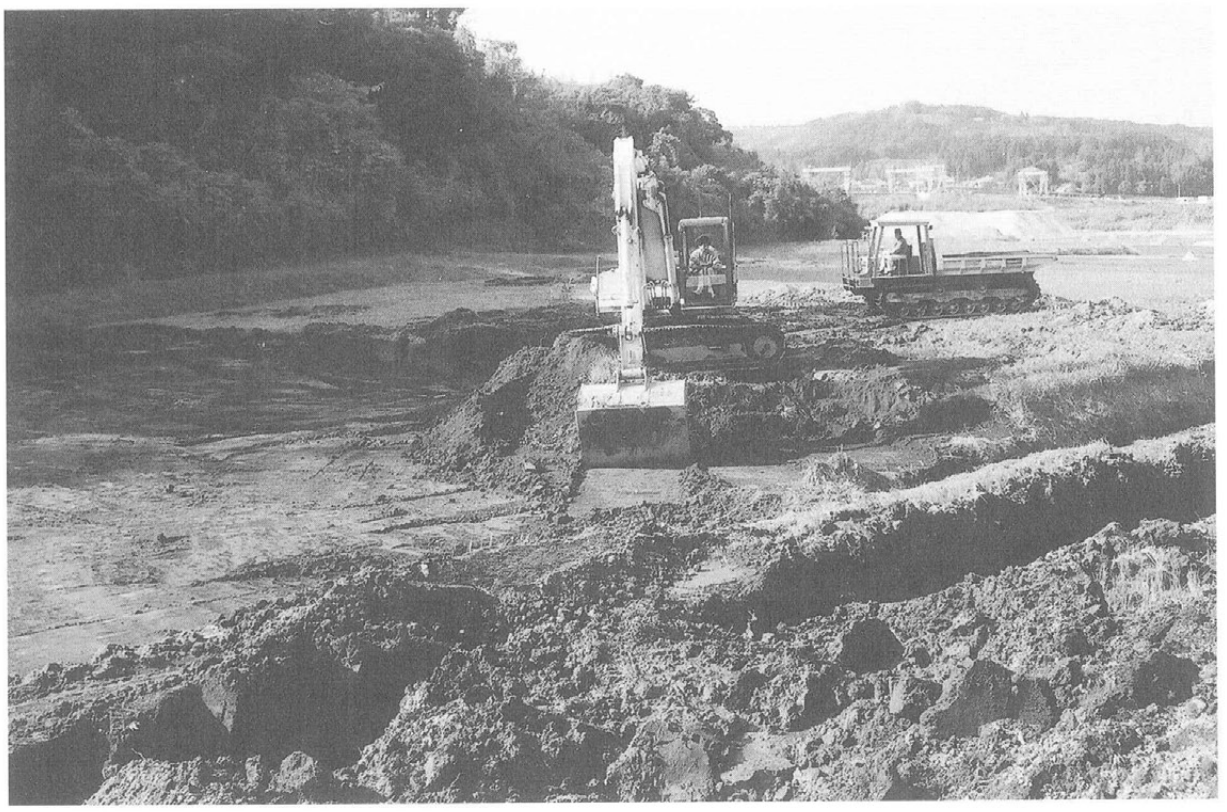
小林行雄　1962「古代の技術」　塙書房

都城市教育委員会文化課　1999「都城と島津氏－都城の歴史と都城島津家のあゆみ－」
『都城歴史資料館開館十周年記念特別　企画展展示図録』

写　真　図　版

調査前遺跡全景
（南東から）

調査前確認調査風景

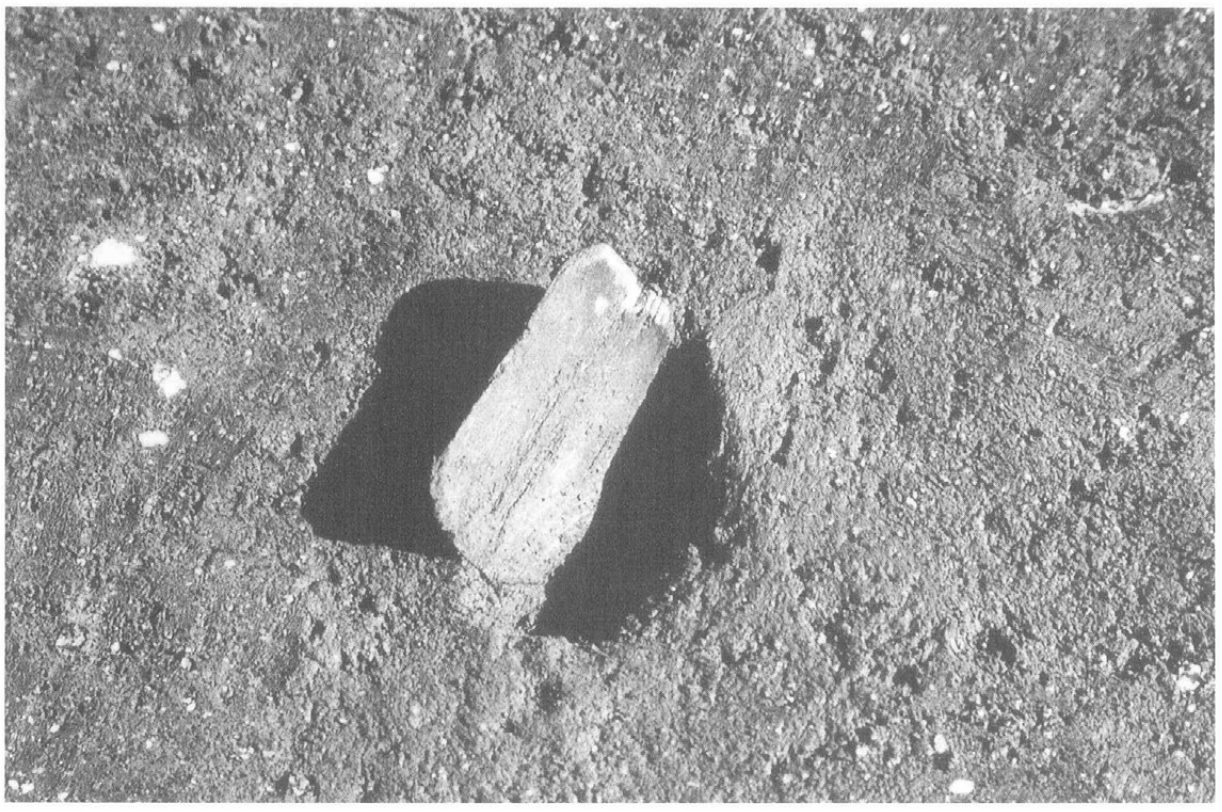


表土剥ぎ風景

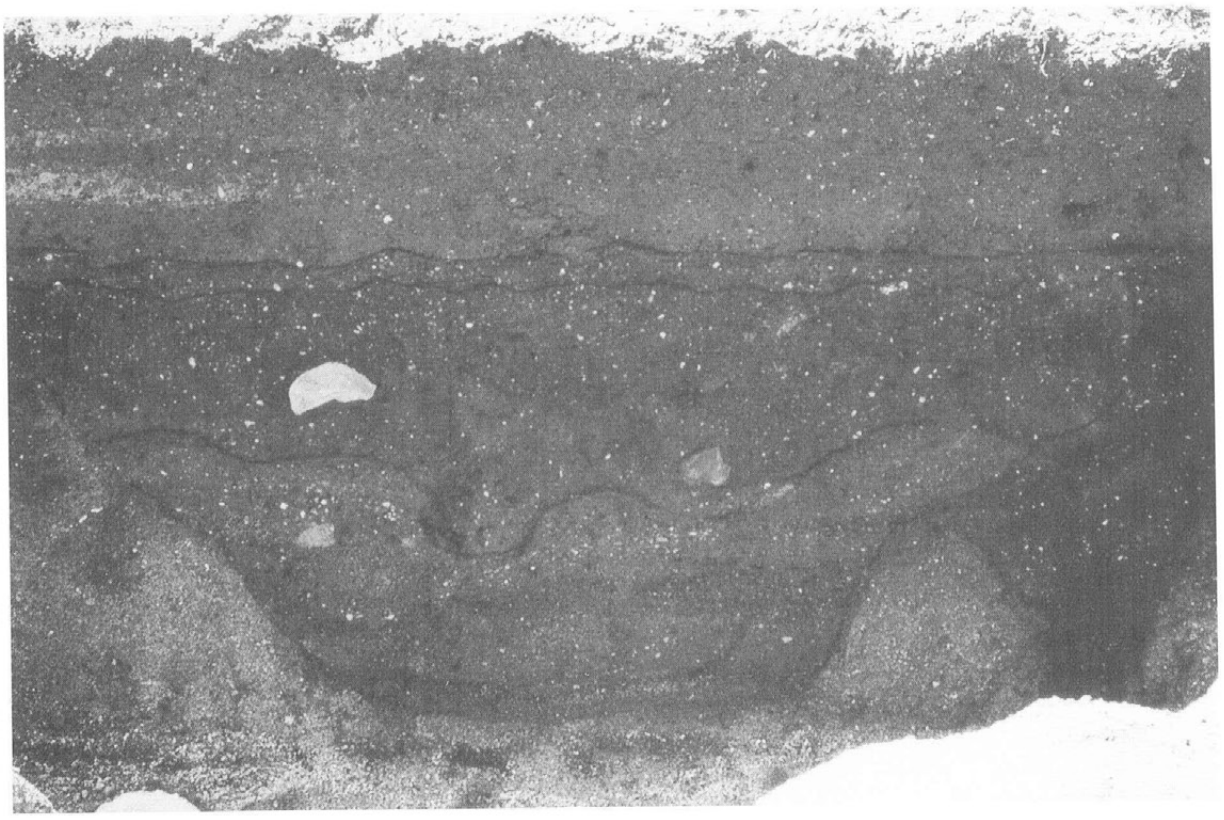
図版 2

発掘調査風景

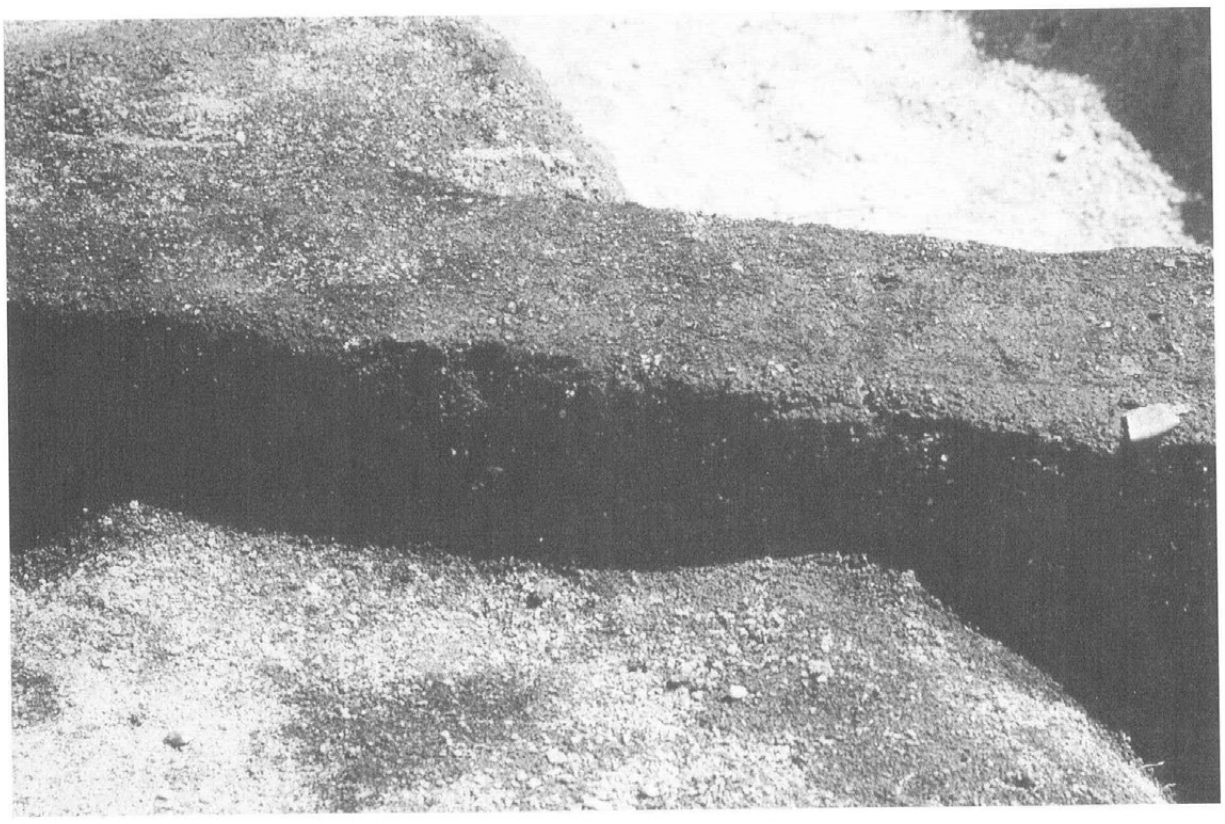
調査区外東側旧地形状況



木器(皿)出土状況



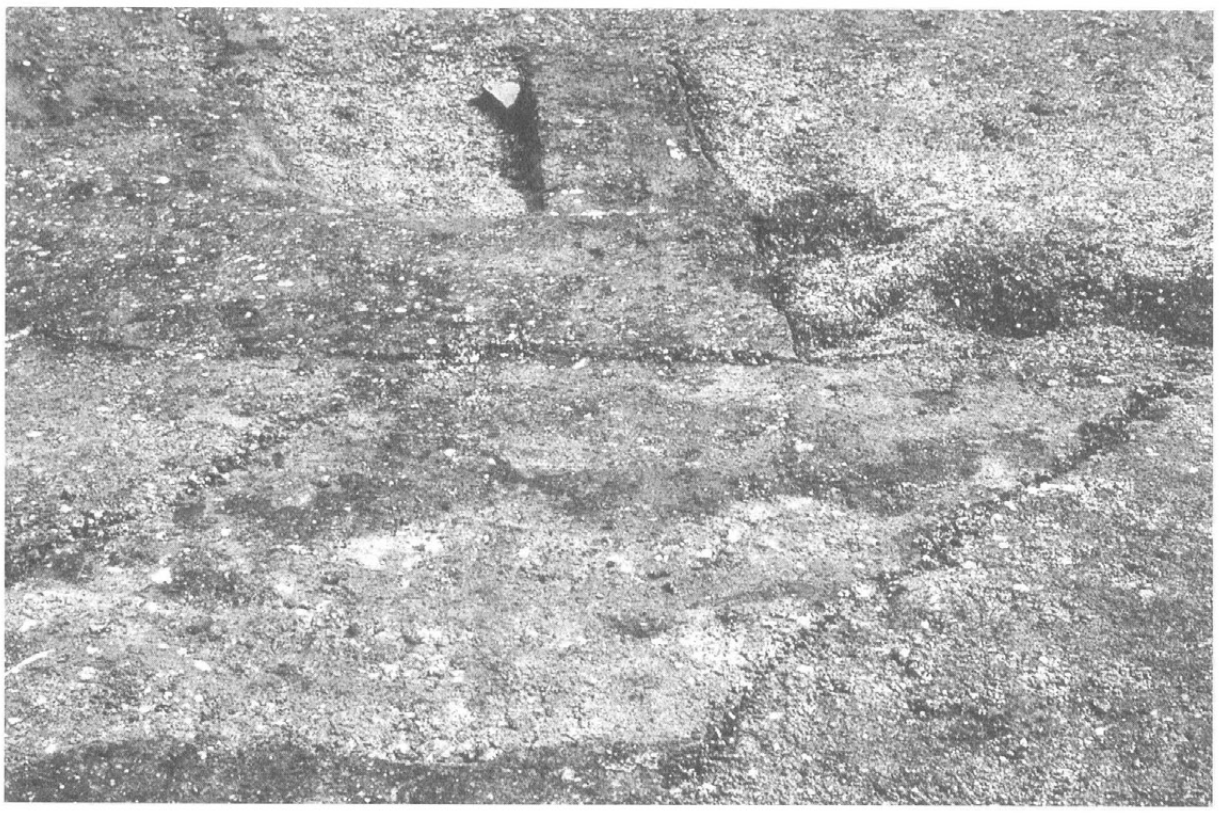
SD01西端部土層断面



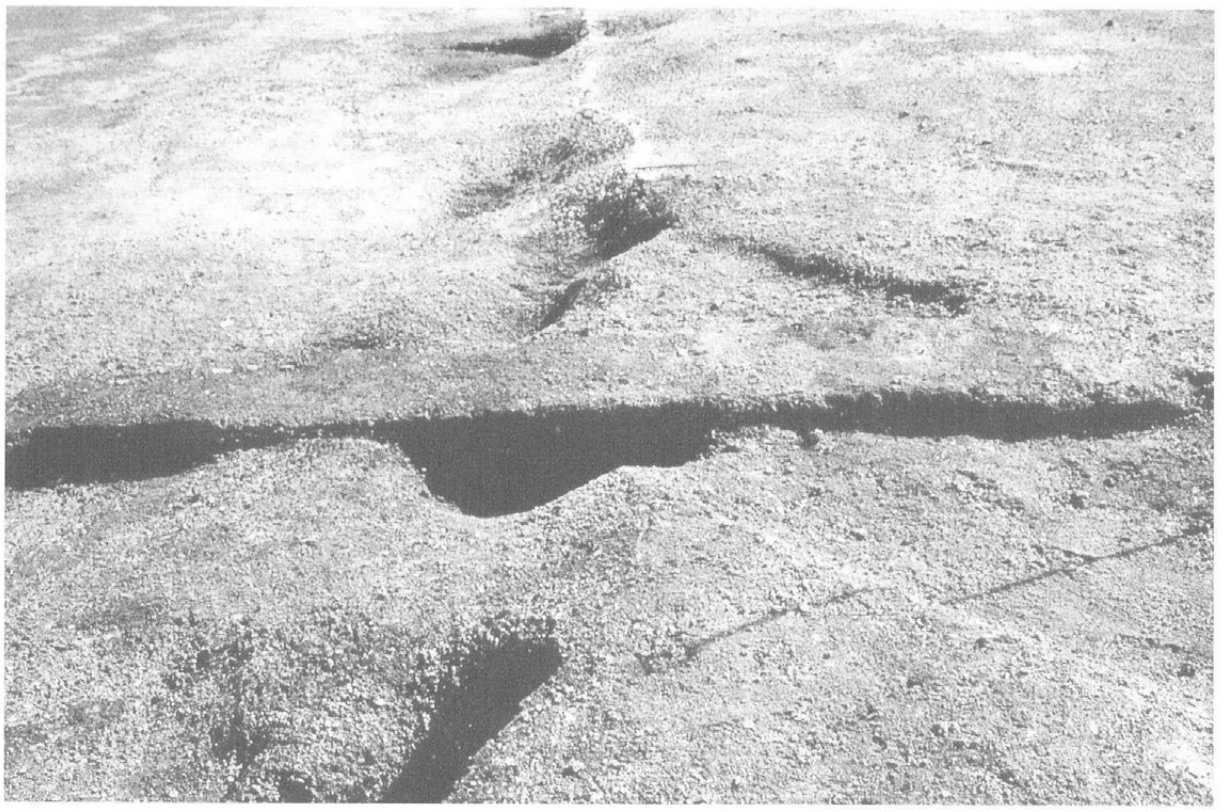
SD01、SC03切り合い
土層断面

SD01中央部土層断面

図版 4

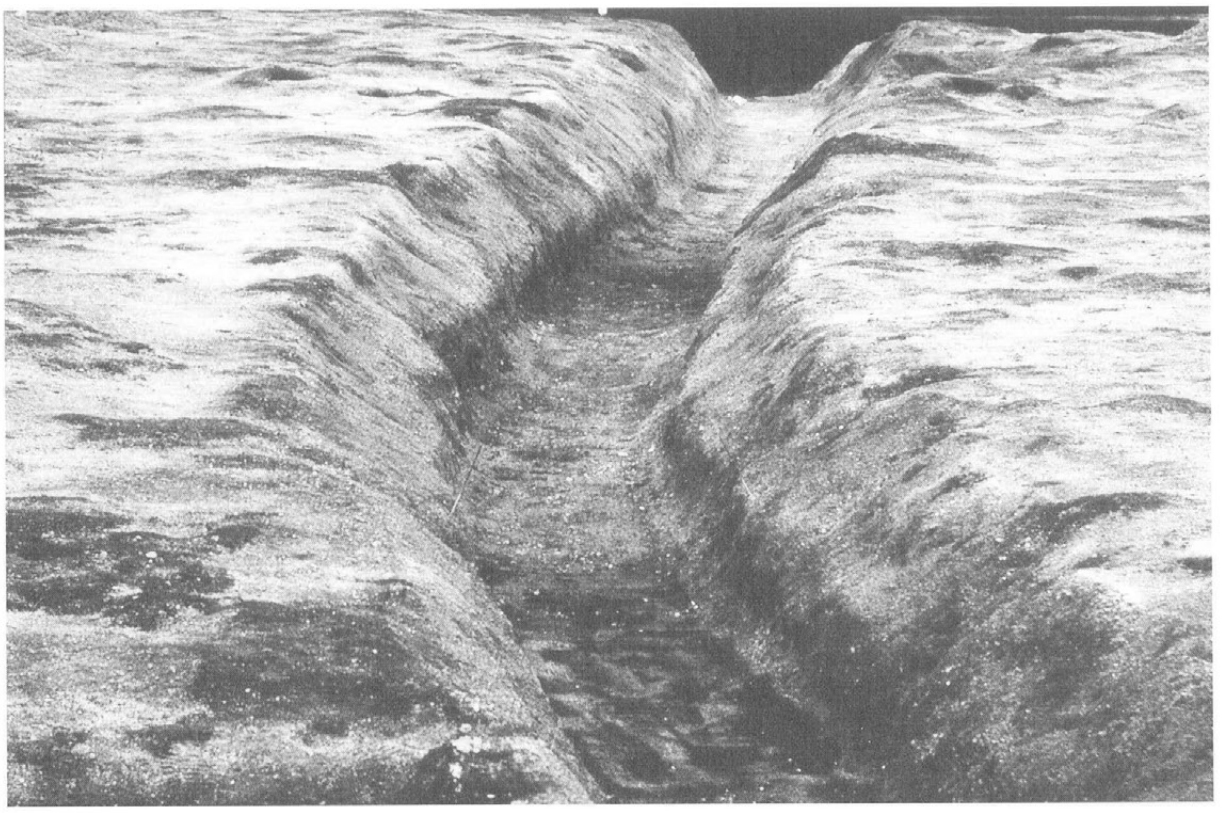


SD01、SW01の切り合い状況

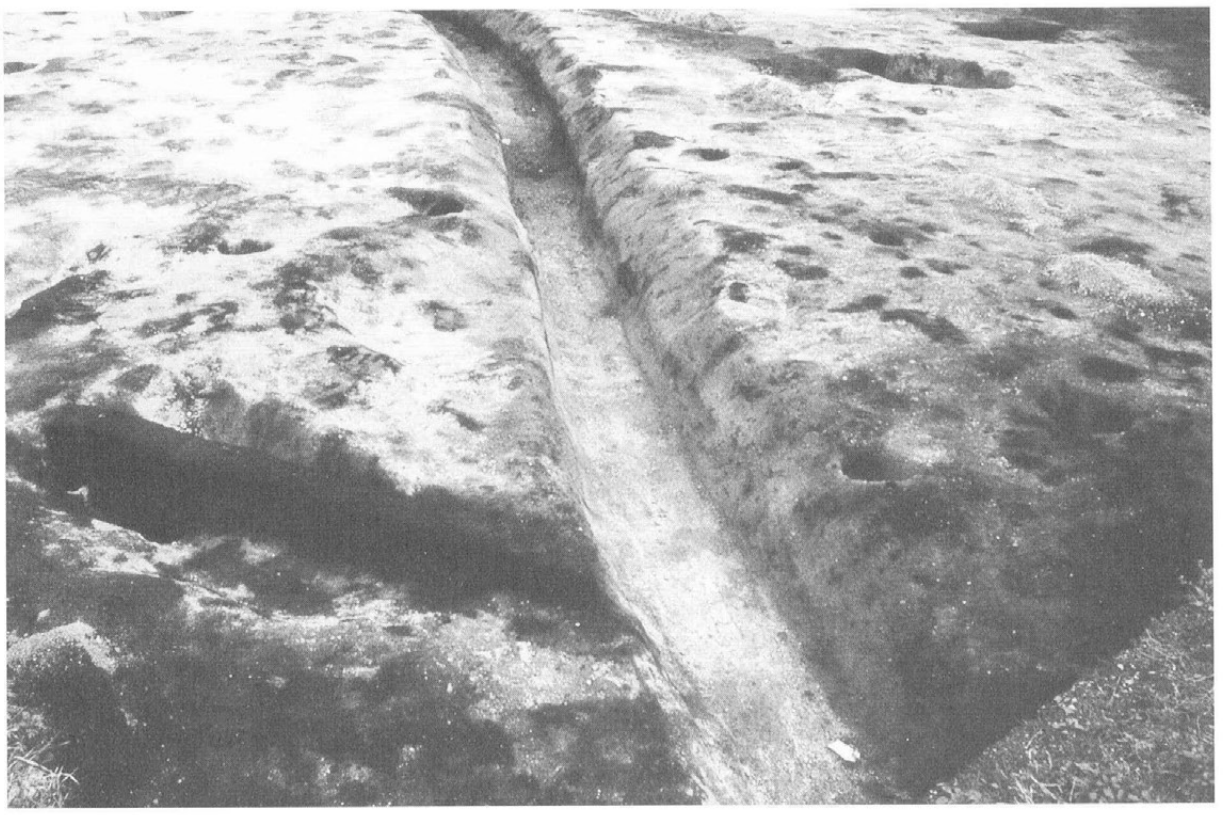


SD01、SW01切り合い土層断面

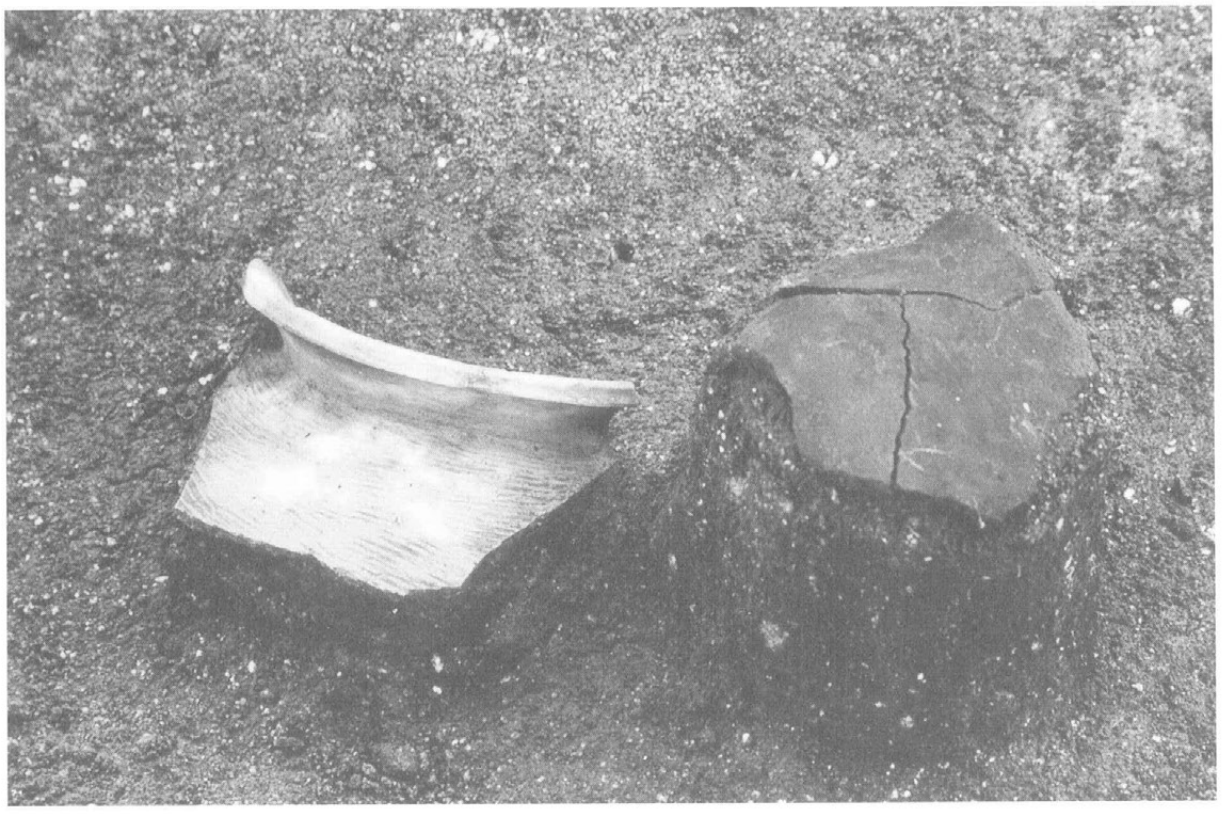
SD01完掘状況
（東から）



SD01完掘状況
（東から）



SD01完掘状況
（西から）

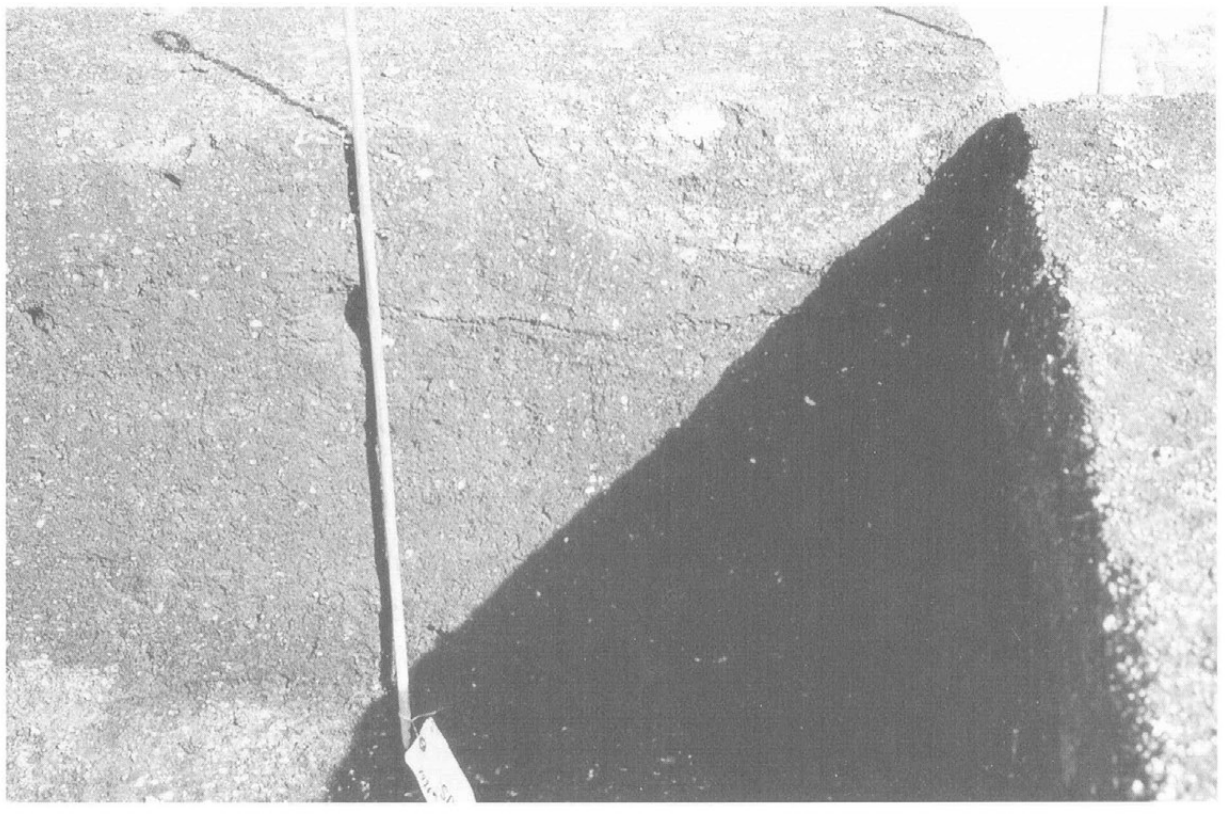


SD01内遺物出土状況

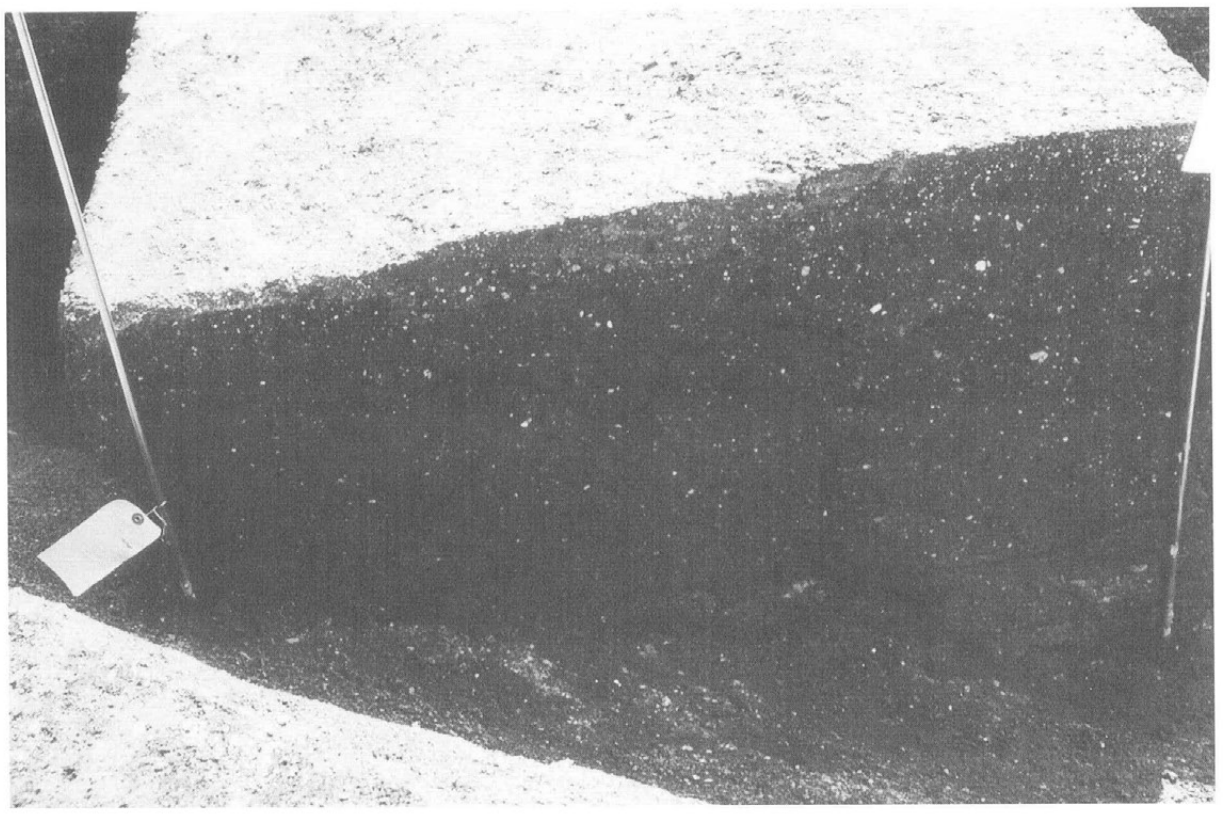
図版 6

SD02中央部土層断面

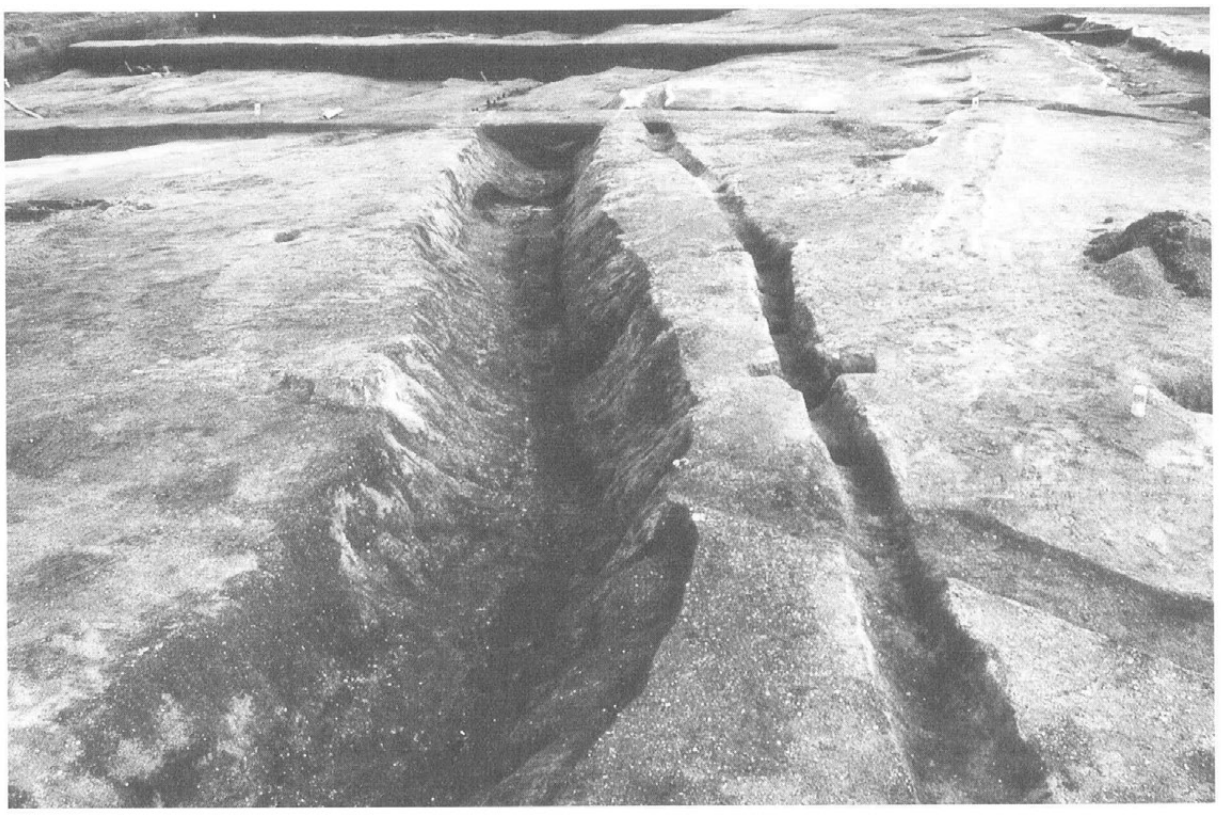
SD02南端部土層断面



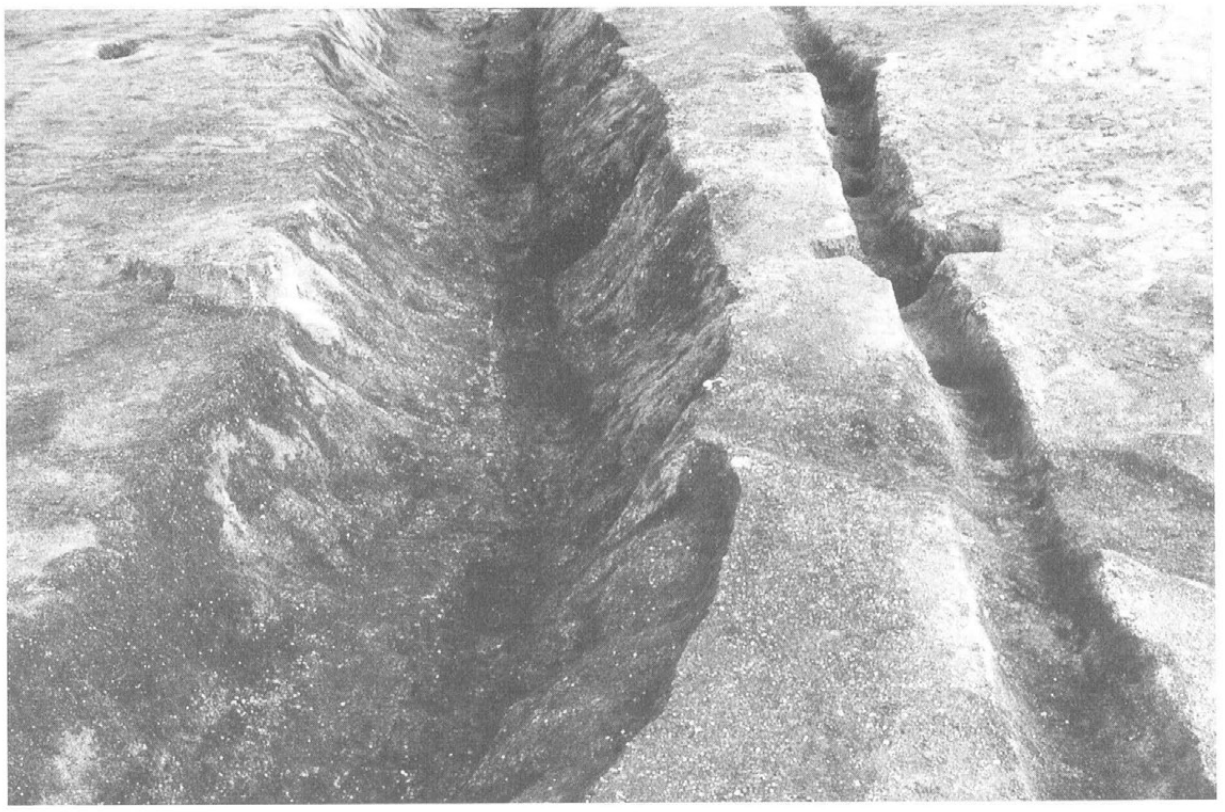
SD02、03切り合い
土層断面



SD02、SW01切り合い
土層断面



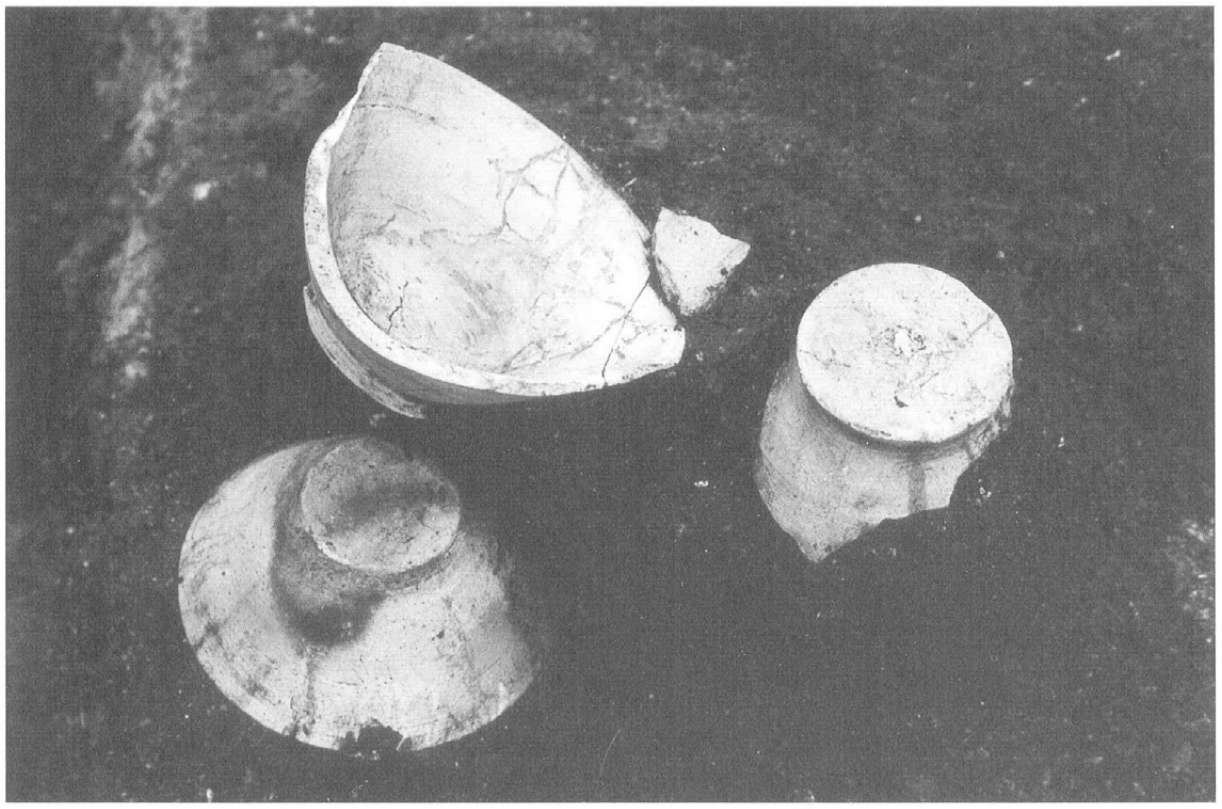
SD02完掘状況
（北から）



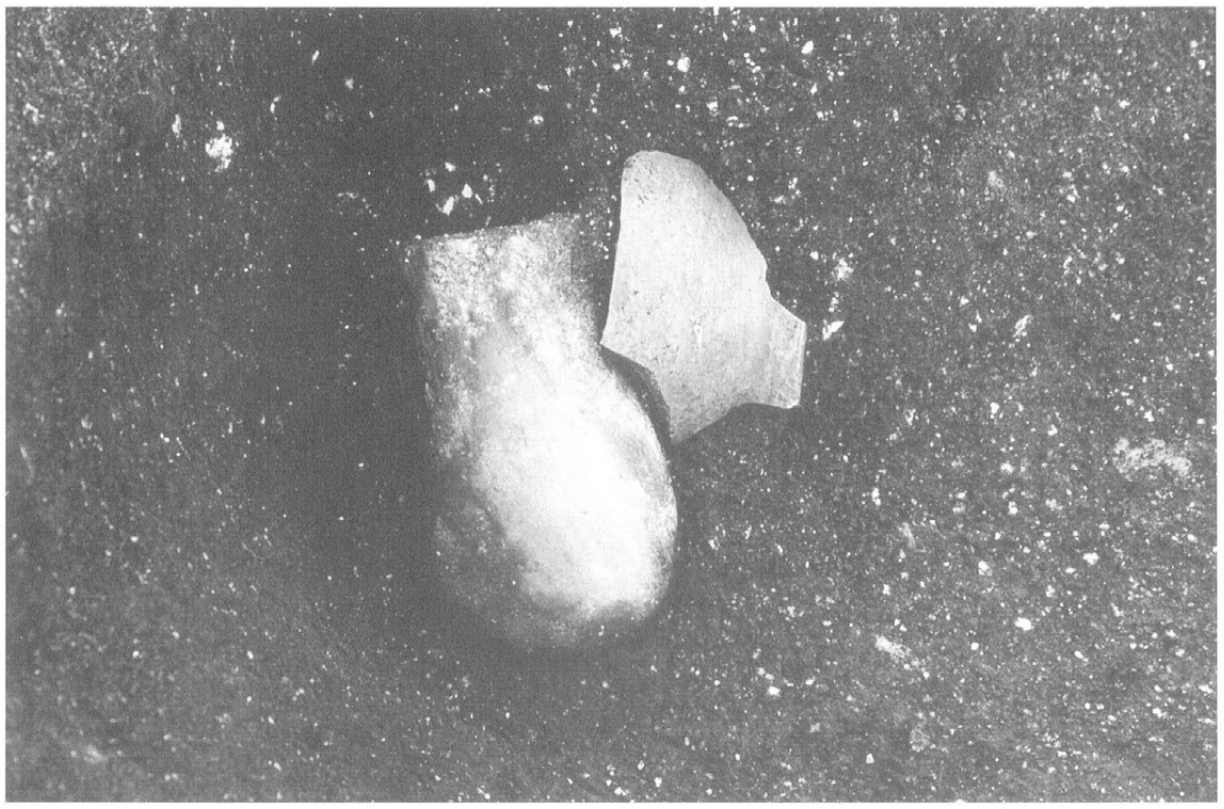
同　上

図 版 8

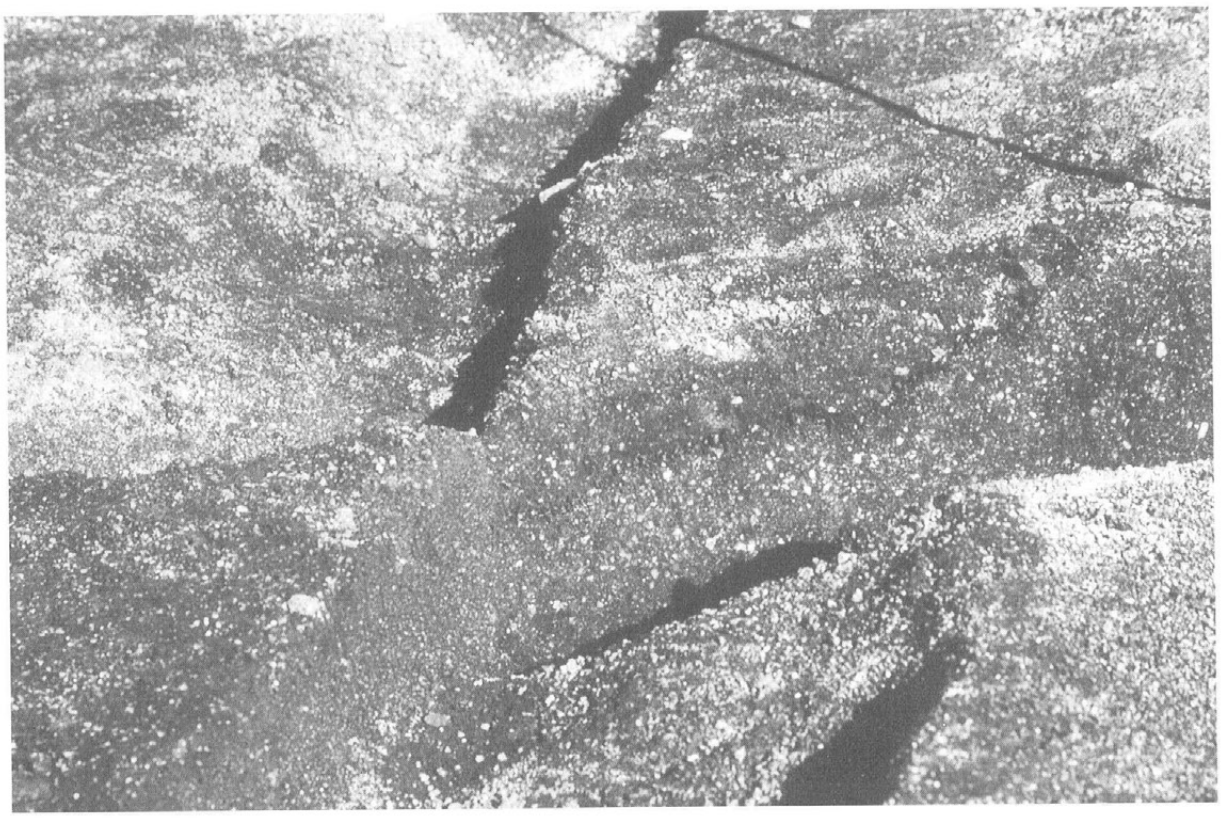
SD02完掘状況
（南から）



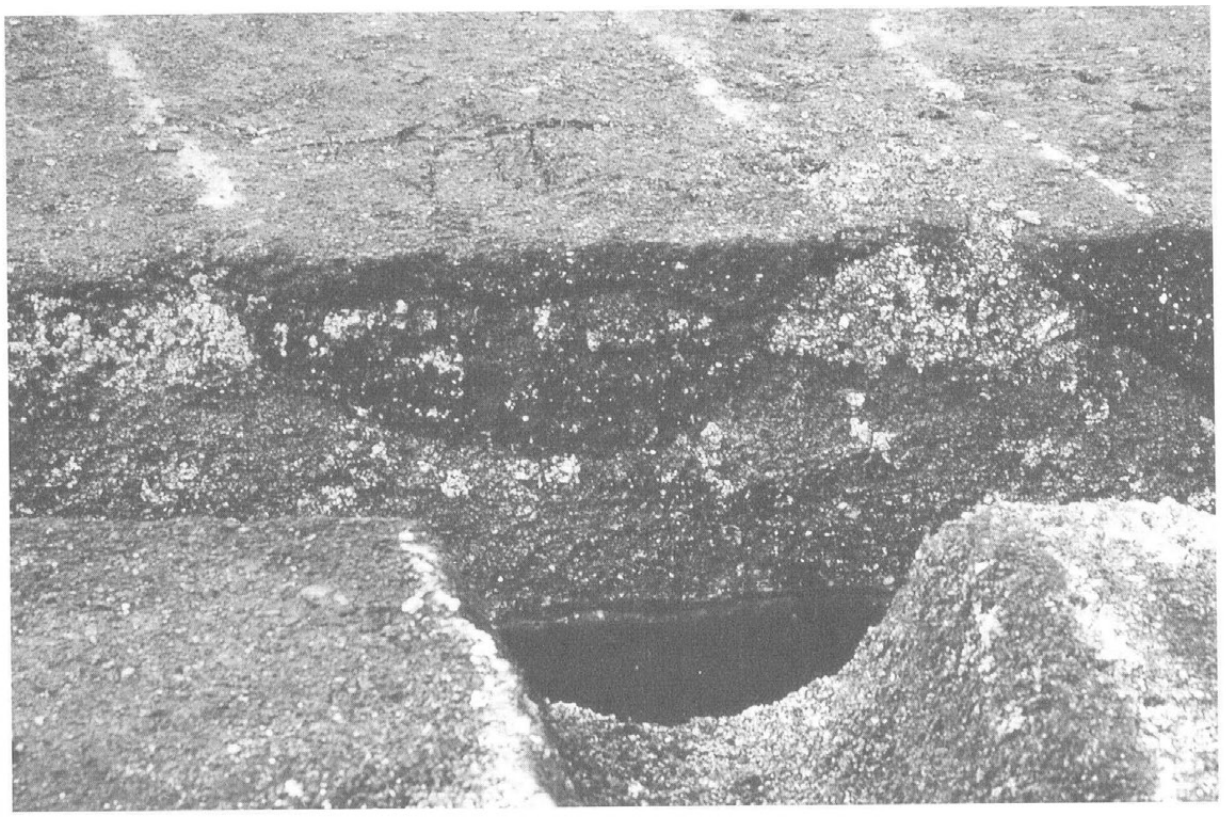
SD02内遺物出土状況



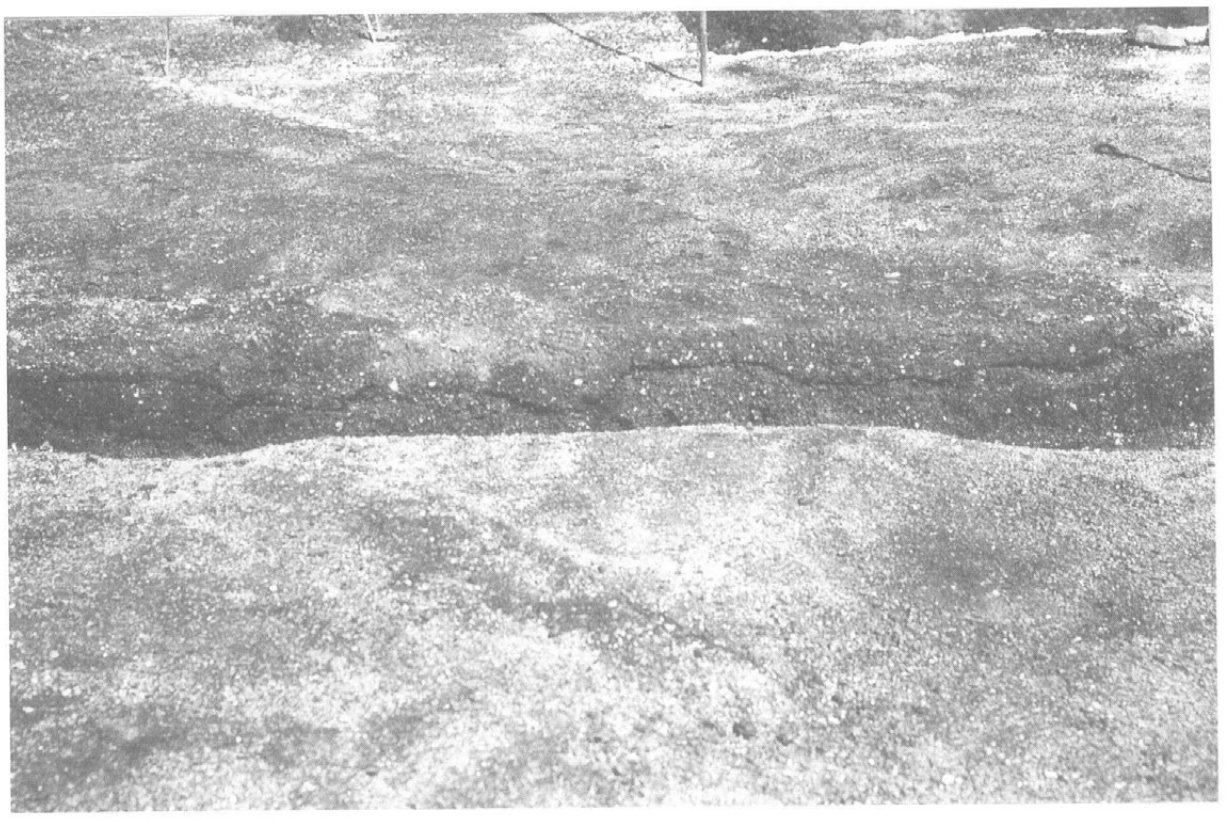
同　上



SD03、04切り合い
土層断面



SD04土層断面
（南から）



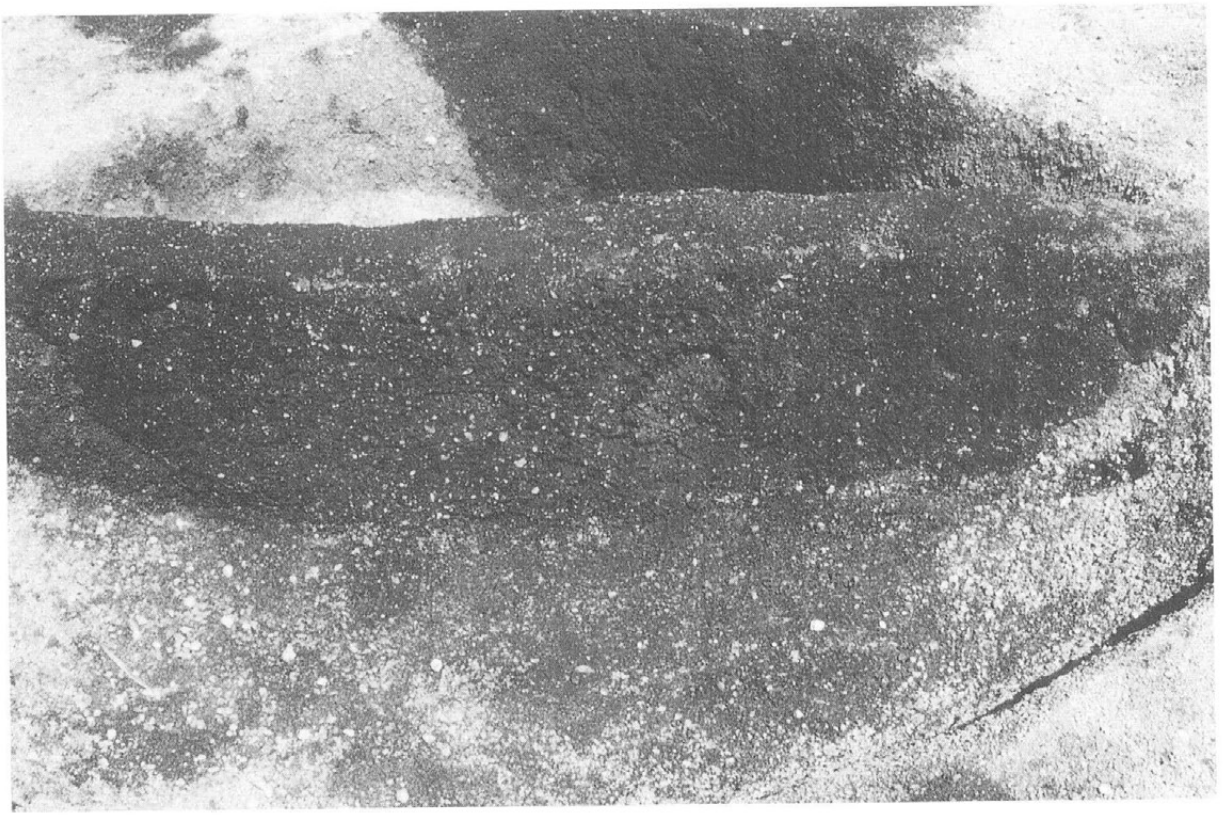
SD04、SW01切り合い
土層断面

図 版 10

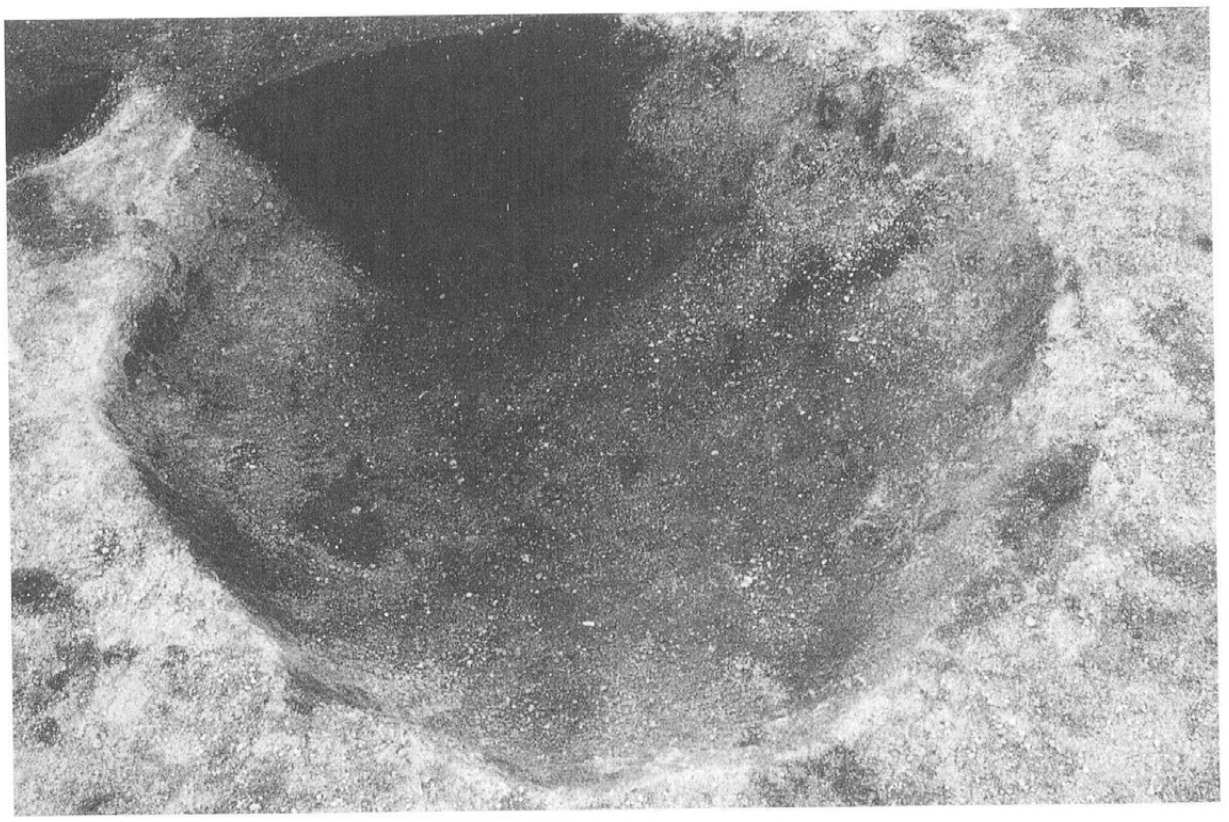
SD05土層断面
（南から）

SC01土層断面

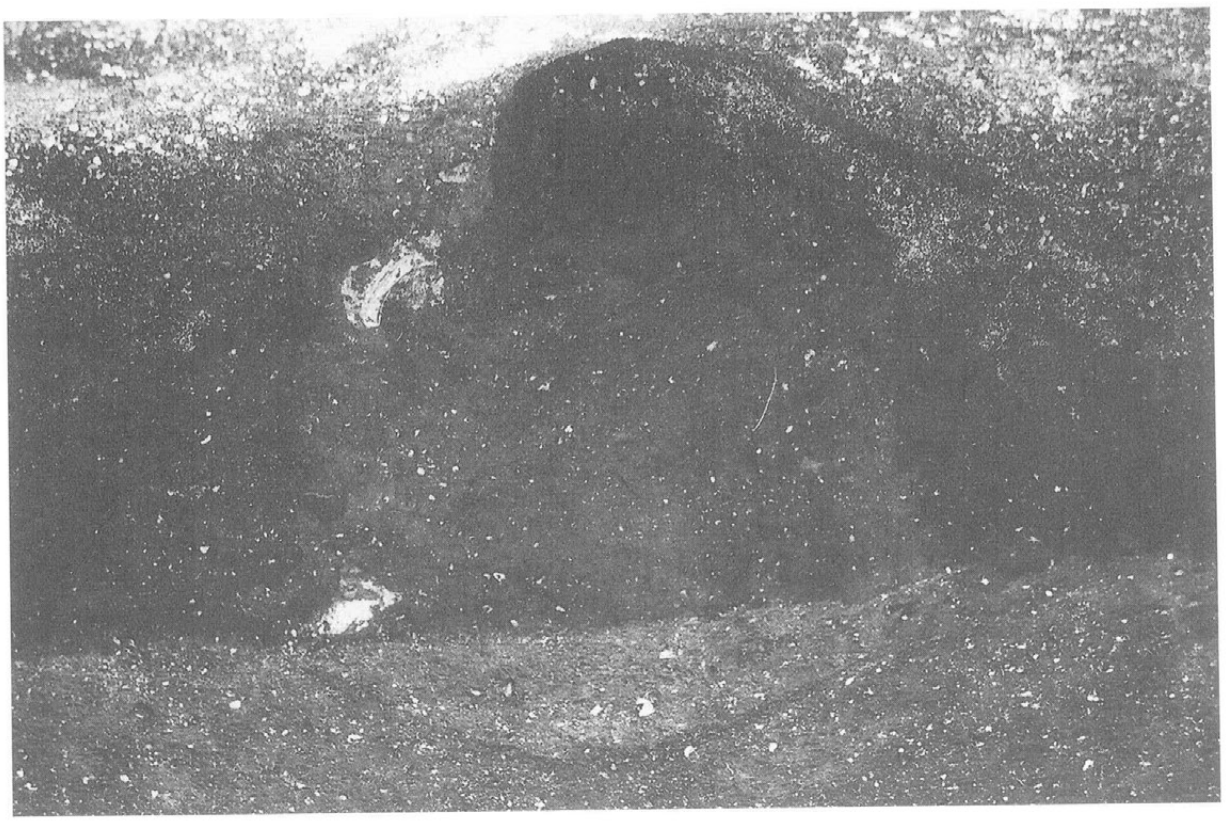
SC01完掘状況



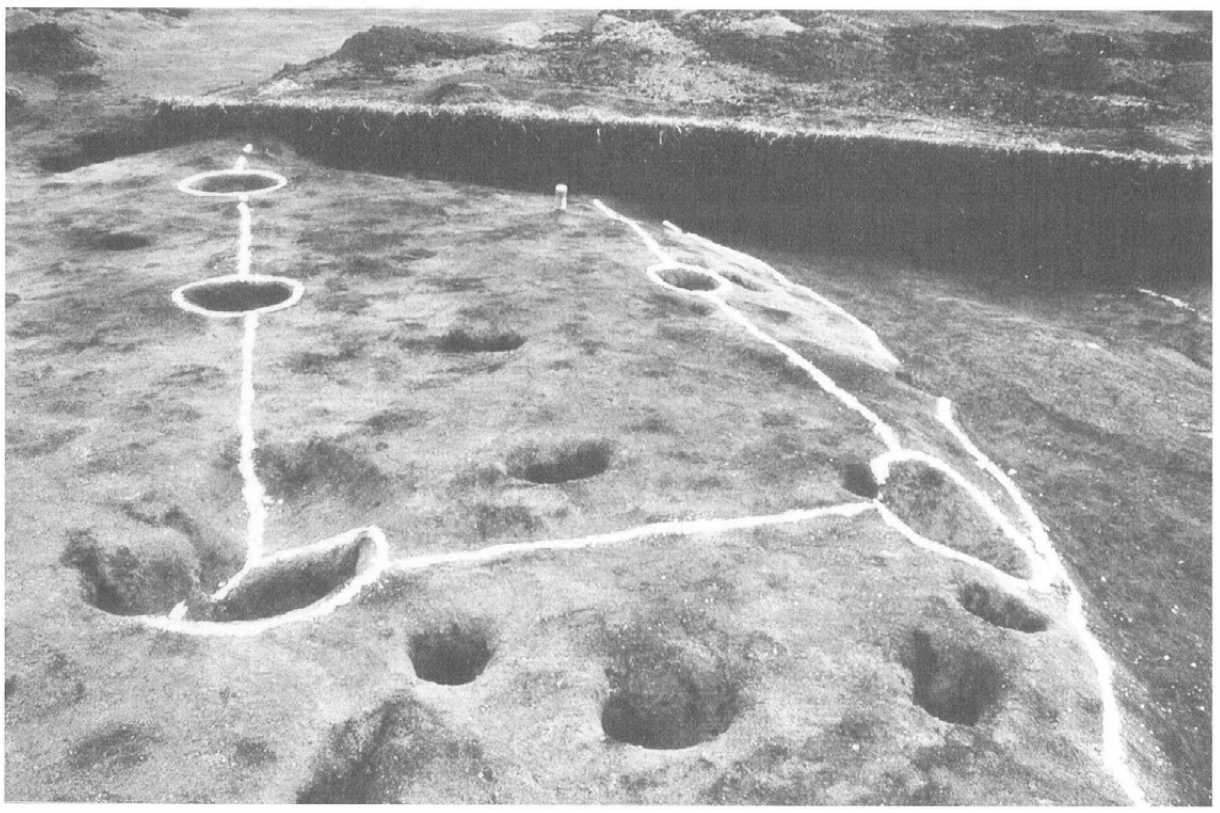
SC02土層断面



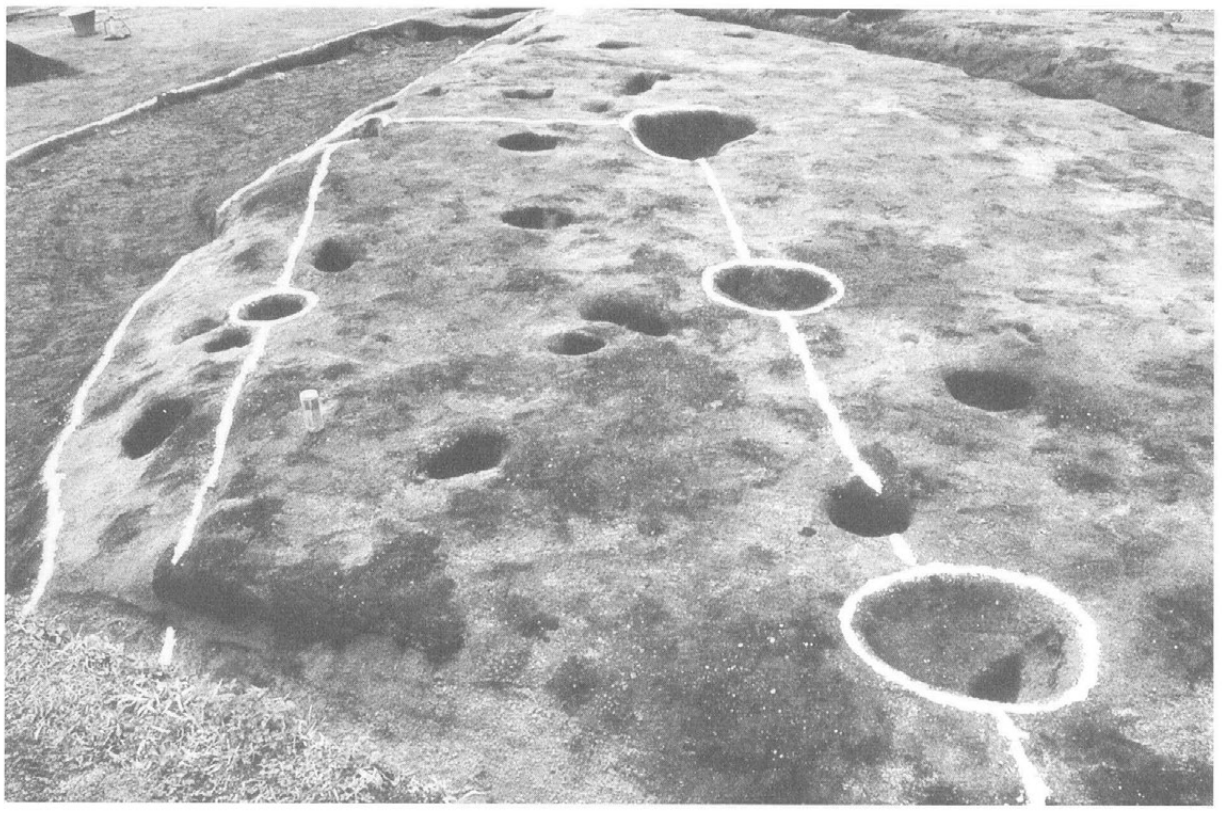
SC02完掘状況



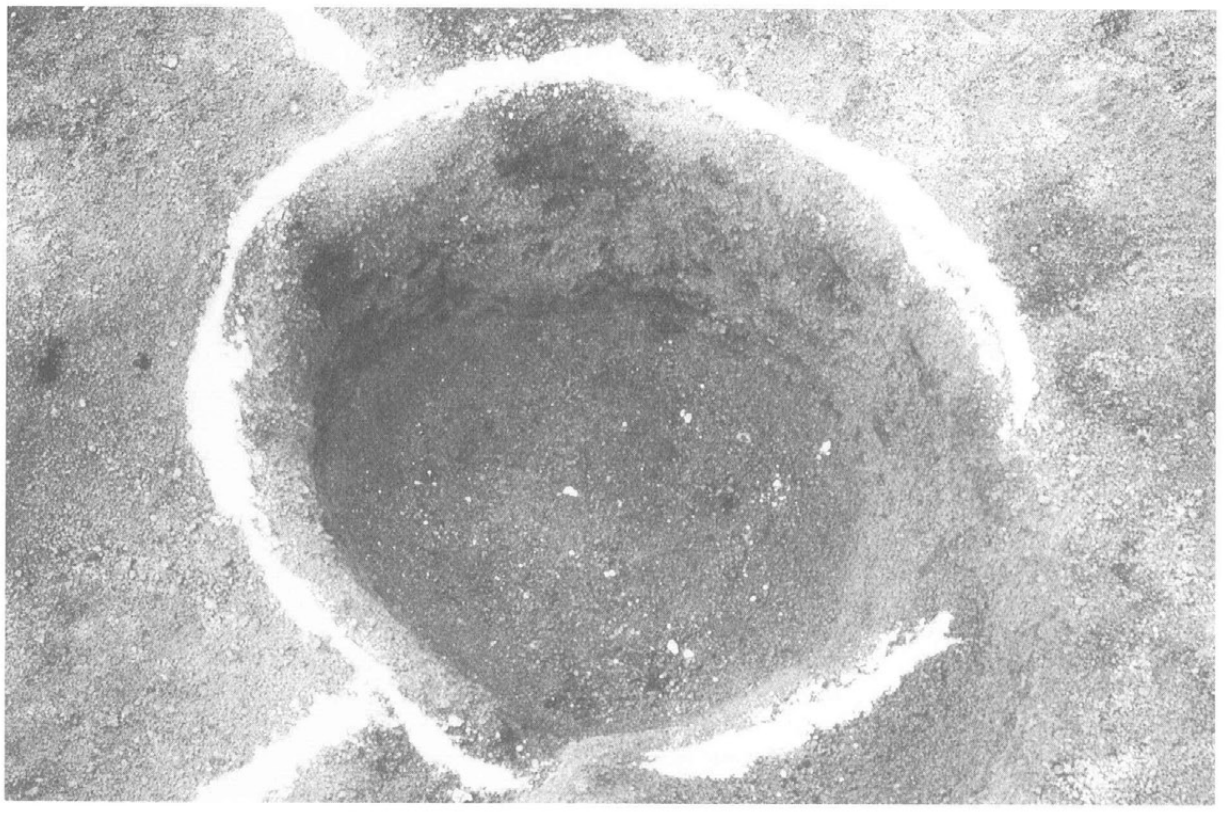
グループBピット土層断面



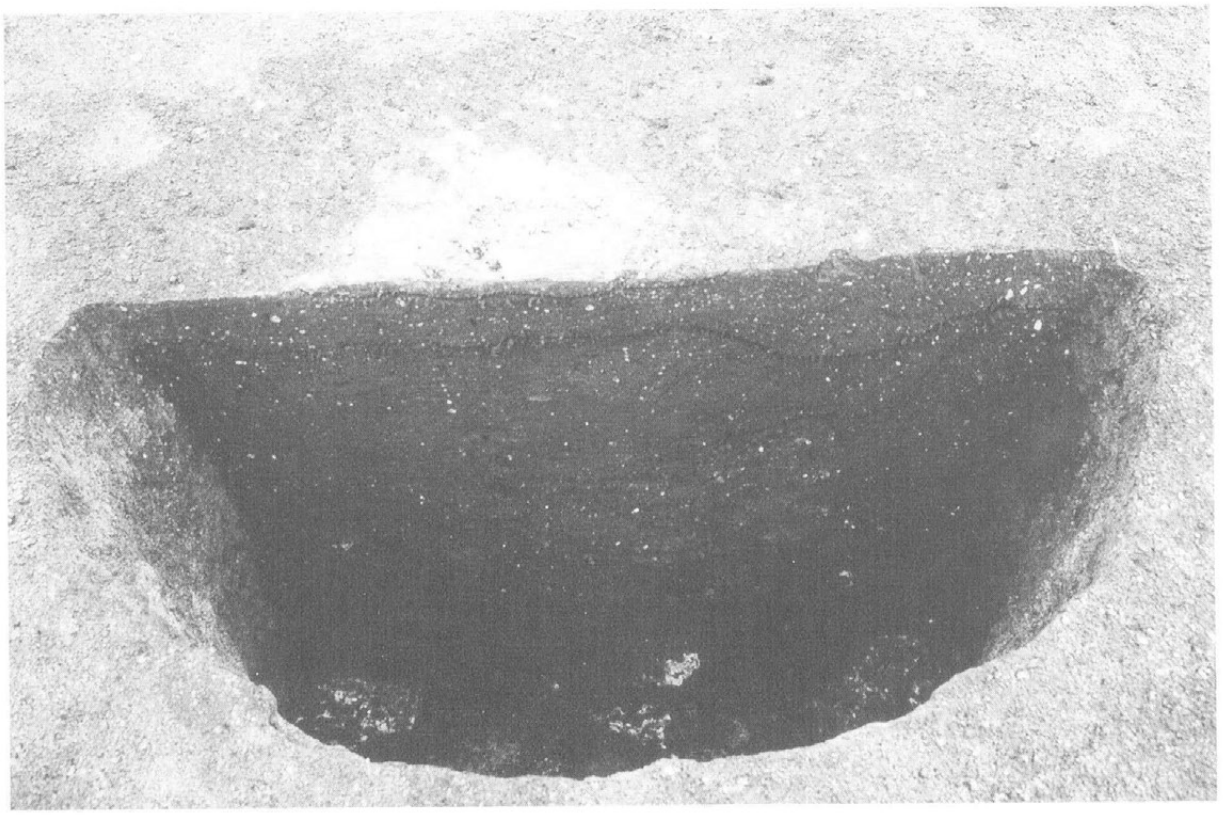
SB01全景
（南から）



SB01全景
（北から）



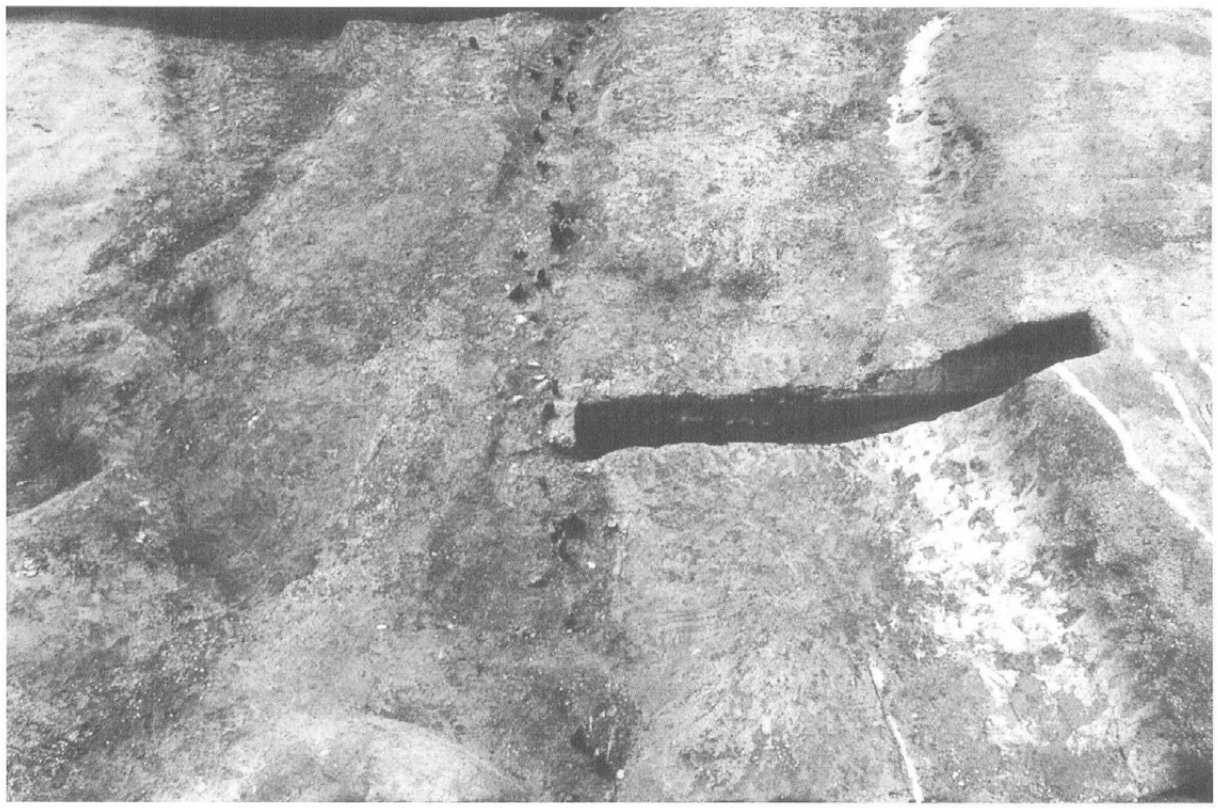
SB01ピット完掘状況



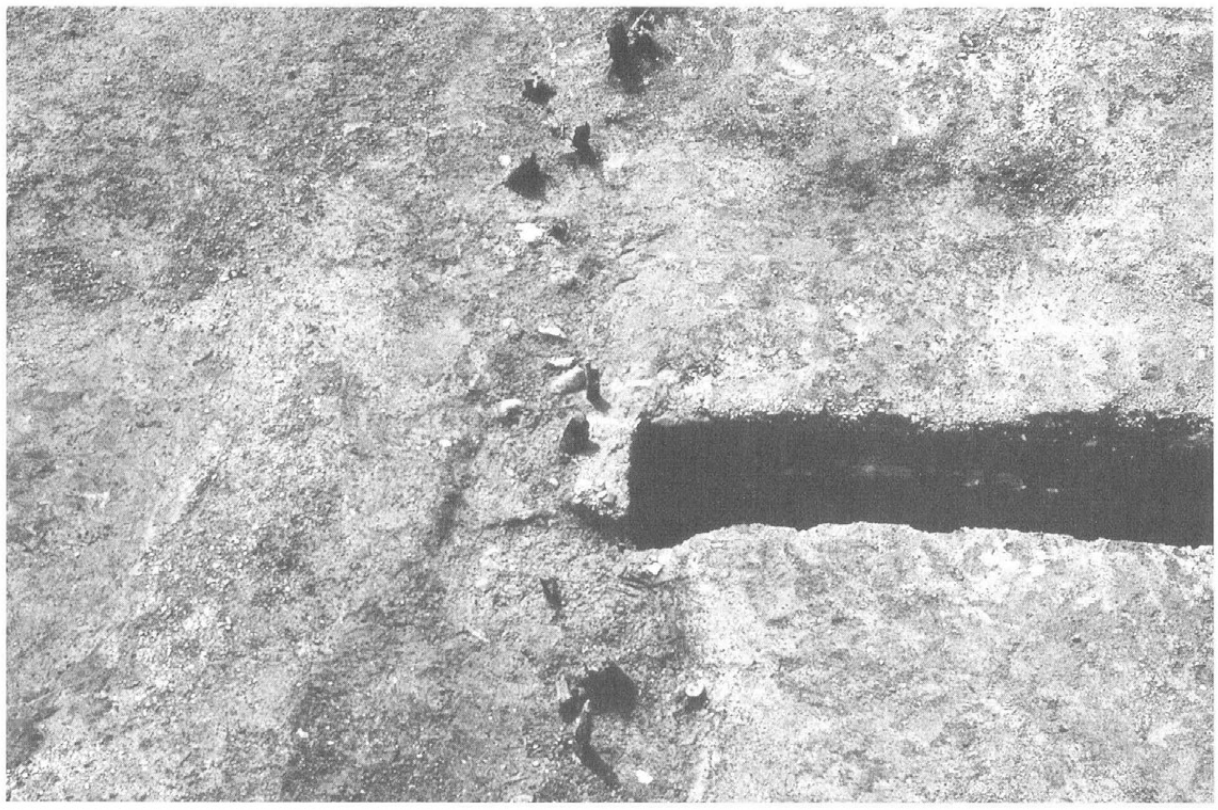
SE01土層断面
（南から）

SE01掘り下げ状況
（南から）

SE01完掘状況
（南東から）

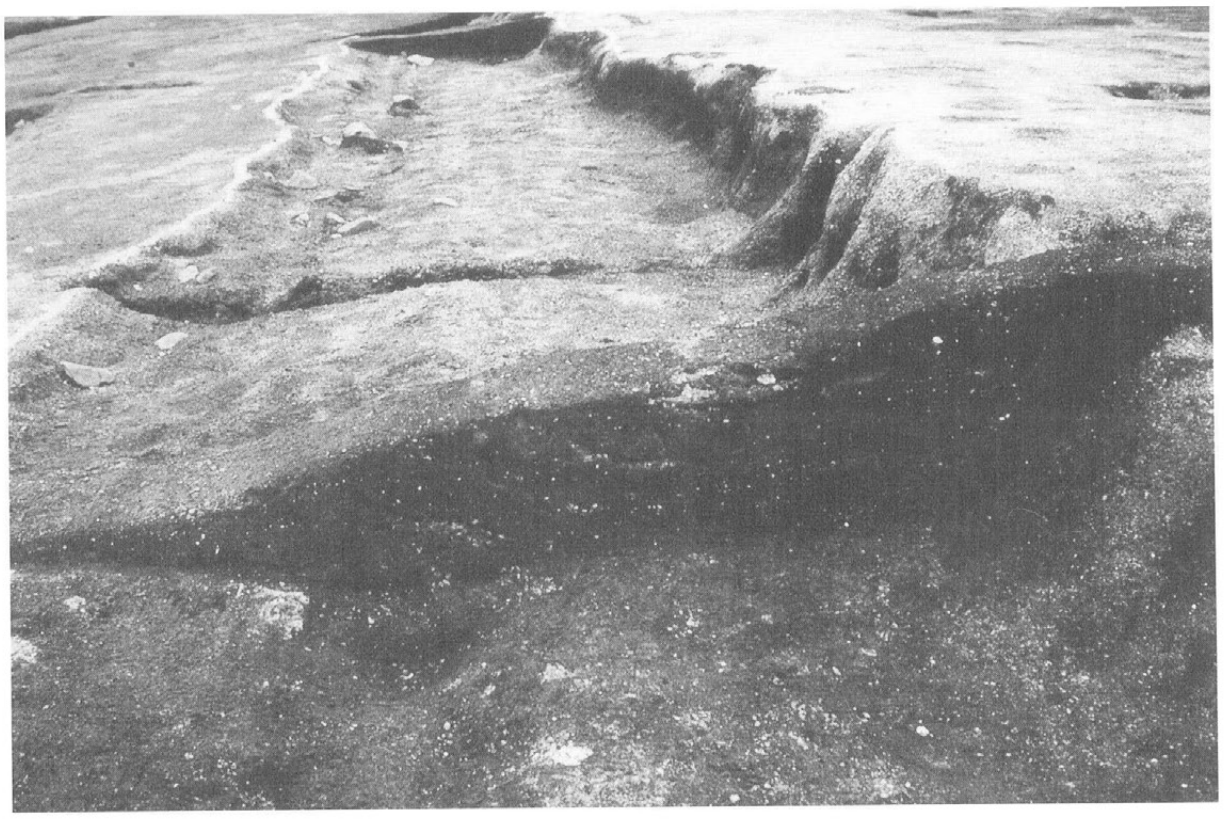


杭列全景
（北から）

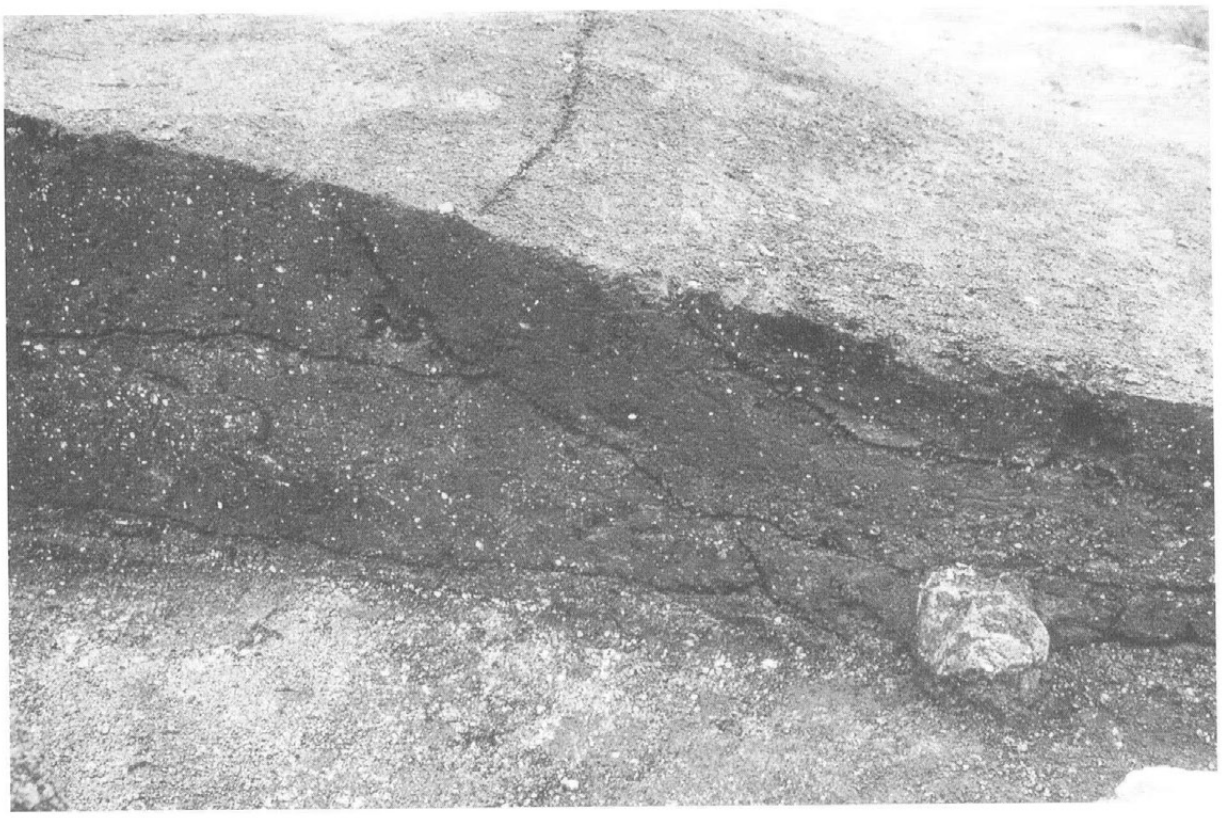


杭列北側部分近景
（北から）

杭列南側部分近景
（北から）



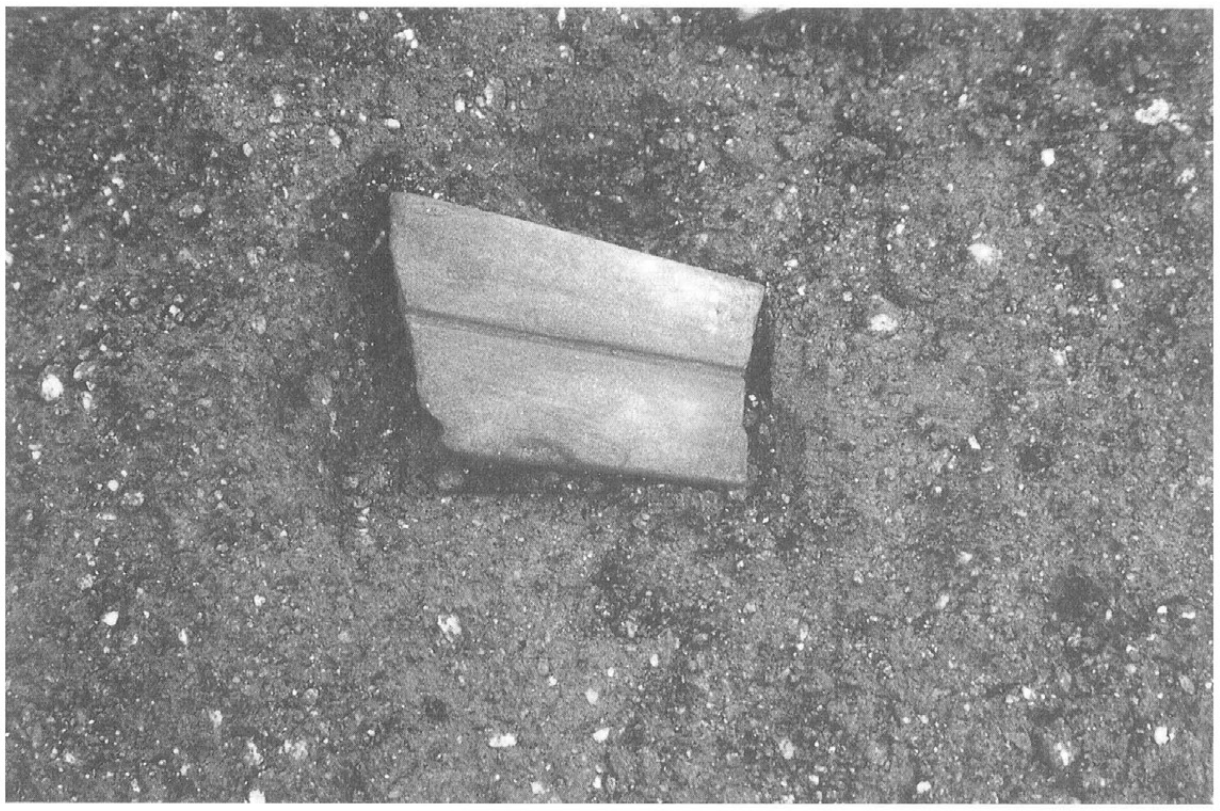
SF01土層断面



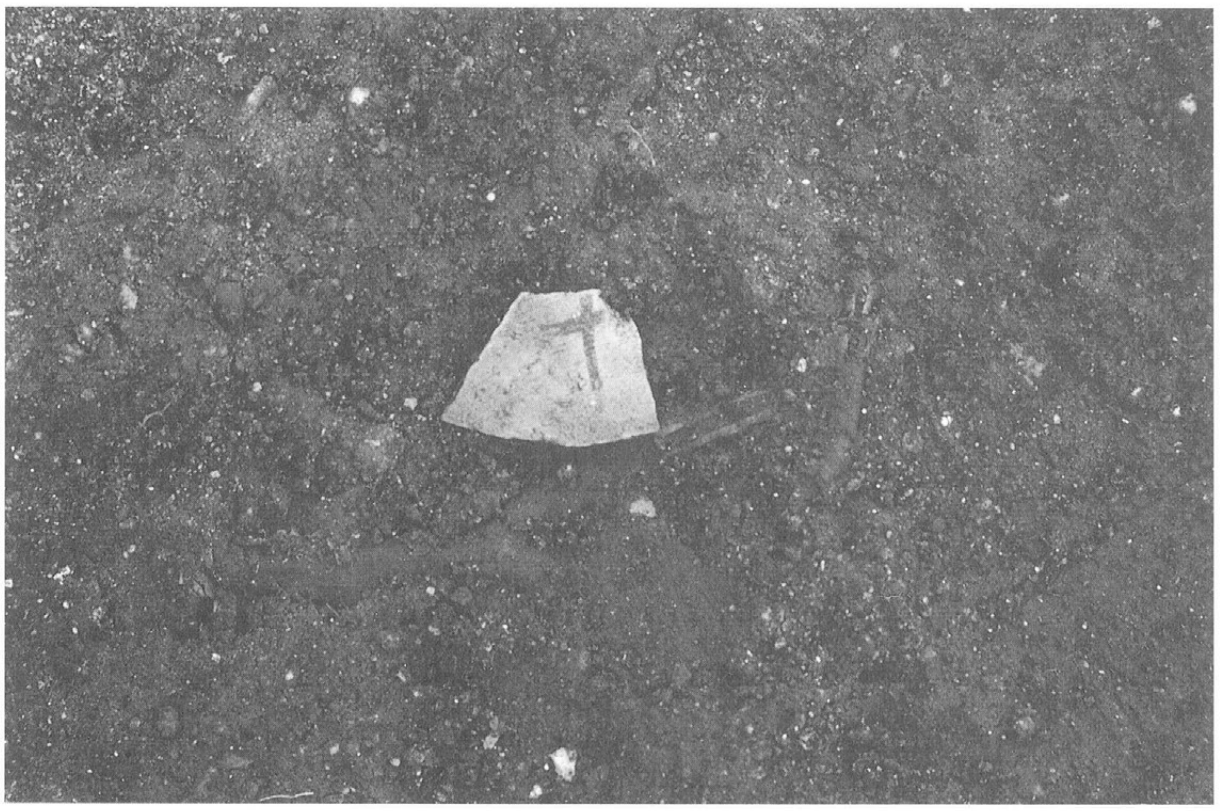
SF01、SD01切り合い
土層断面

SF01全景

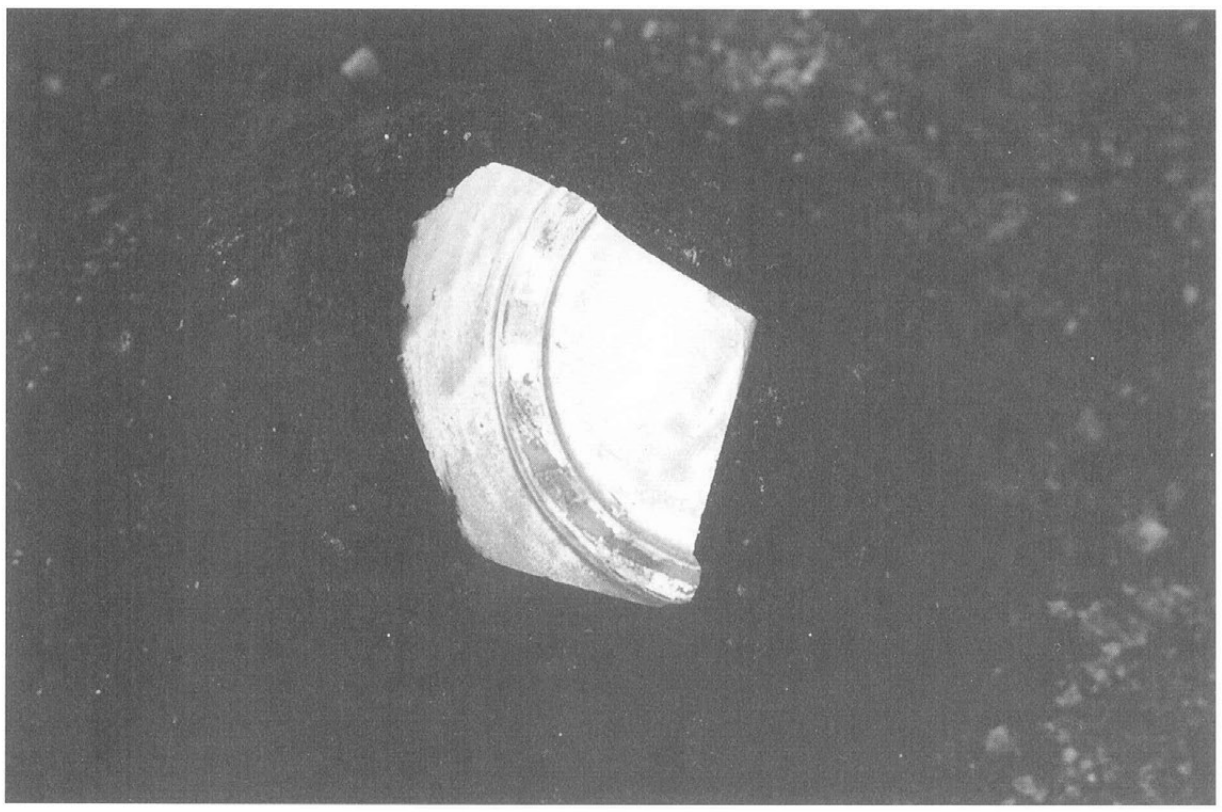
図 版 16



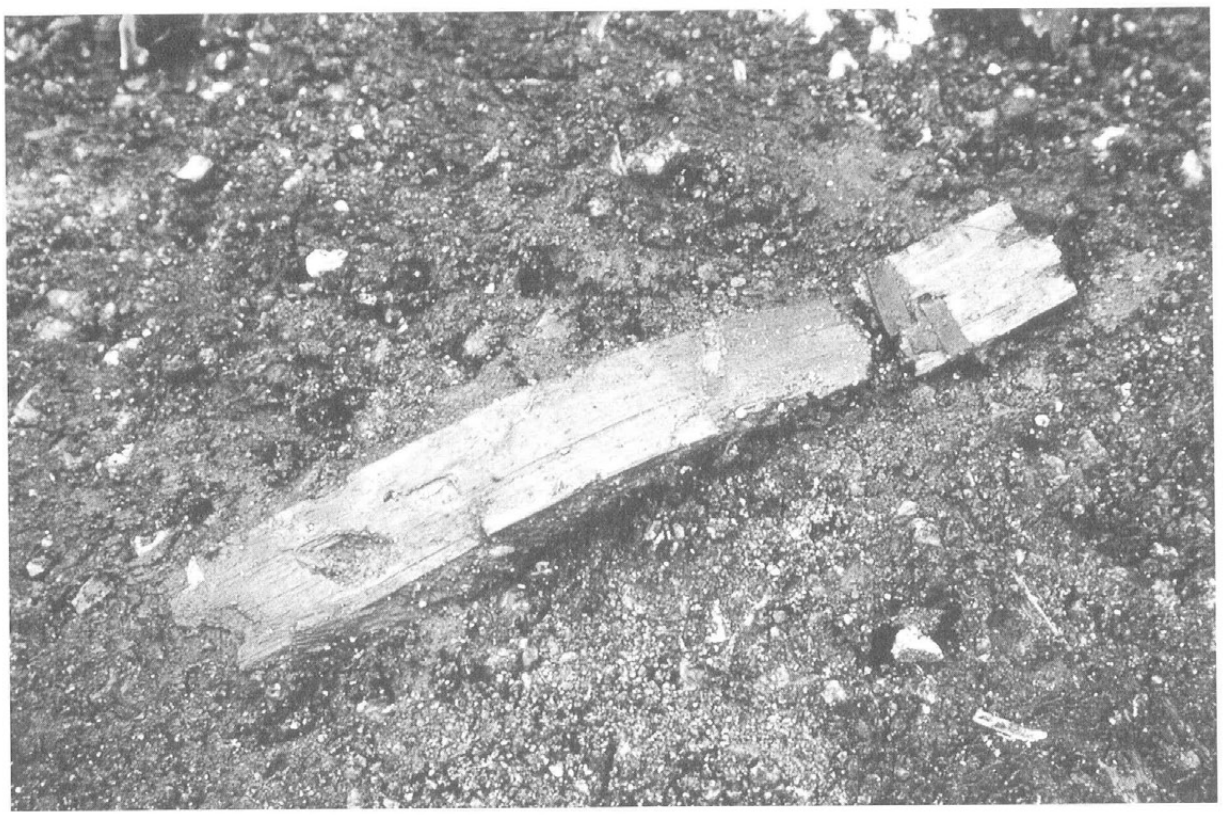
砥石出土状況



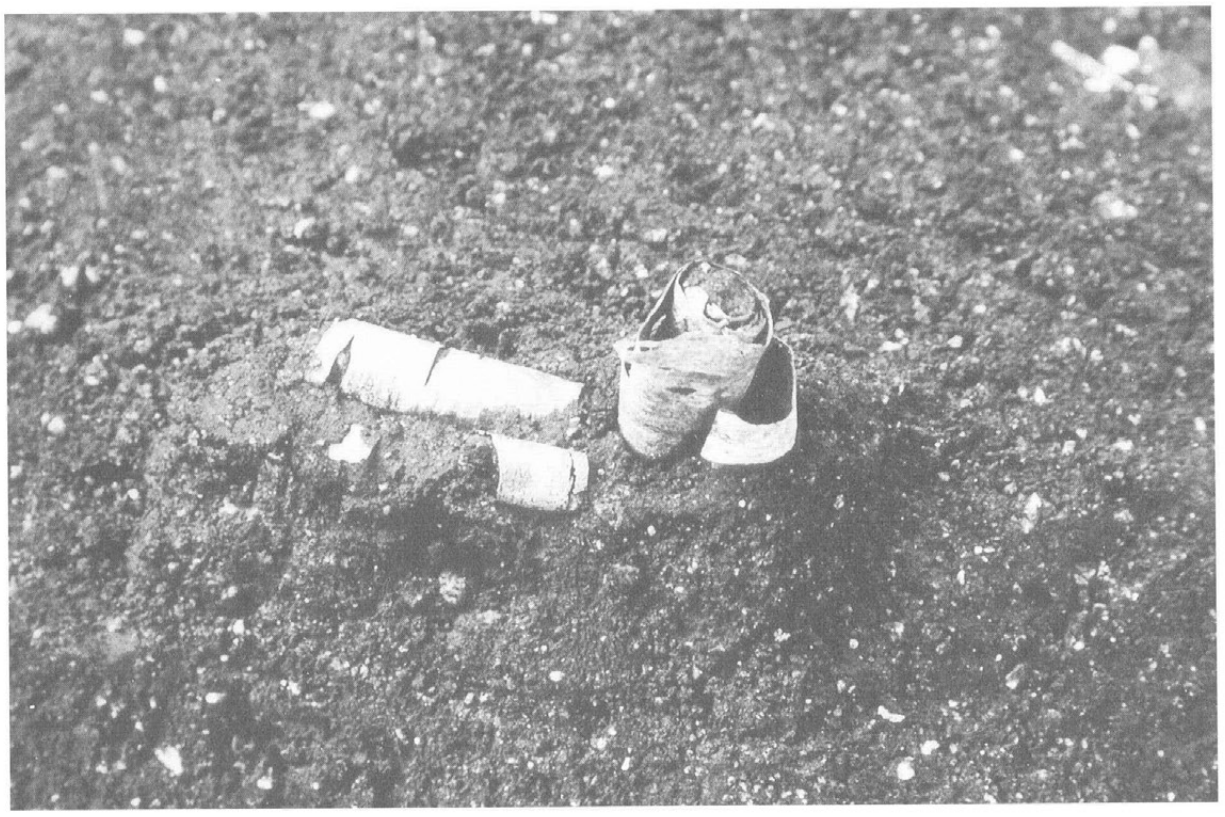
墨書土器出土状況



緑釉陶器出土状況

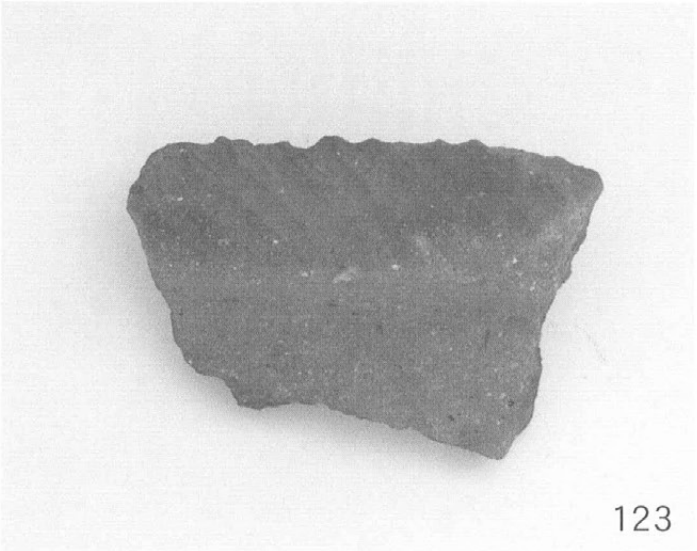


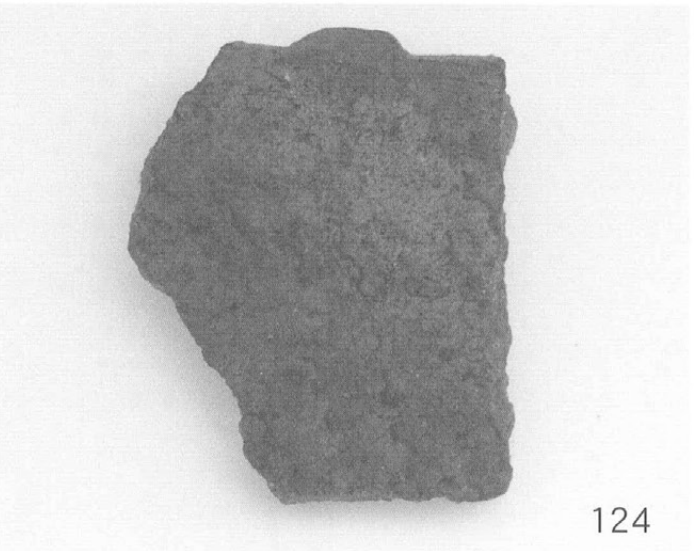
木器(曲物)出土状況

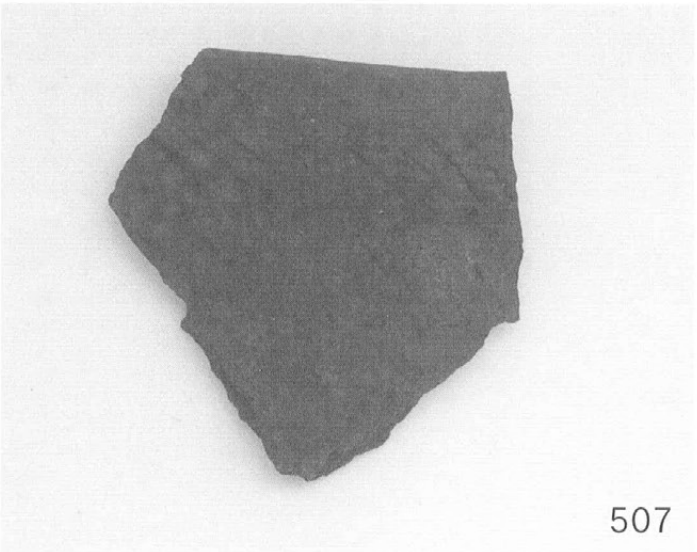


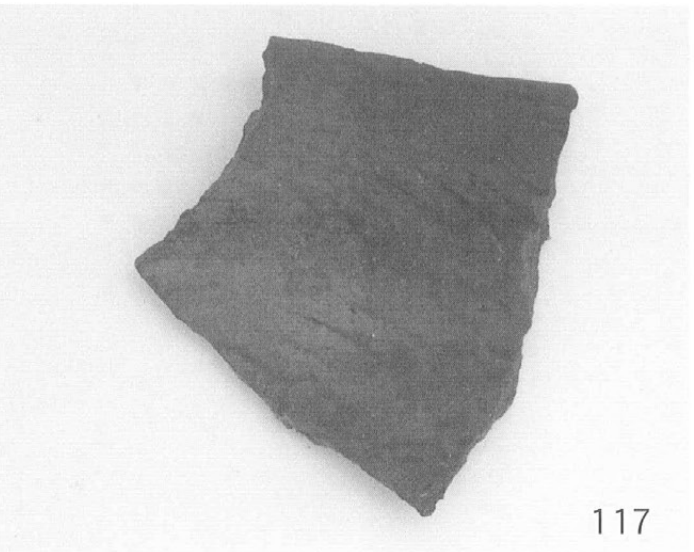
樹皮出土状況

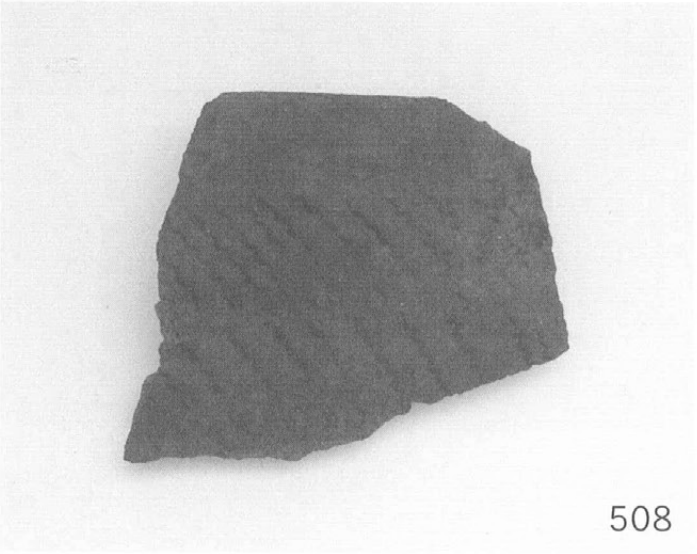
フイゴ羽口出土状況

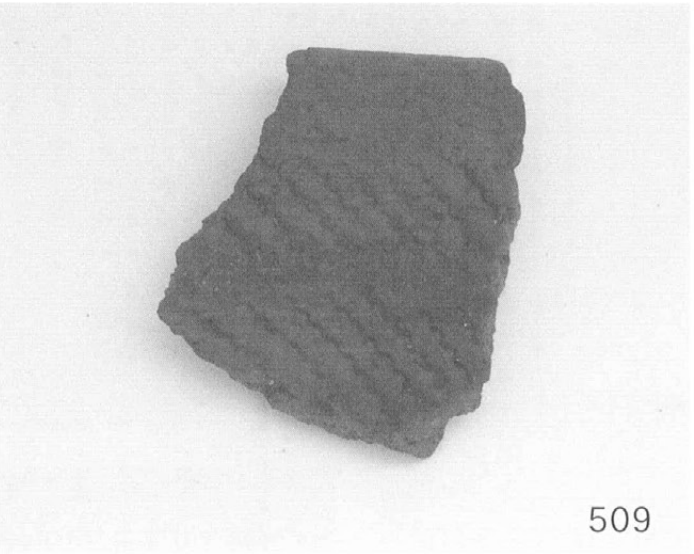

123

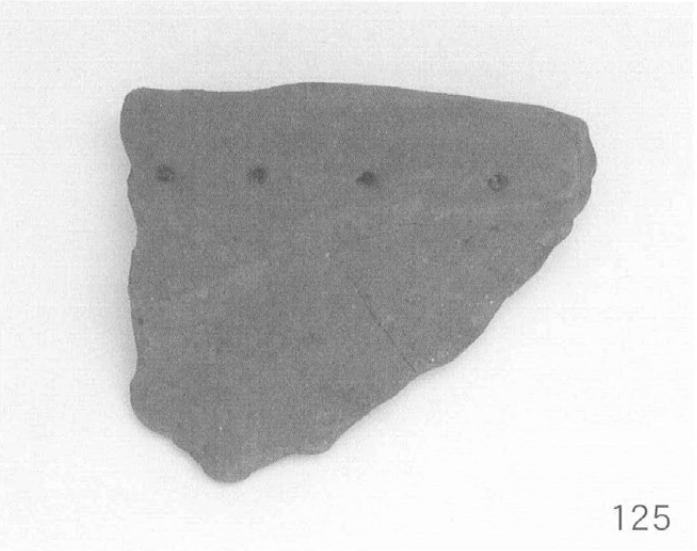

124


507


117

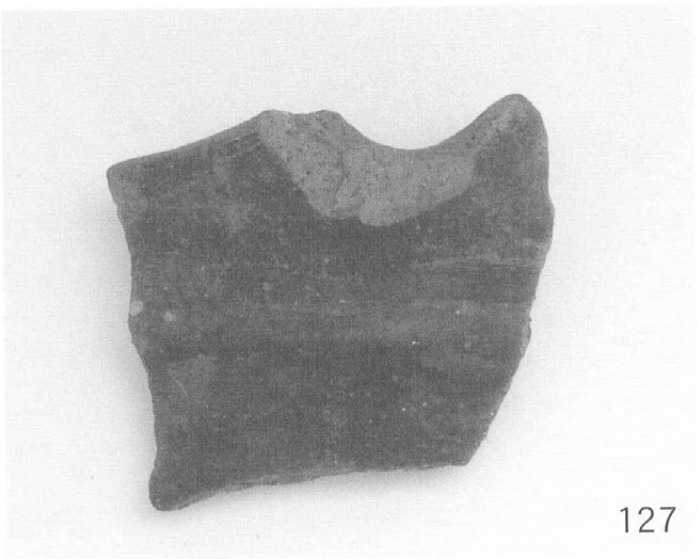

508

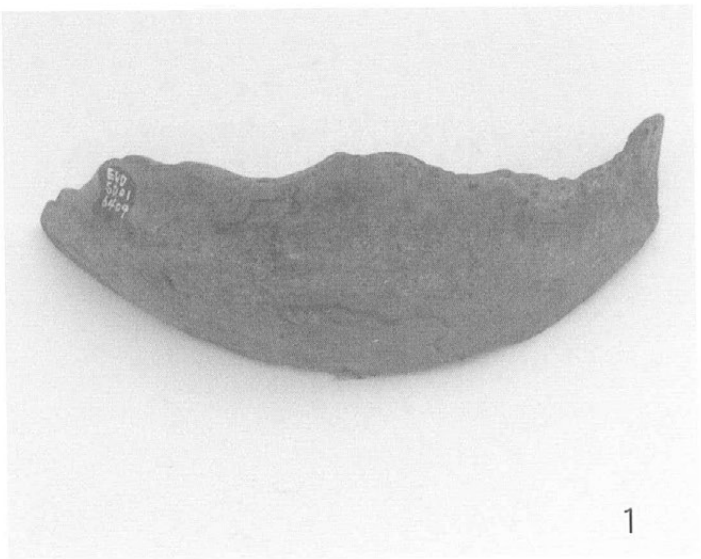

509

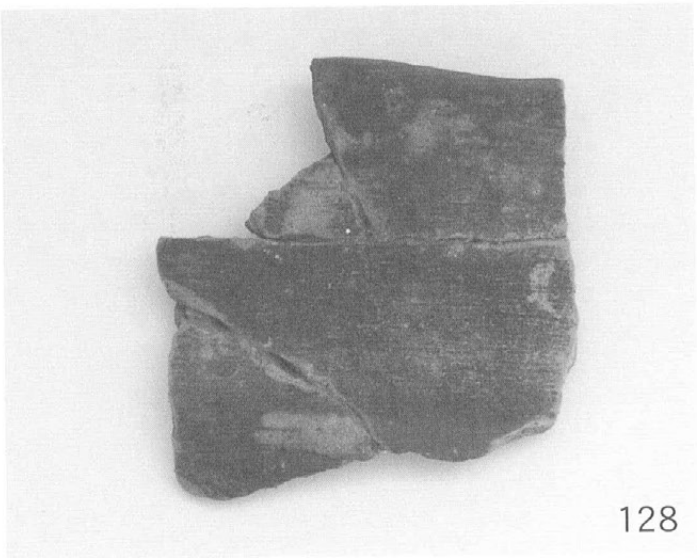

125

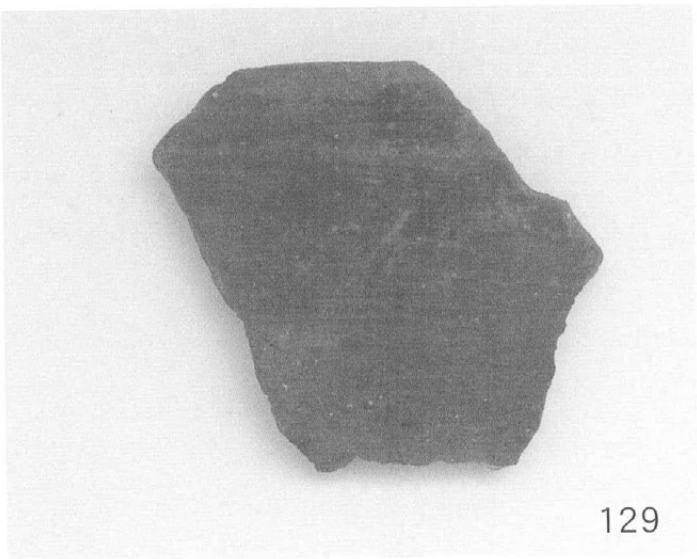
126

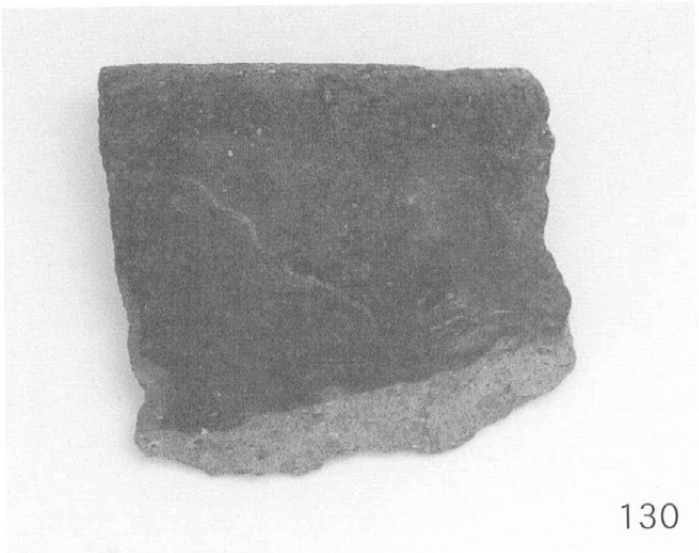
縄文土器


127

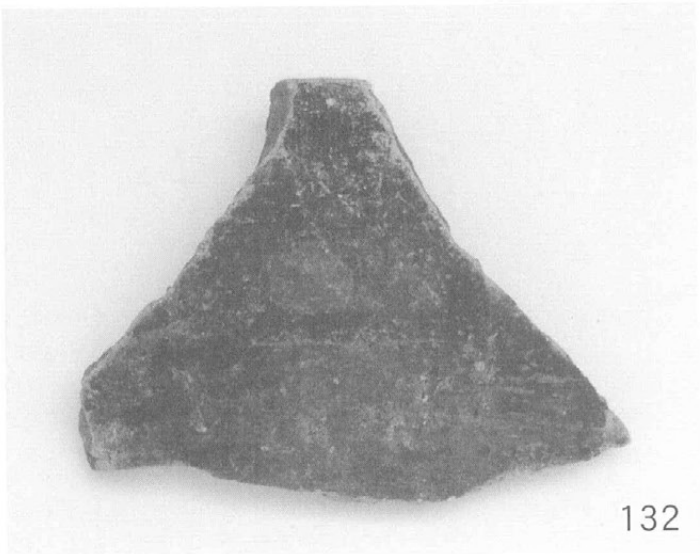

1


128


129

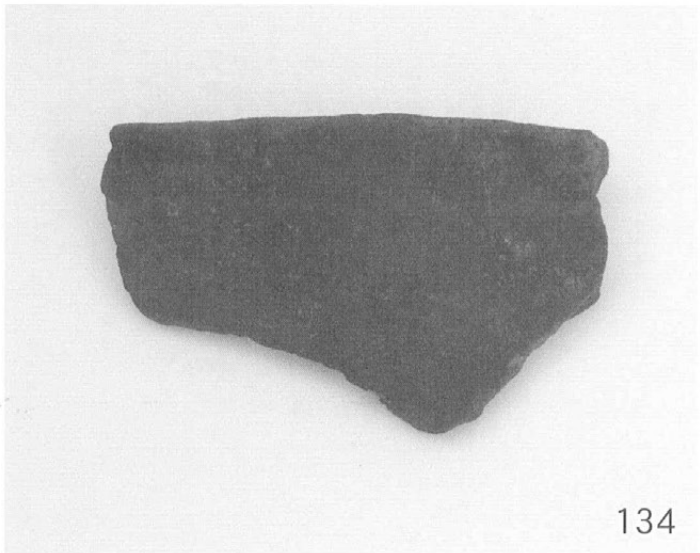

130

131

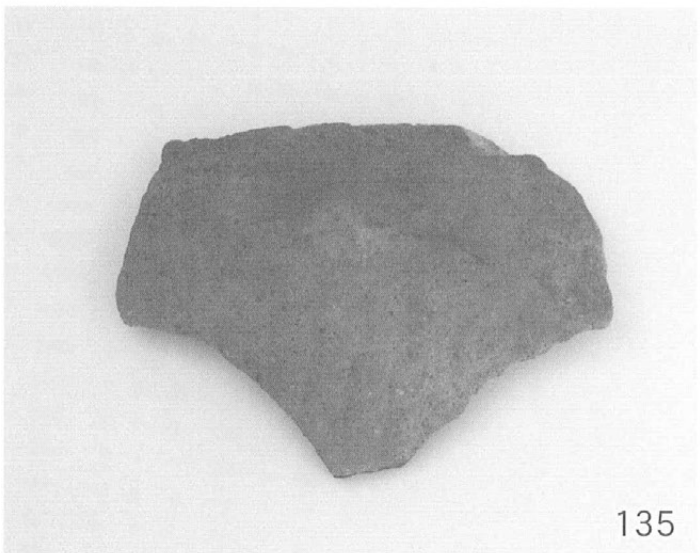

132

133

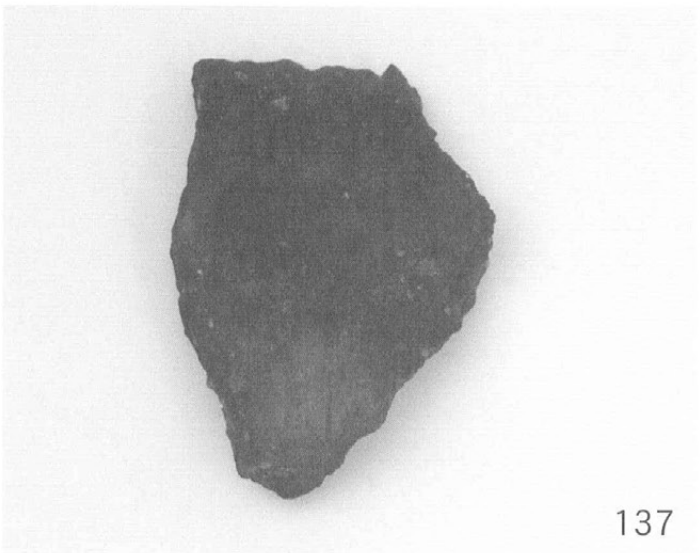
縄文土器


134

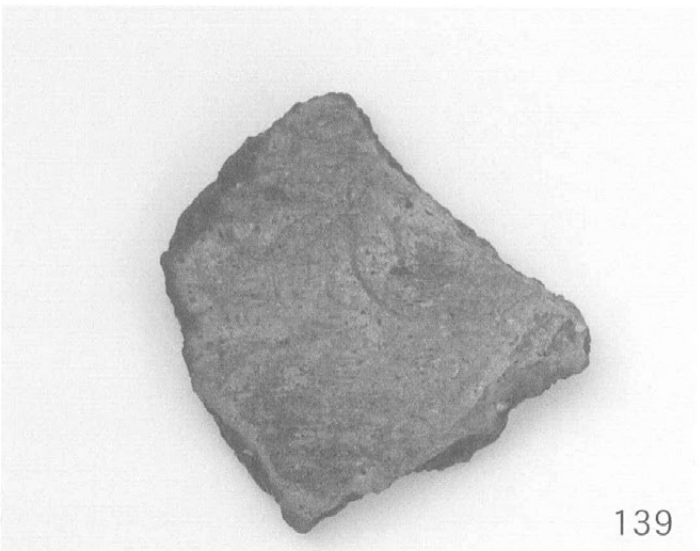
118

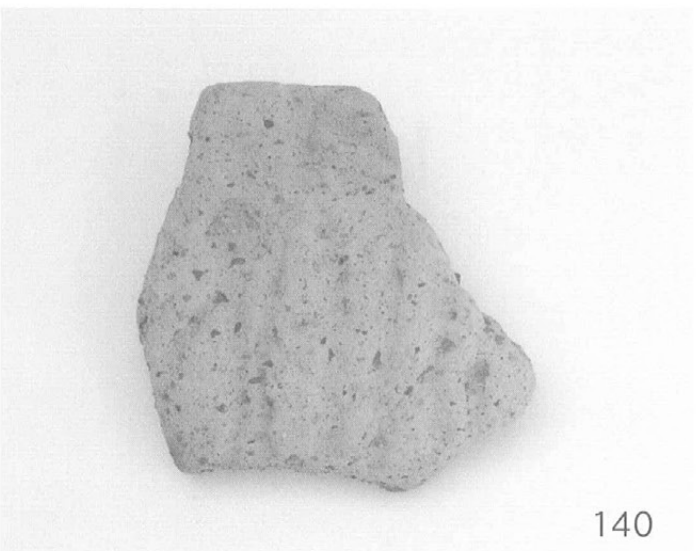

135

136

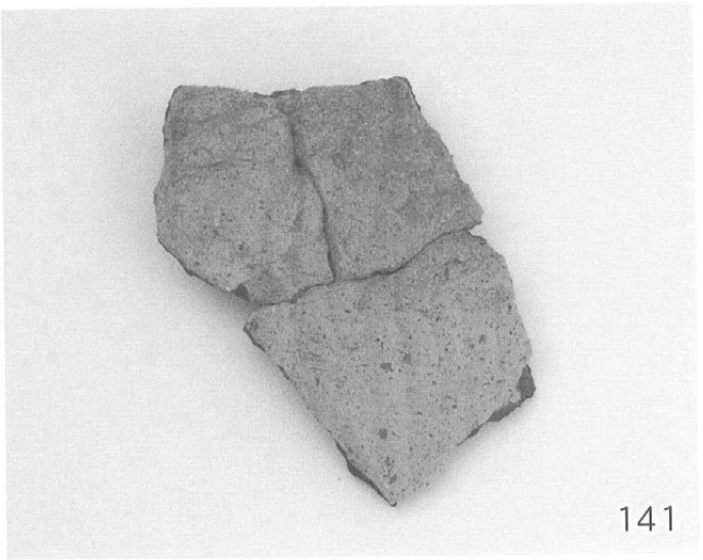

137

138


139


140

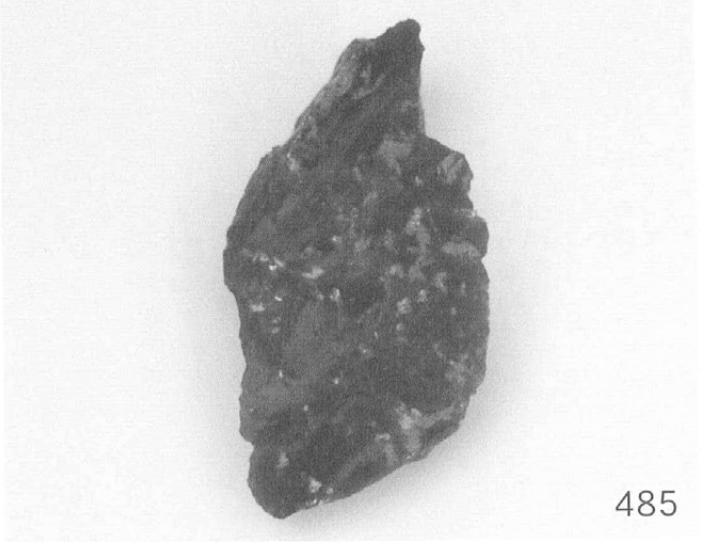
縄文土器

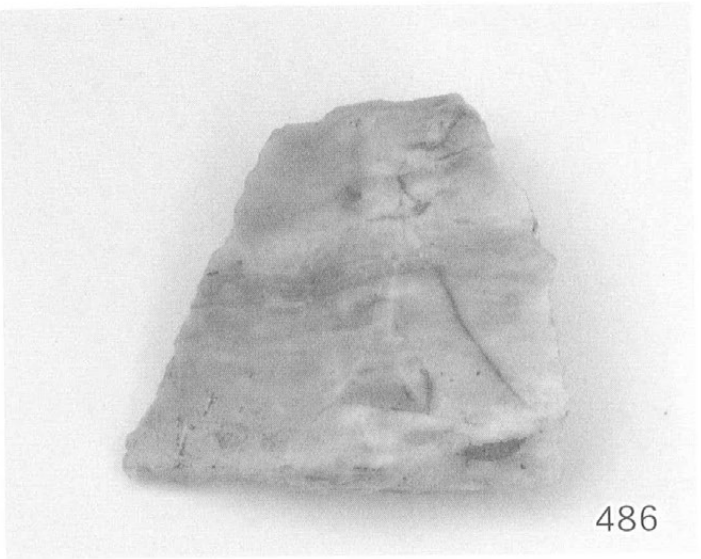

141

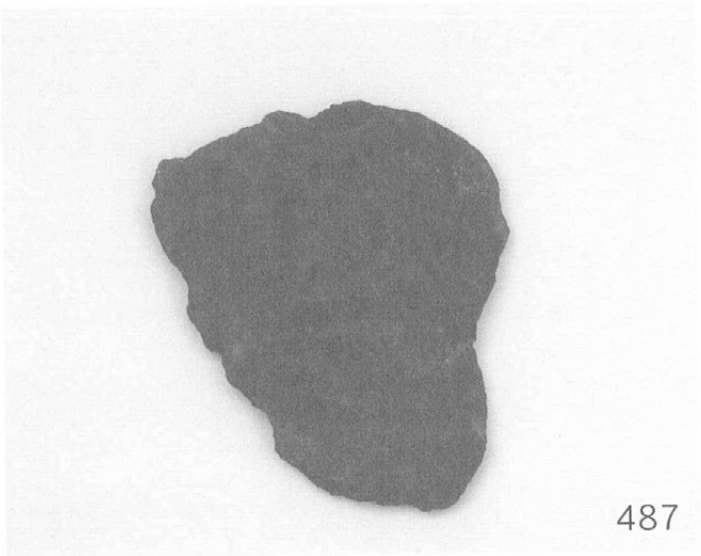
482

483

484

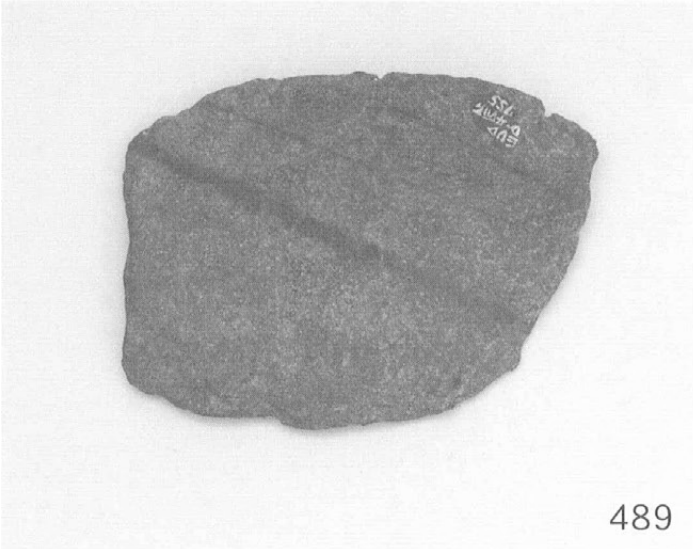

485

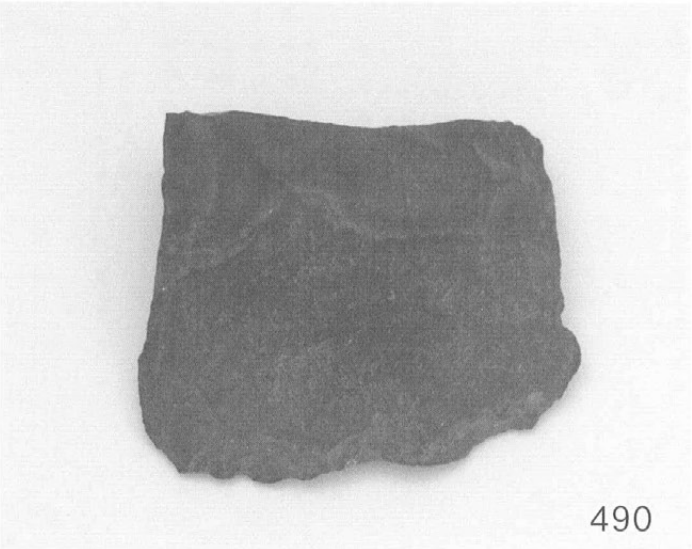

486

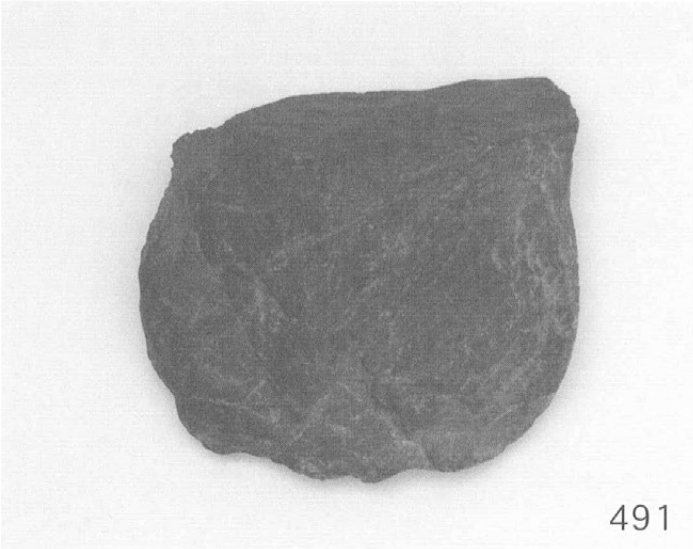

487

488

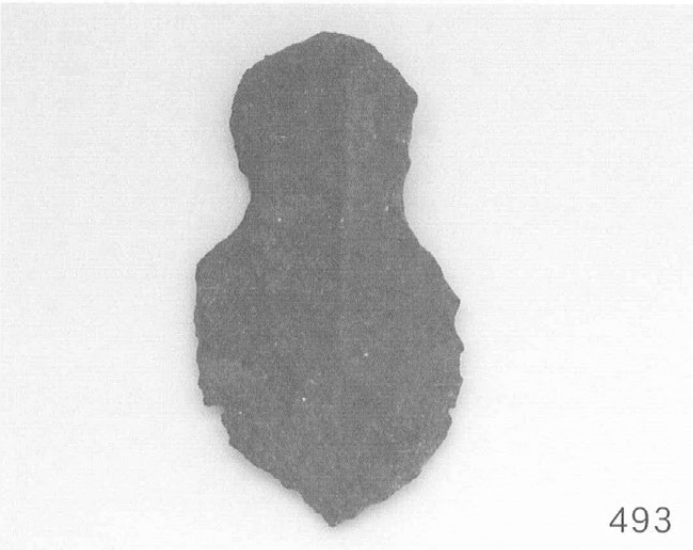
縄文土器・石器


489

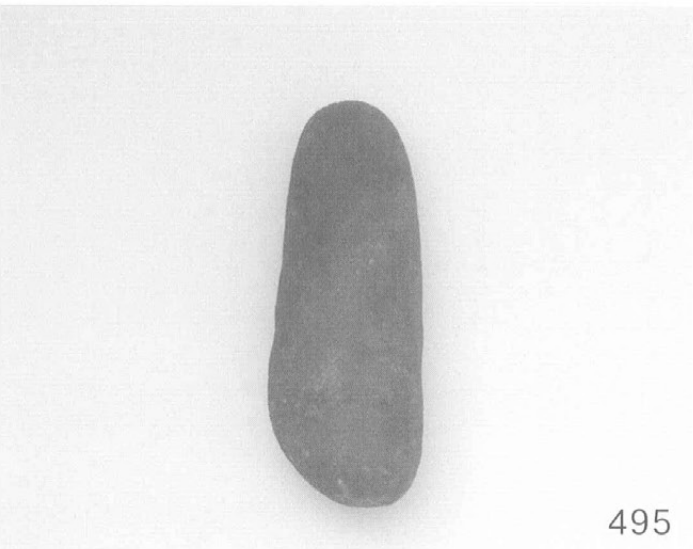

490


491

492

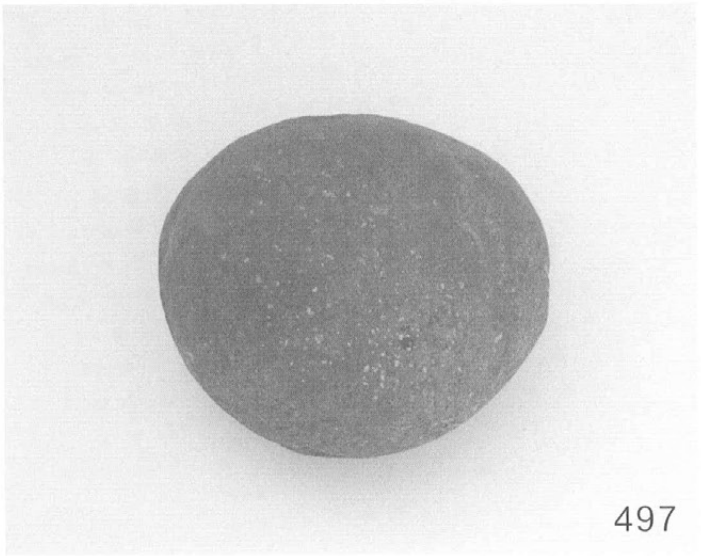

493

494

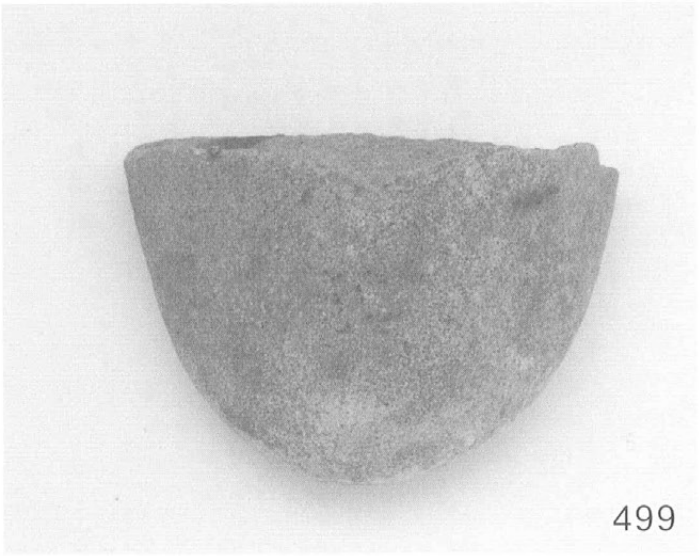

495

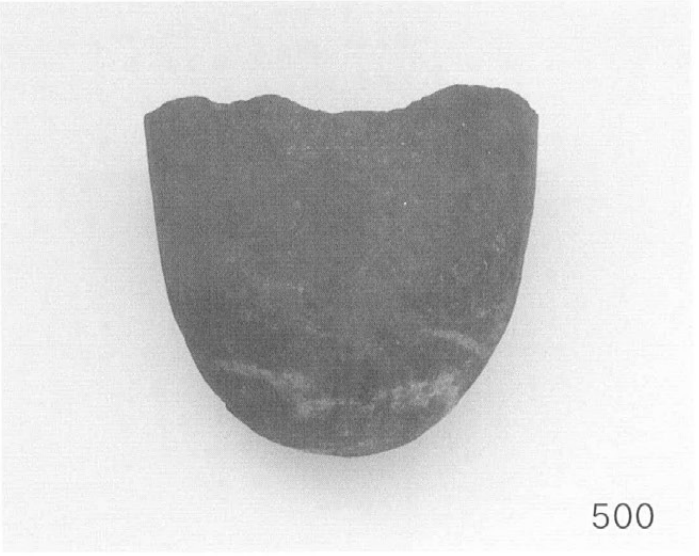
496

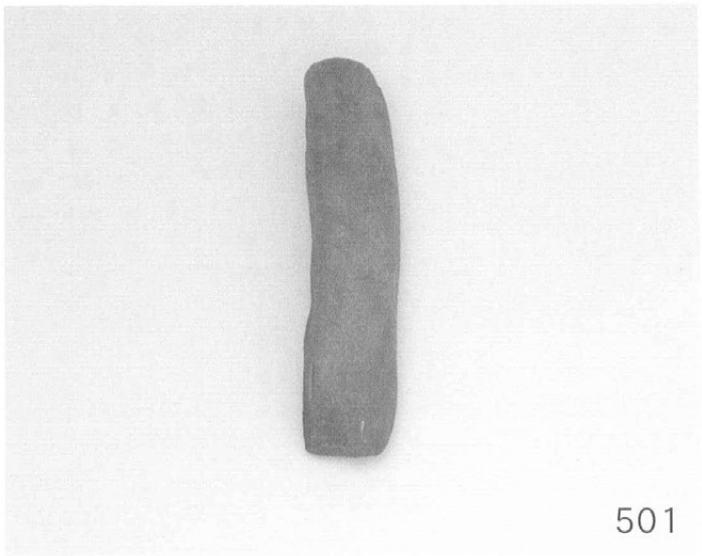
石器

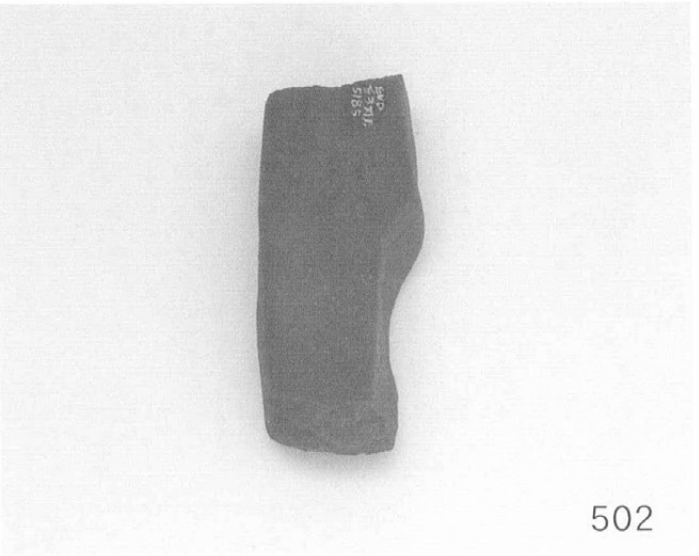

497

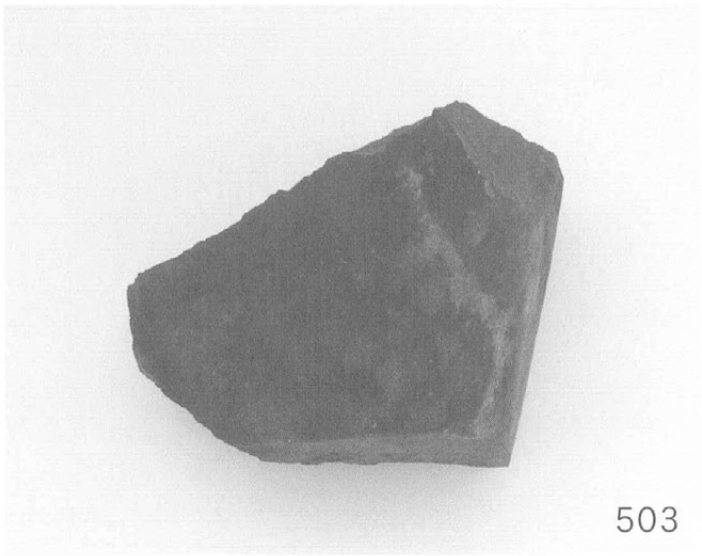
498

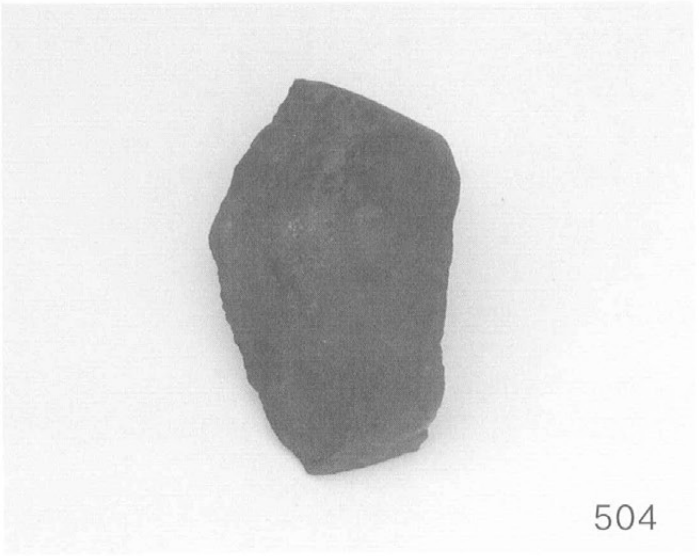

499


500

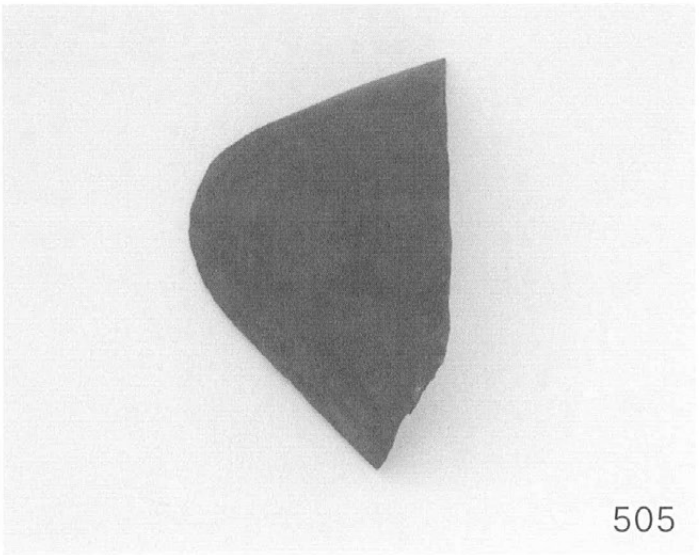

501

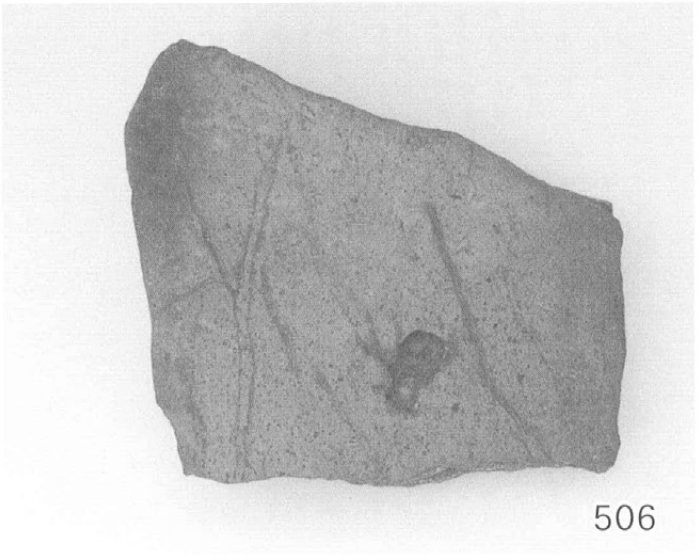

502


503


504

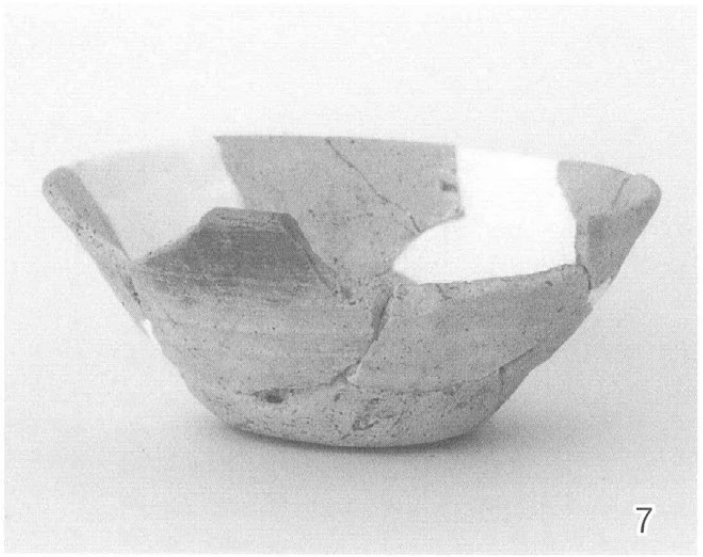
石器

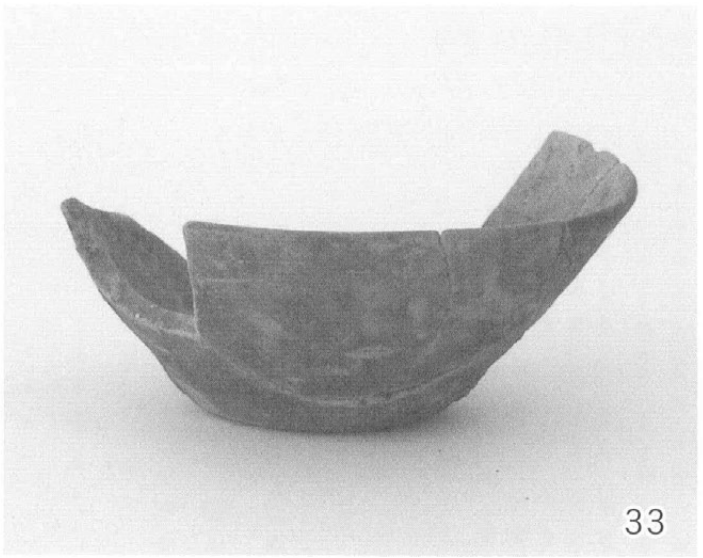


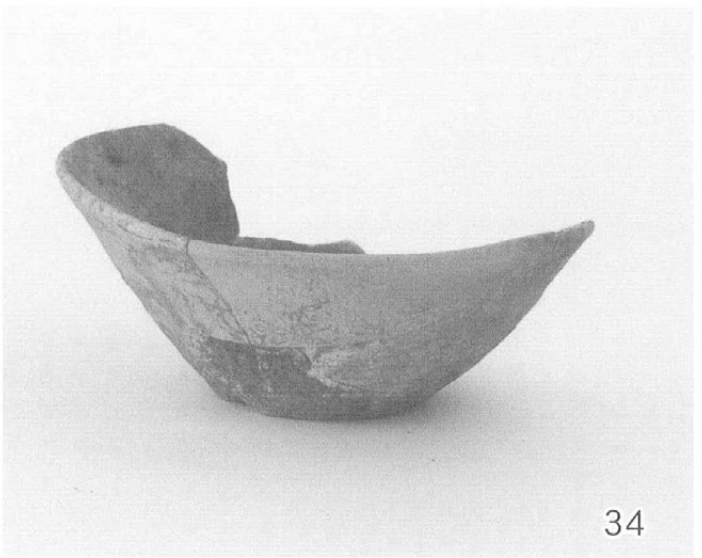


石器・土師器（坏）

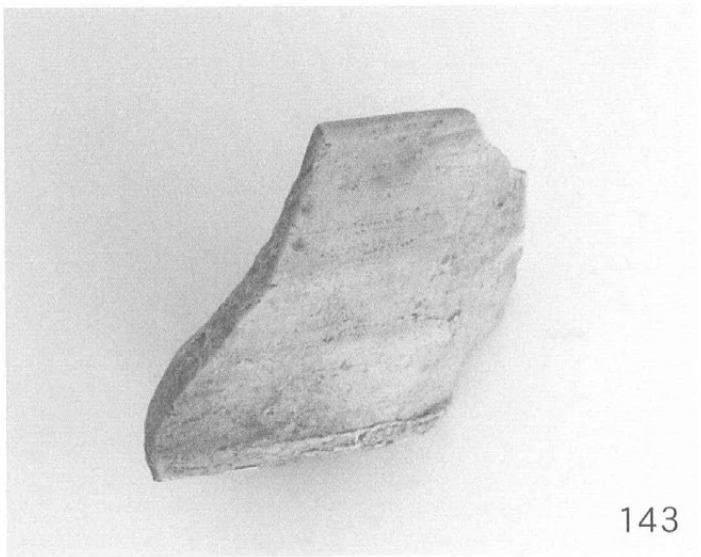
土師器（坏）

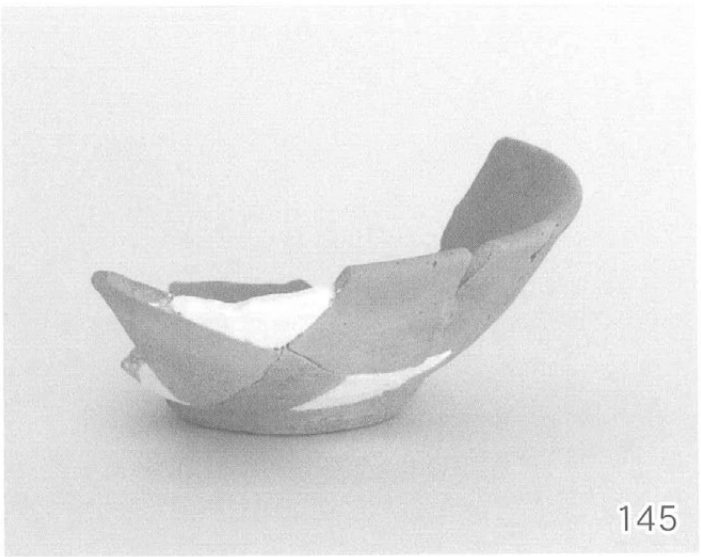




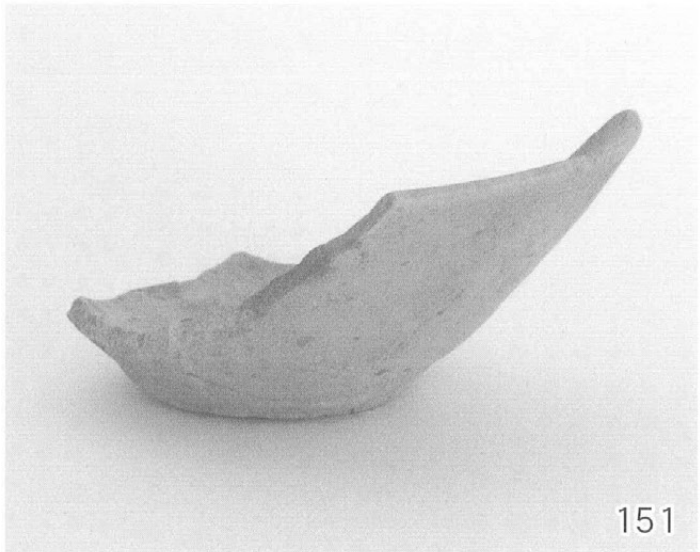


土師器（坏）

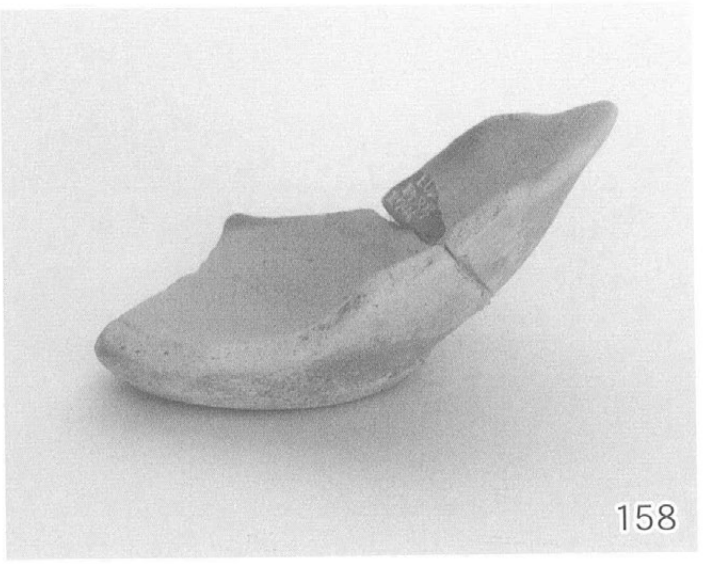




土師器（坏）



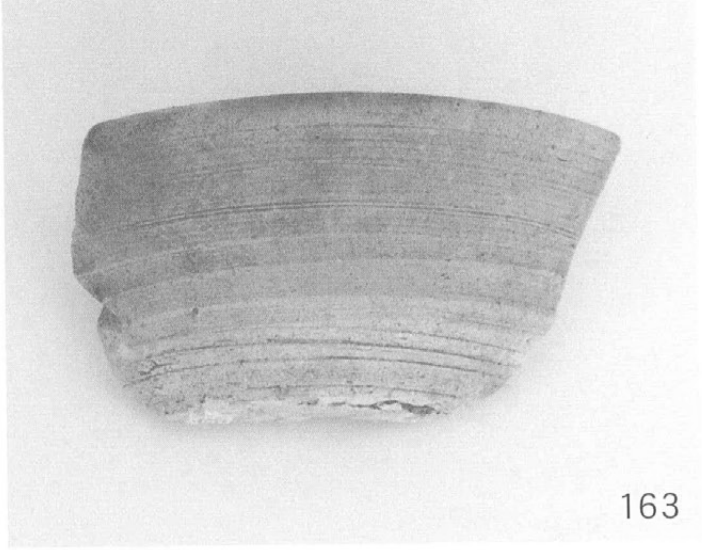
土師器（坏）


158

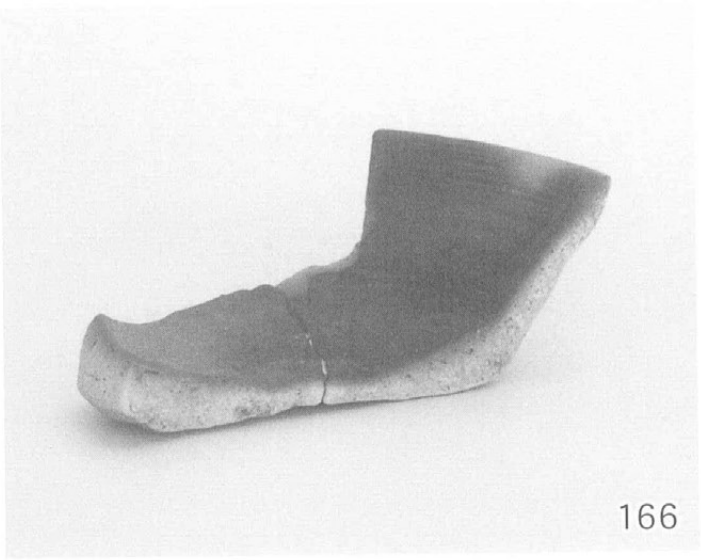
159

161

162

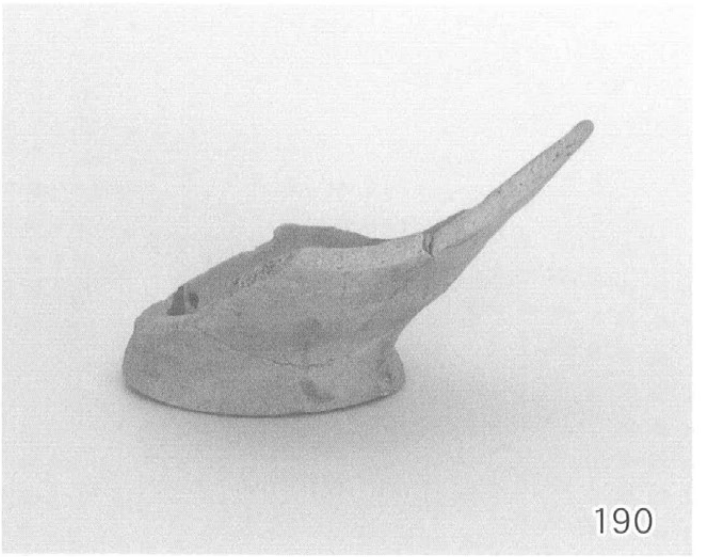

163

165


166

188

土師器（坏）



土師器（坏）

48

49

50

53

55

58

59

62

土師器（坏）